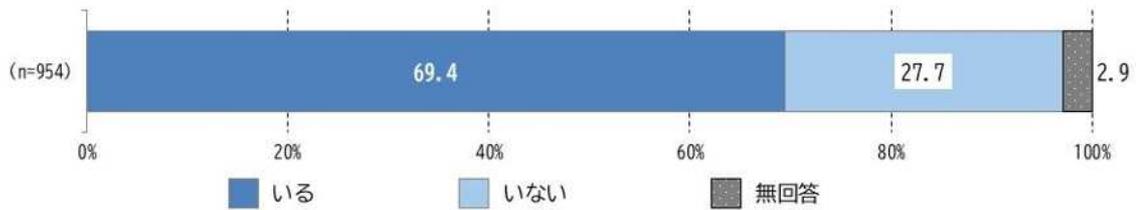
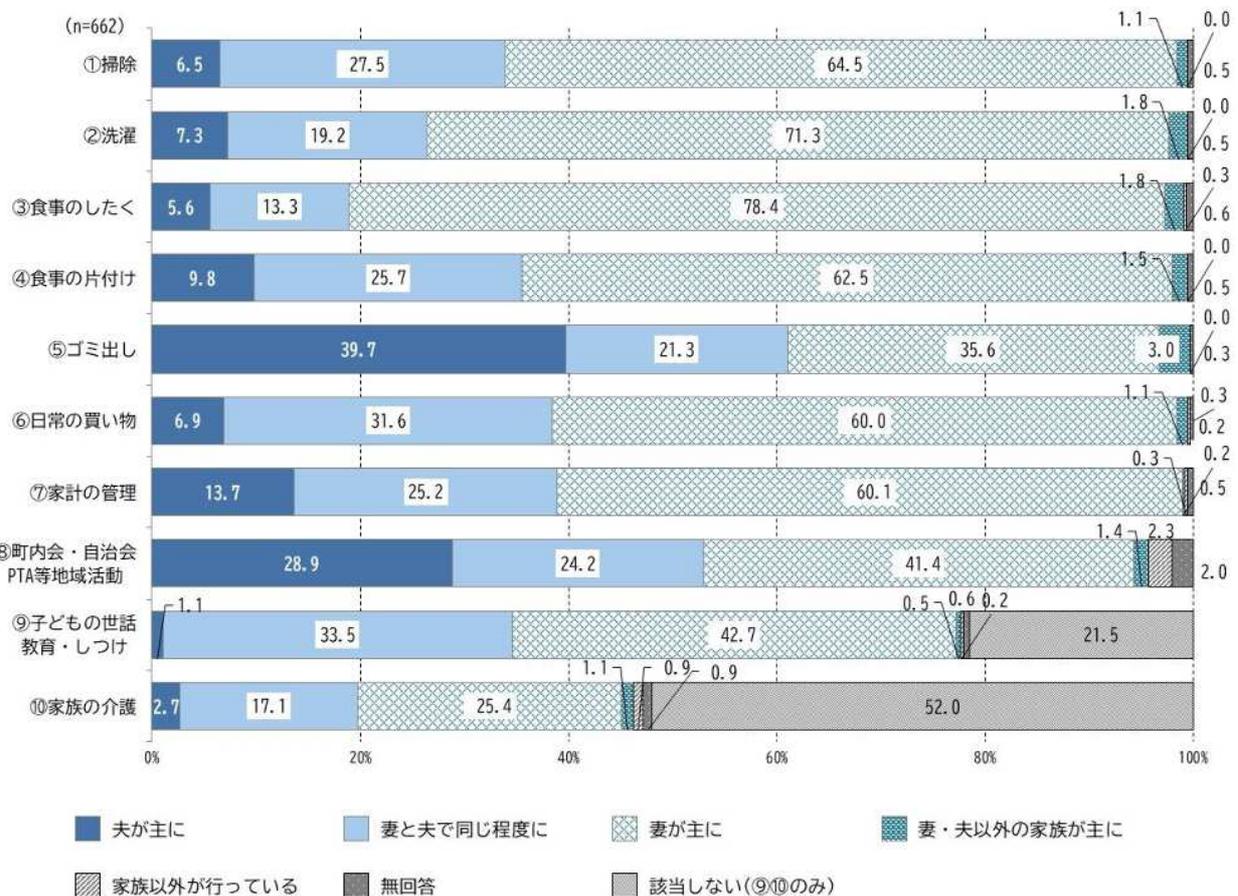


問9 現在、あなたには配偶者（夫または妻）・パートナー（事実上、婚姻関係と同様の事情にある者）がいますか。



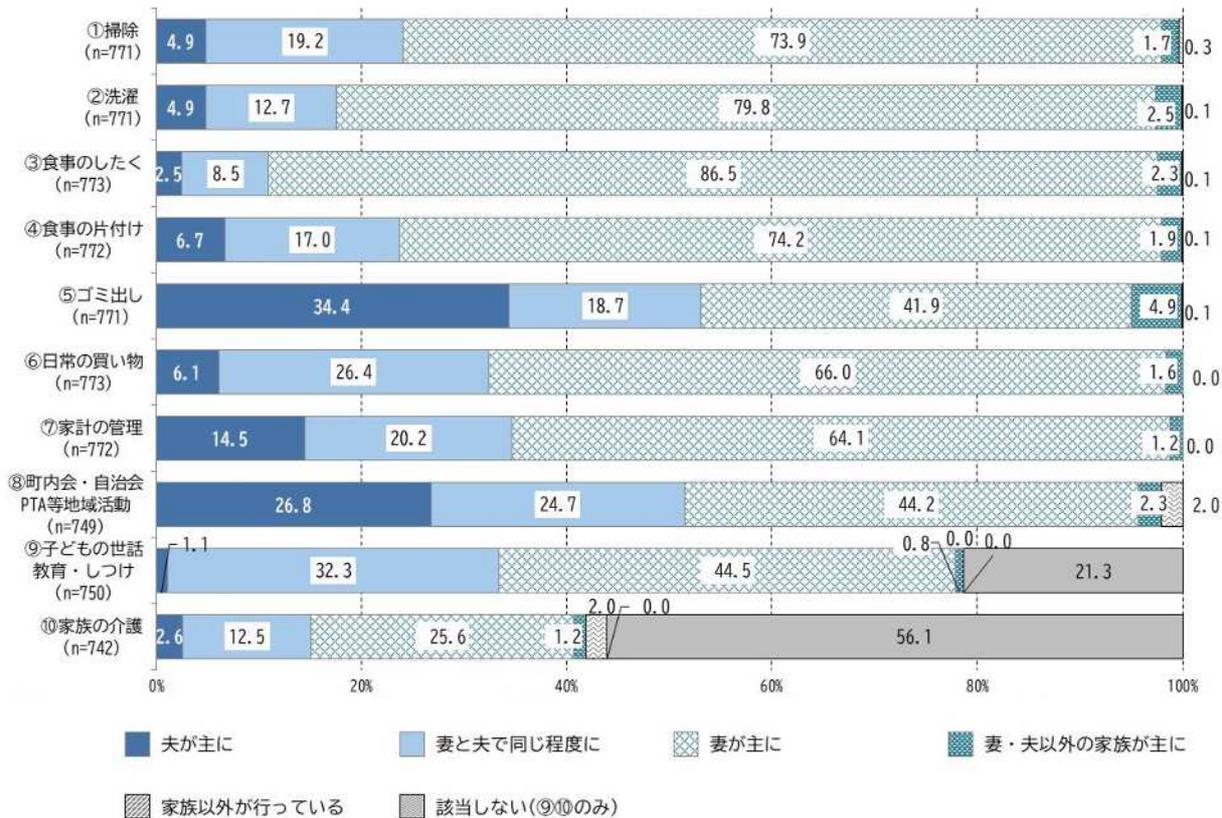
配偶者・パートナーの有無について、「いる」が69.4%、「いない」が27.7%となっている。

問10 問9で現在、配偶者・パートナーが「いる」と回答した方 次の①～⑩の項目において実際（現実）の分担はどうか。（○はそれぞれに1つだけ）

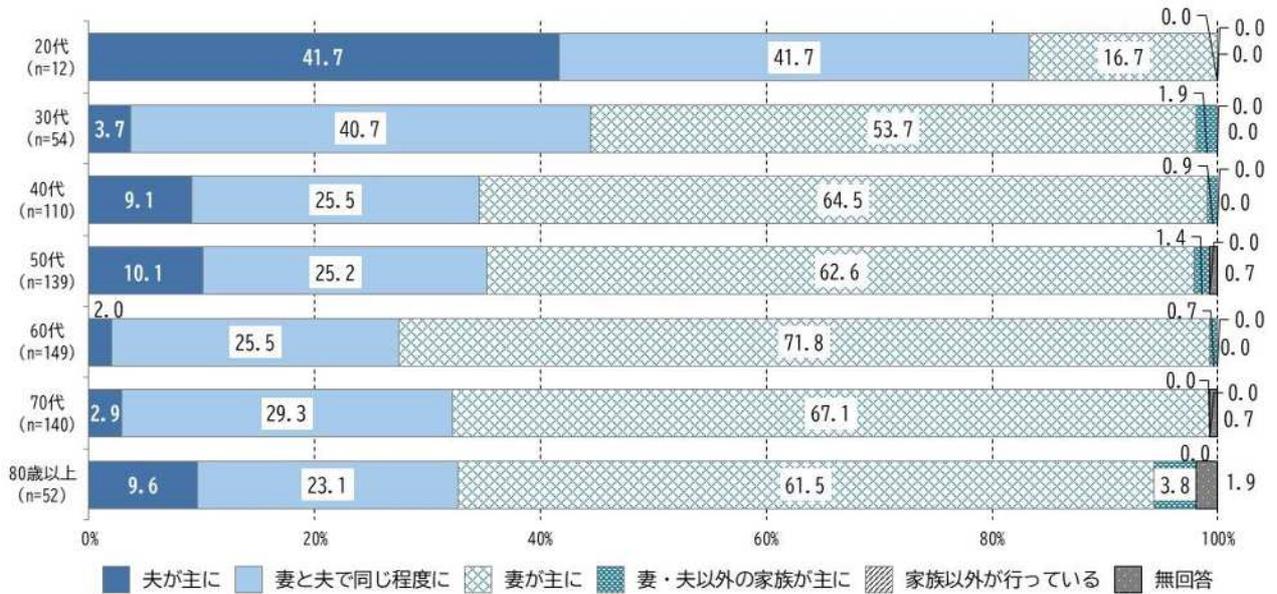


家庭での分担についてみると、「夫が主に担当している」との回答は「⑤ゴミ出し」(39.7%)が最も高く、次いで「⑧町内会・自治会・PTA等地域活動」(28.9%)となっている。「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は「⑨子どもの世話・教育・しつけ」(33.5%)、「⑥日常の買い物」(31.6%)で3割台となっている。一方、「妻が主に担当している」との回答は「③食事のしたく」(78.4%)、「②洗濯」(71.3%)で7割超、「①掃除」(64.5%)、「④食事の片付け」(62.5%)、「⑥日常の買い物」(60.0%)、「⑦家計の管理」(60.1%)で6割台となっている。

■参考：令和2年度調査結果の家庭での担当について【実際（現実）】



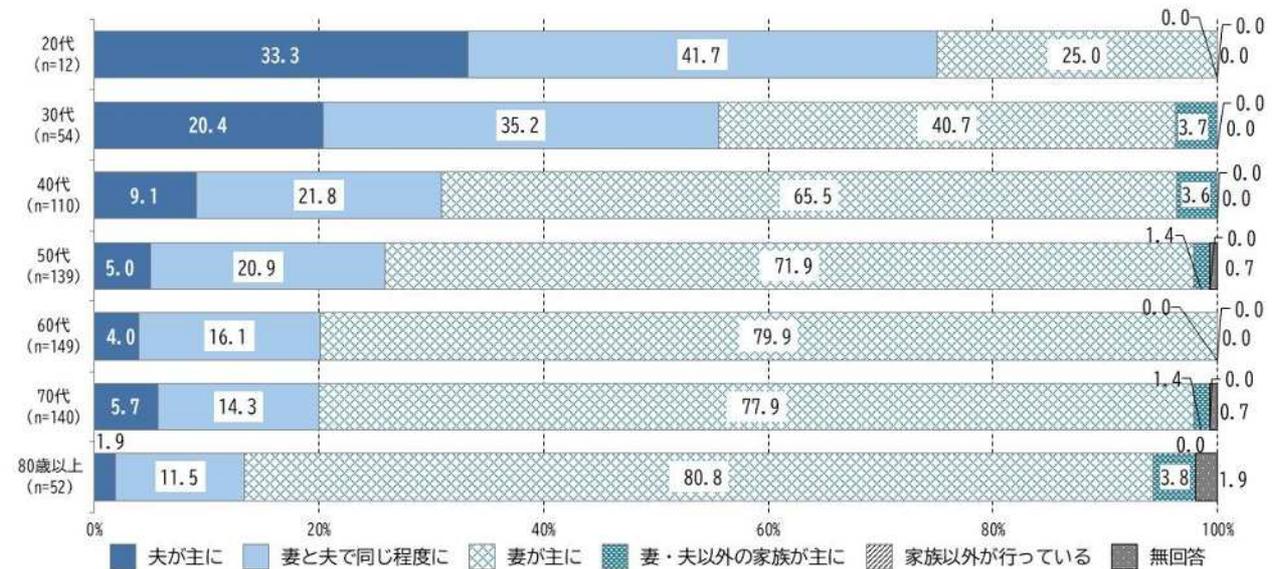
■①掃除 [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

掃除の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代で4割強（41.7%）と高い。一方、「妻が主に担当している」との回答は30代以降で5割超となり、特に60代で7割強（71.8%）と最も高い。

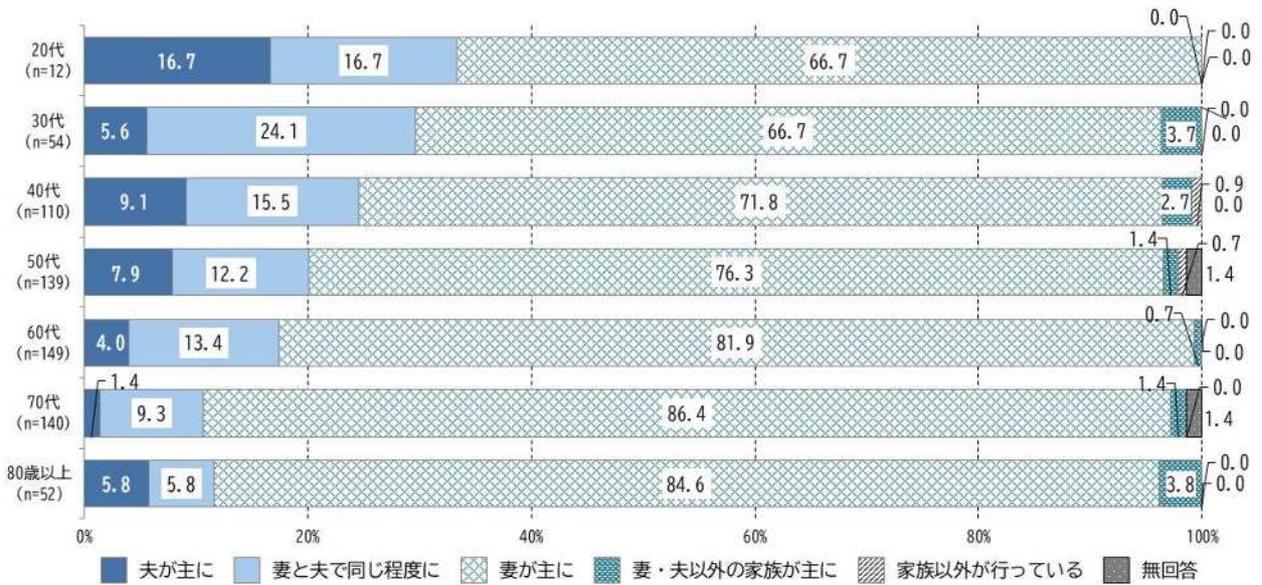
■②洗濯 [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

洗濯の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代で4割強（41.7%）と高い。一方、「妻が主に担当している」との回答は年代が上がるほど高くなる傾向がみられ、60代以降で8割前後となっている。

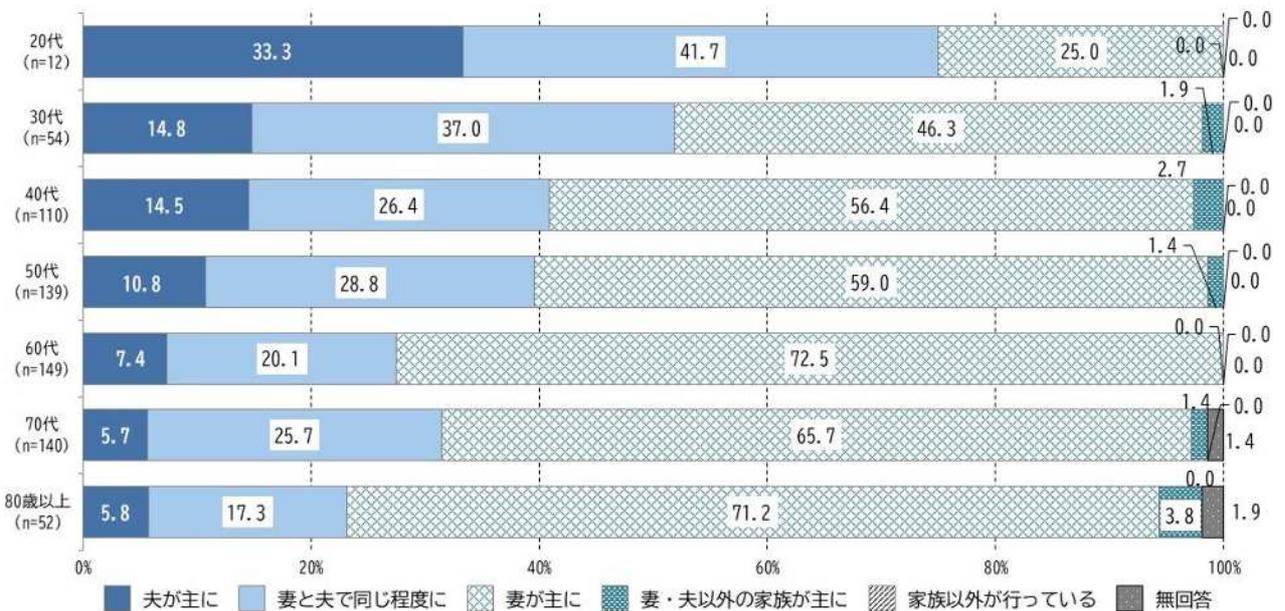
■③食事のしたく [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

食事のしたくの担当について、年代別にみると、いずれの年代においても「妻が主に担当している」との回答が最も高く、40代以降は7割超となり、60代で8割台前半(81.9%)、70代超で8割台半ば(86.4%)と高い割合を占めている。

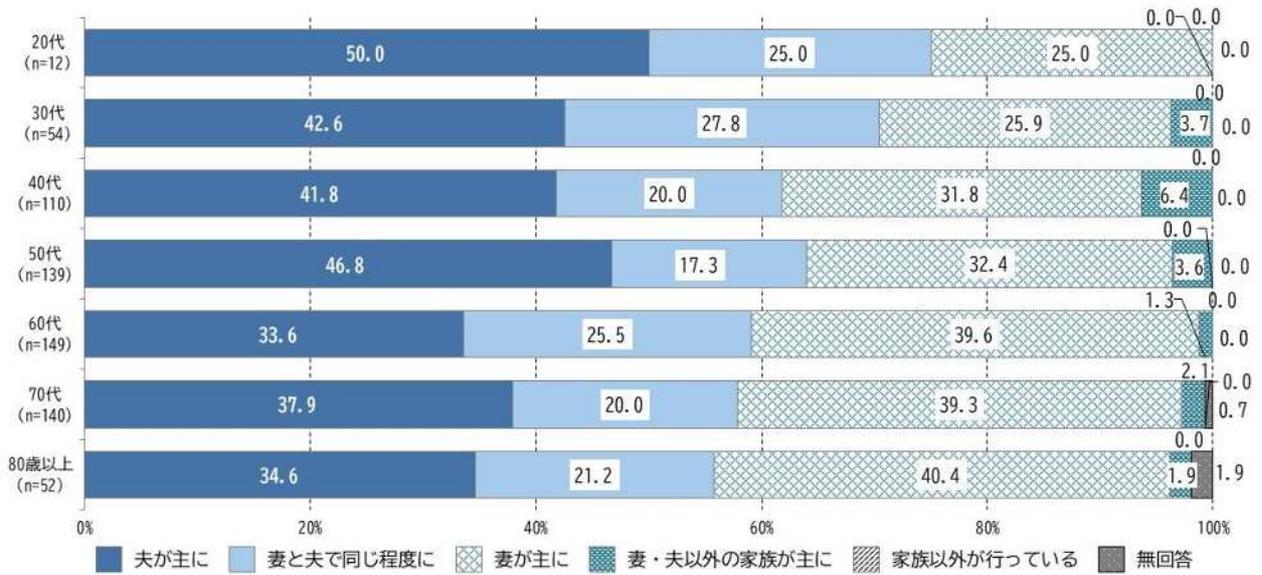
■④食事の片付け [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

食事の片付けの担当について、年代別にみると、20代では「妻と夫で同じ程度に分担している」(41.7%)が最も高く、「夫が主に担当している」(33.3%)も他年代に比べ高い。30代以降は「妻が主に担当している」が最多となり、40代以上では過半数を占めており、特に60代(72.5%)や80歳以上(71.2%)で7割超となっている。

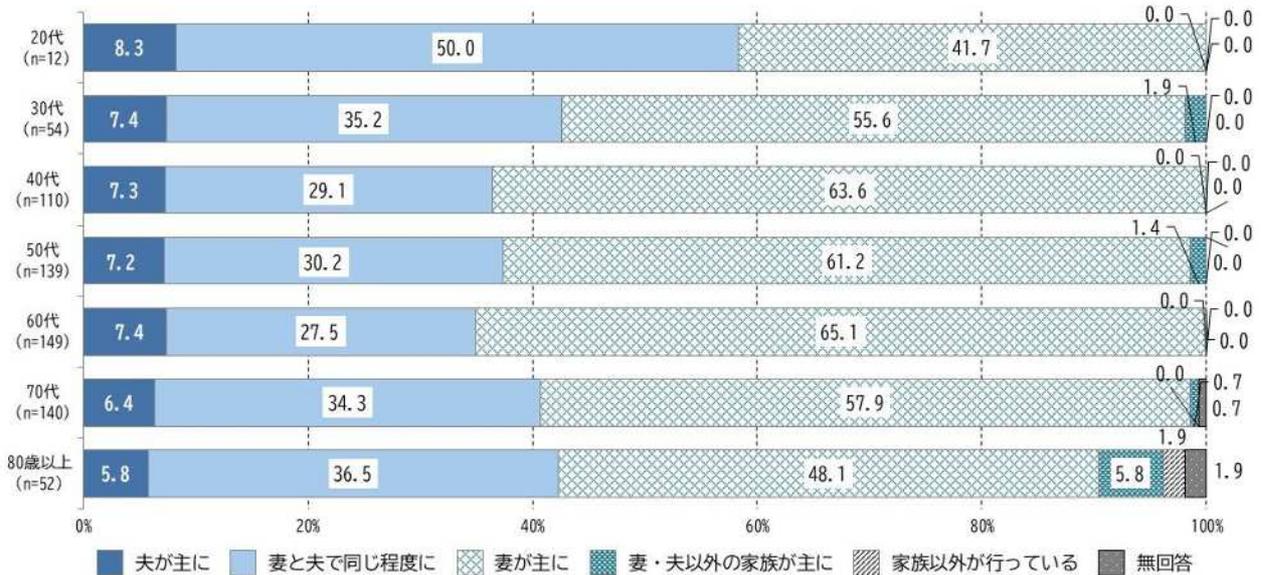
■⑤ゴミ出し [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

ゴミ出しの担当について、年代別にみると、「夫が主に担当している」との回答は各年代で最も高く、20代(50.0%)が5割と最も高い。一方、「妻が主に担当している」との回答は年代が上がるにつれて増加し、60代(39.6%)、70代(39.3%)、80歳以上(40.4%)で4割前後となっている。

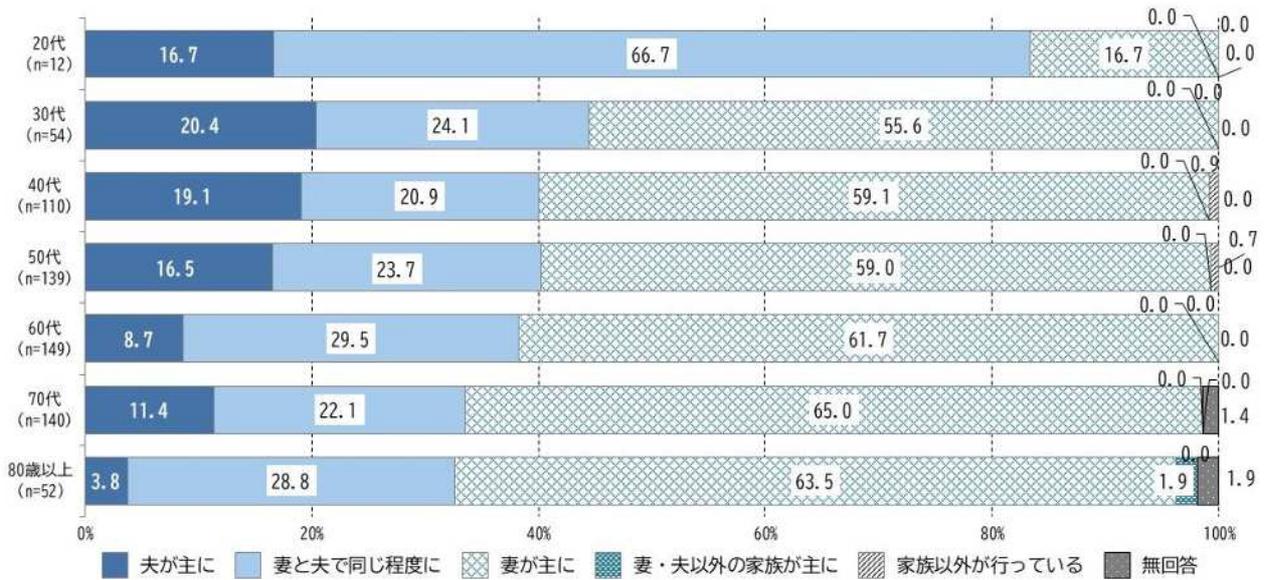
■⑥日常の買い物 [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

日常の買い物の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代(50.0%)が5割と最も高く、30代~80歳以上は3割前後となっている。一方、「妻が主に担当している」との回答はいずれの年代でも高く、特に40代(63.6%)、50代(61.2%)、60代(65.1%)で6割台となっている。

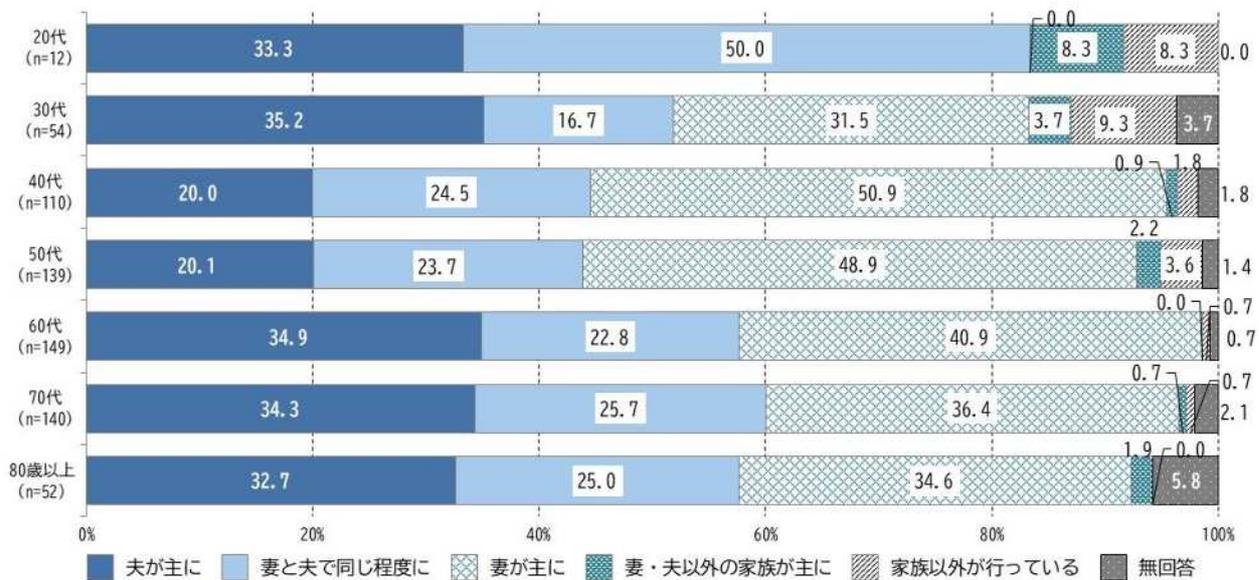
■⑦家計の管理 [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

家計の管理の担当について、年代別にみると、「妻が主に担当している」との回答はいずれの年代でも最も高く、30代(55.6%)から80歳以上(63.5%)では5割台半ばから6割台となっている。一方、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代が66.7%と高いが、ほかの年代は20%台で大きな差はみられない。

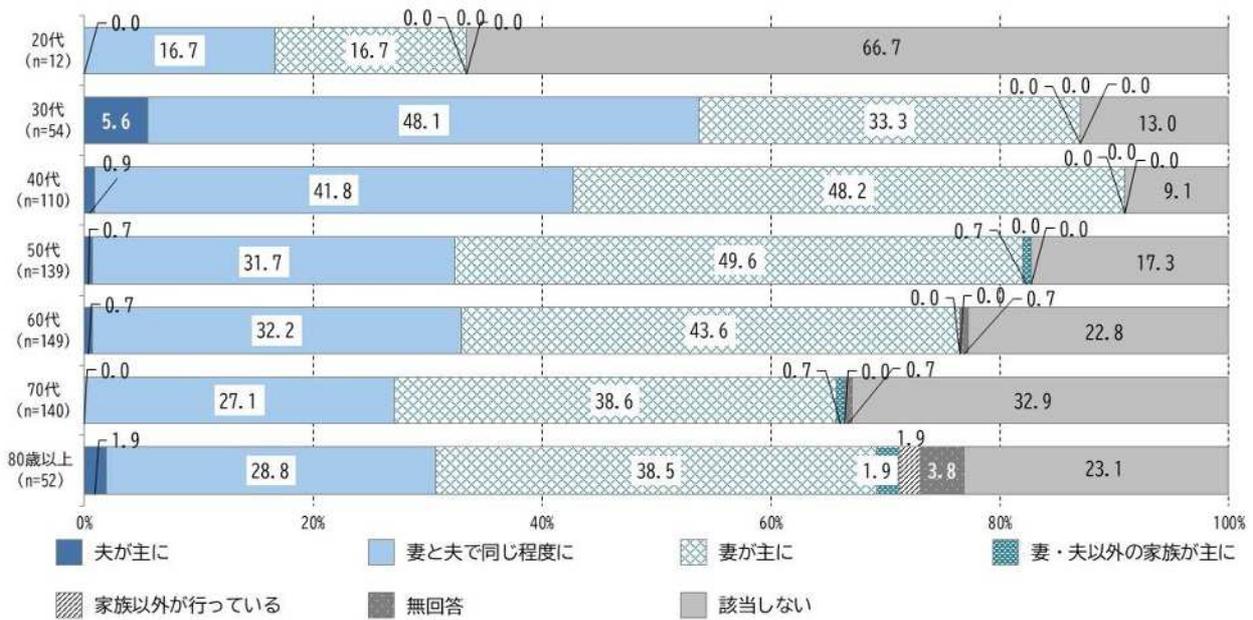
■⑧町内会・自治会・PTA等地域活動 [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

町内会・自治会・PTA等地域活動の担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は20代(50.0%)が最も高い。一方、「妻が主に担当している」との回答は40代(50.9%)が最も高く、次いで50代(48.9%)となっている。また、「夫が主に担当している」との回答は30代(35.2%)、60代(34.9%)、70代(34.3%)、80歳以上(32.7%)で3割台となっている。

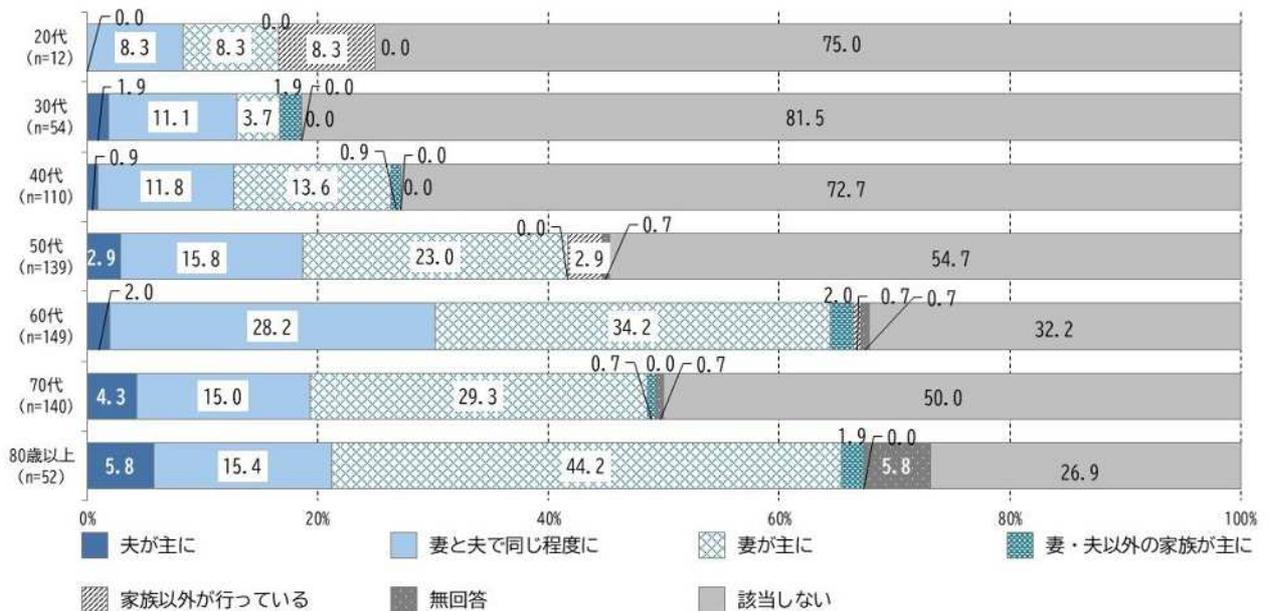
■⑨子どもの世話・教育・しつけ [実際 (現実)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

子どもの世話・教育・しつけの担当について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担している」との回答は30代（48.1%）が最も高く、40代（41.8%）が続いている。一方、「妻が主に担当している」との回答は40代（48.2%）・50代（49.6%）で5割前後となっている。

■⑩家族の介護 [実際 (現実)] (年代別)

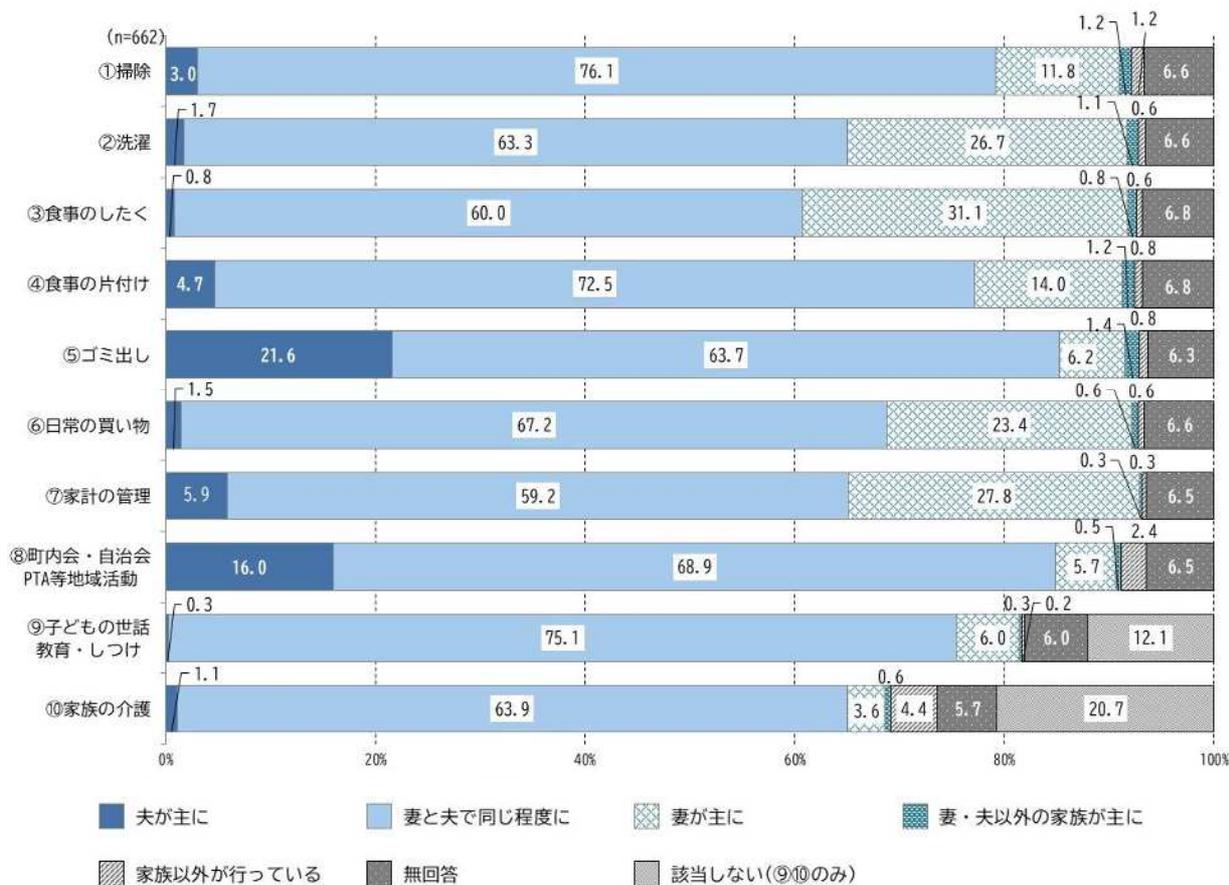


※20歳未満は該当者なし

家族の介護の担当について、年代別にみると、「妻が主に担当している」との回答は80歳以上（44.2%）が最も高く、60代（34.2%）、70代（29.3%）が続いている。

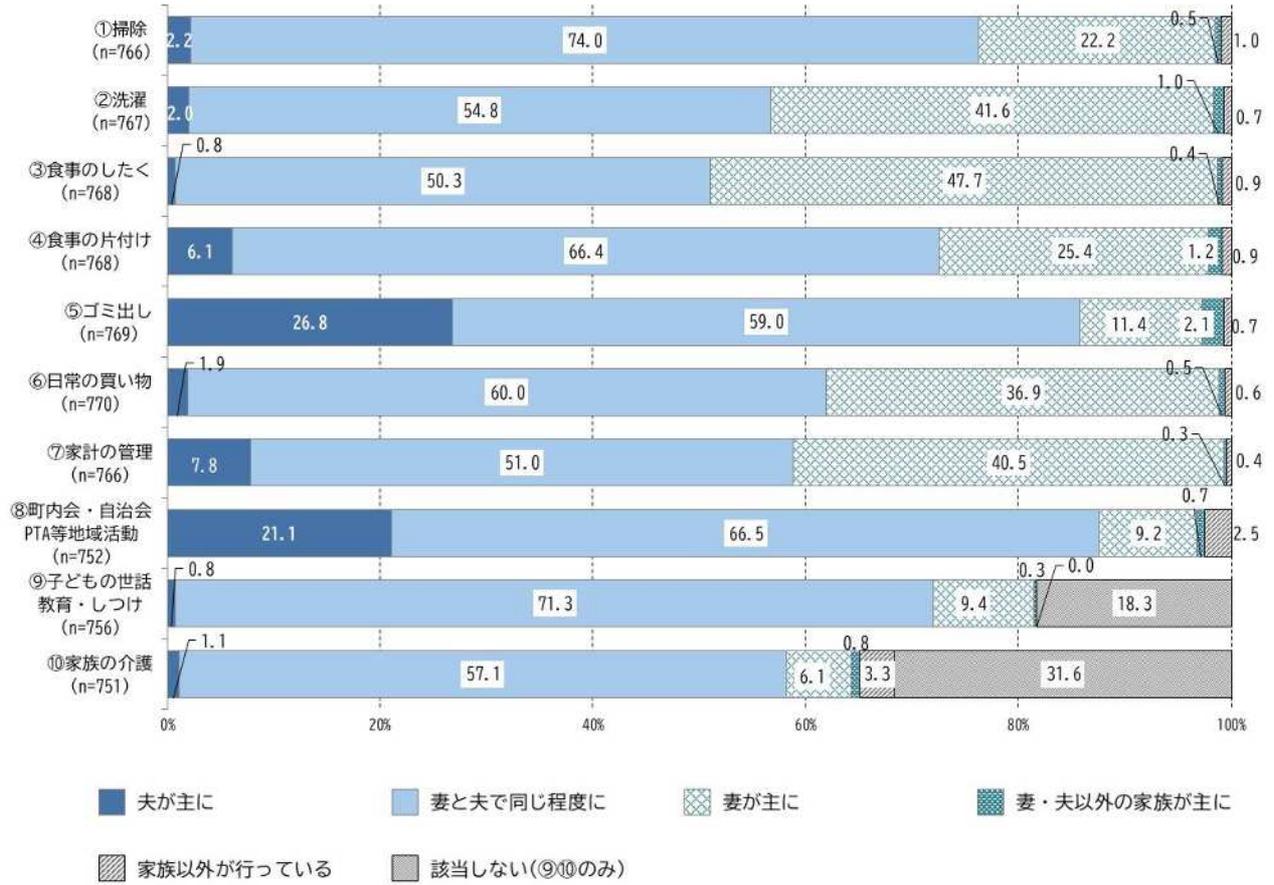
問11 あなたの希望（理想）は、次の①から⑩の項目について、どのように分担するのがよいと思いますか。（○はそれぞれに1つだけ）

※問9で現在配偶者、パートナーが「いる」と回答した方で集計

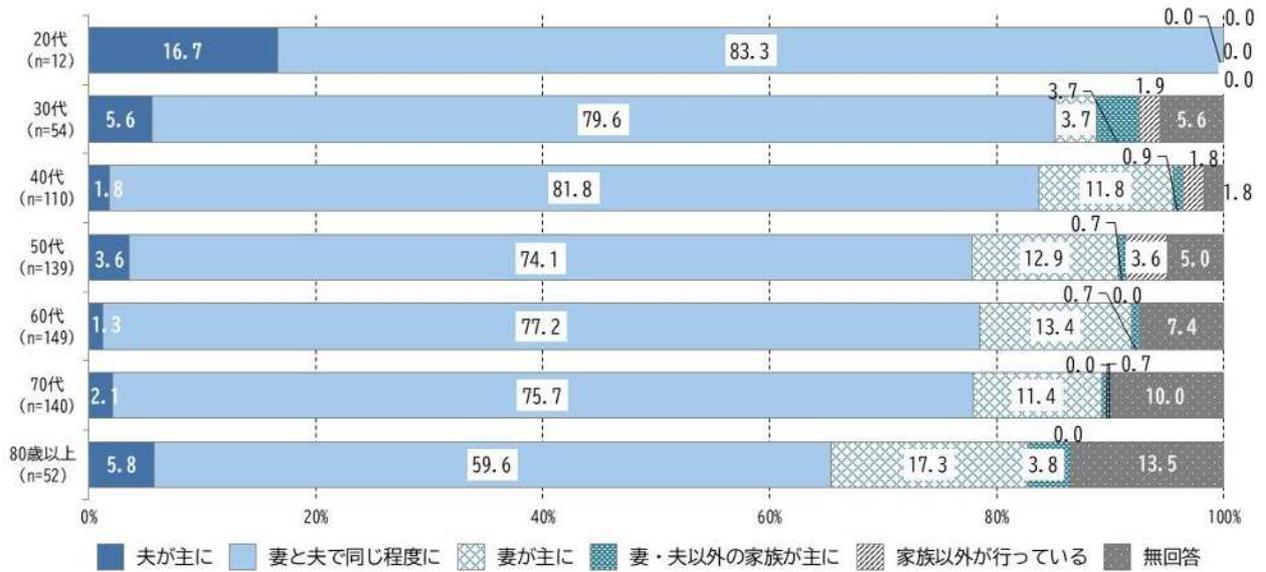


家庭での希望（理想）の分担についてみると、「妻と夫で同じ程度に」との回答は「①掃除」、「③食事の片づけ」、「⑨子どもの世話・教育・しつけ」で7割強と高くなっている。一方、「夫が主に担当している」との回答は「⑤ゴミ出し」で21.6%、「⑧町内会・自治会・PTA等地域活動」で16.0%となっており、「妻が主に担当している」との回答は「③食事のしたく」で31.1%、「⑦家計の管理」で27.8%、「②洗濯」で26.7%となっている。

■参考：令和2年度調査の家庭での担当について [希望（理想）]



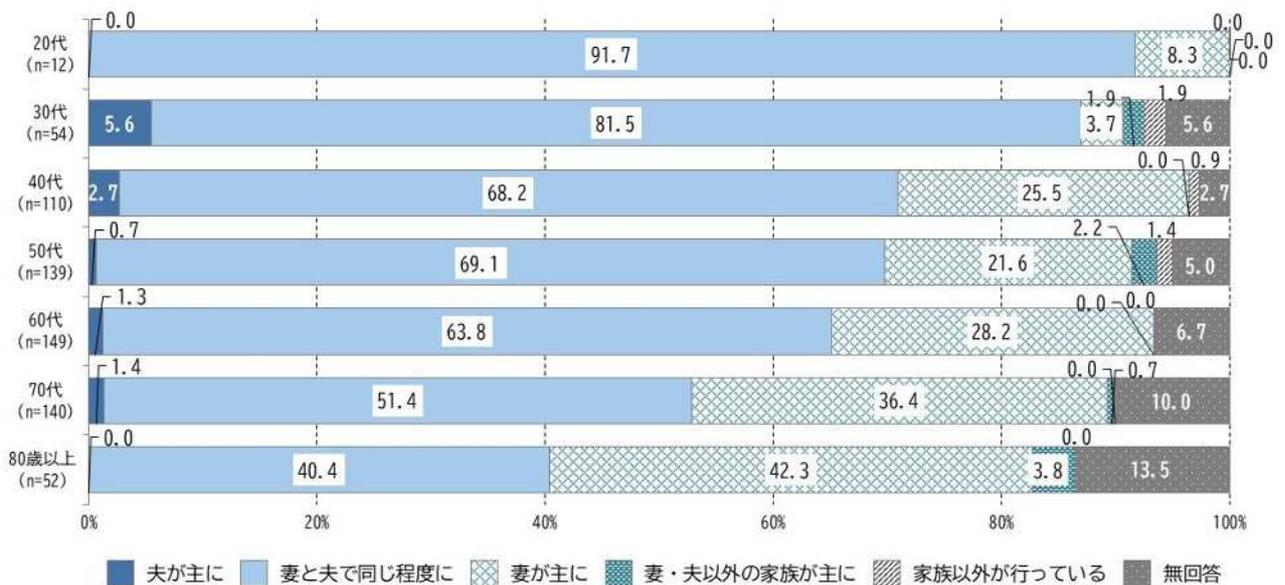
■①掃除[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

掃除での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は 20代～40代で8割、50代～70代で7割台半ばとなっている。

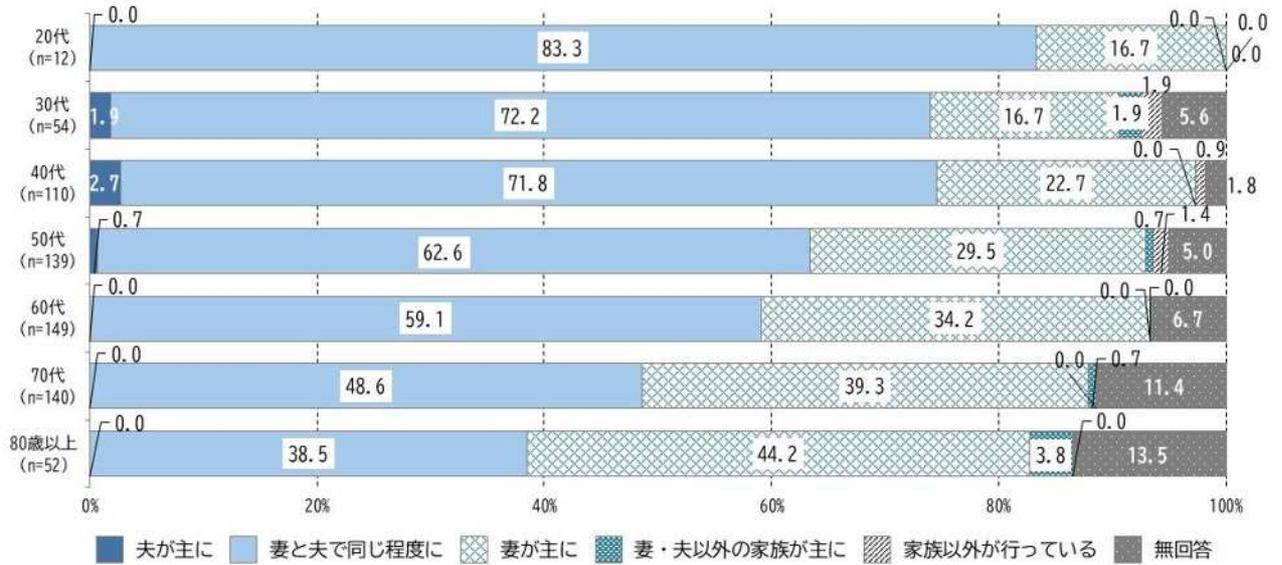
■②洗濯[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

洗濯での理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は 20代～30代で8割以上と高く、40代～60代でも6割台となっている。一方、「妻が主に担当する」との回答は 70代、80歳以上で4割前後となっている。

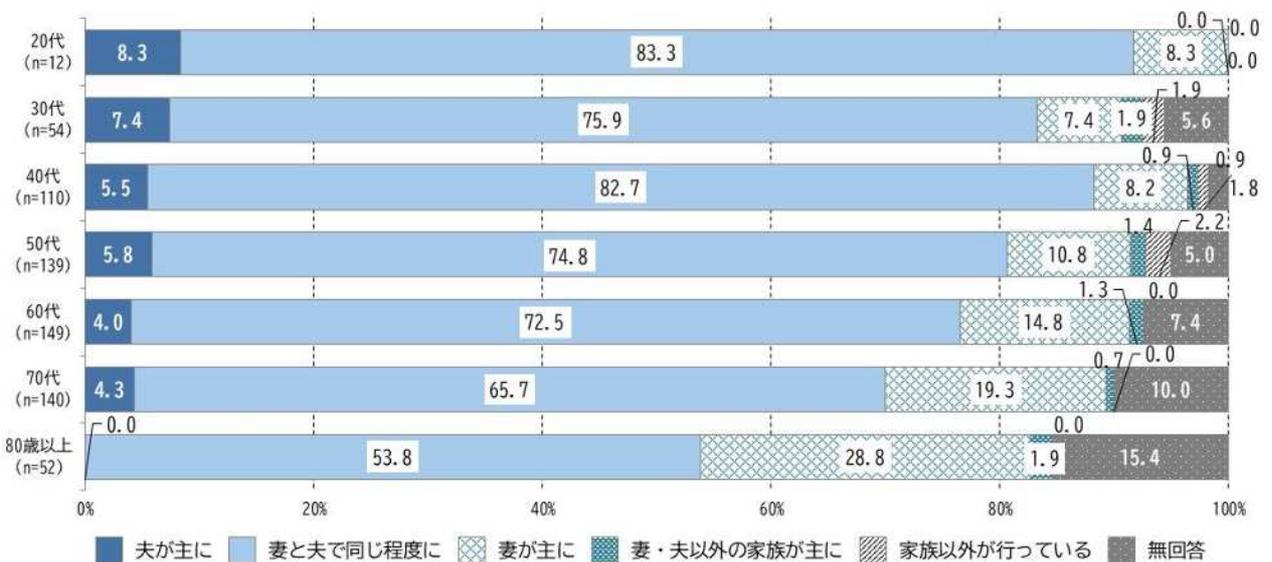
■③食事のしたく[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

食事のしたくでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代で8割台半ばとなっている。一方、「妻が主に担当する」との回答は年代が上がるにつれて高くなっており、70代超で4割前後となっている。

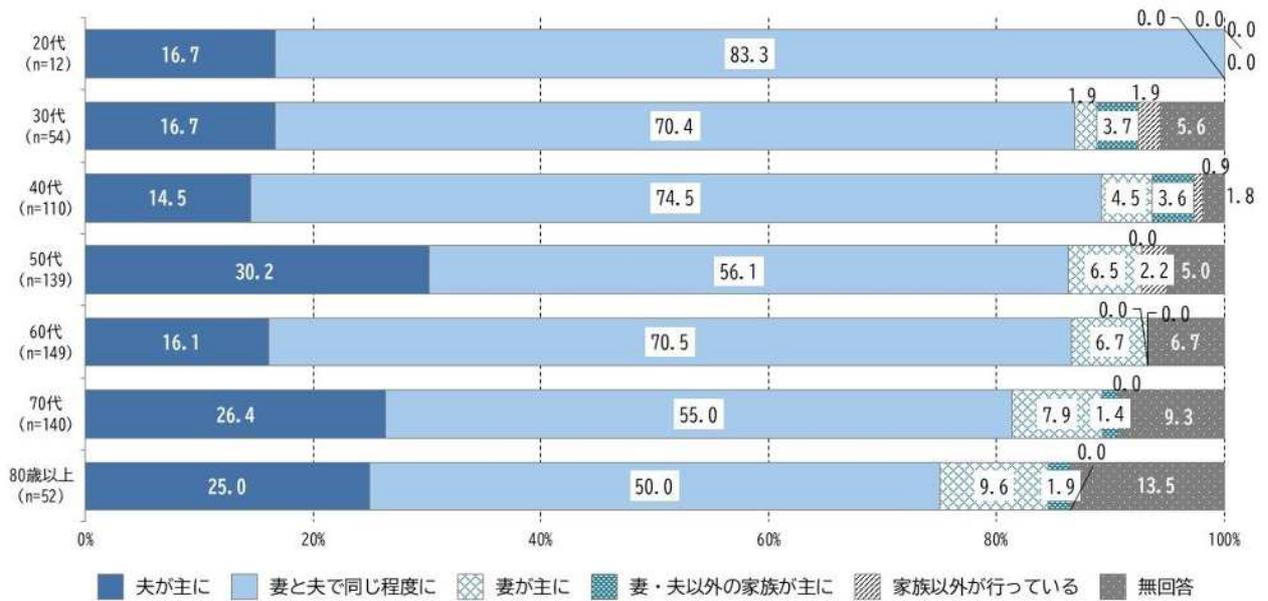
■④食事の片付け[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

食事の片付けでの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代、40代で8割台と高く、次いで30代、50代~60代で7割台となっている。一方、「妻が主に担当する」との回答は年代が上がるにつれて高くなっており、80歳以上で3割弱となっている。

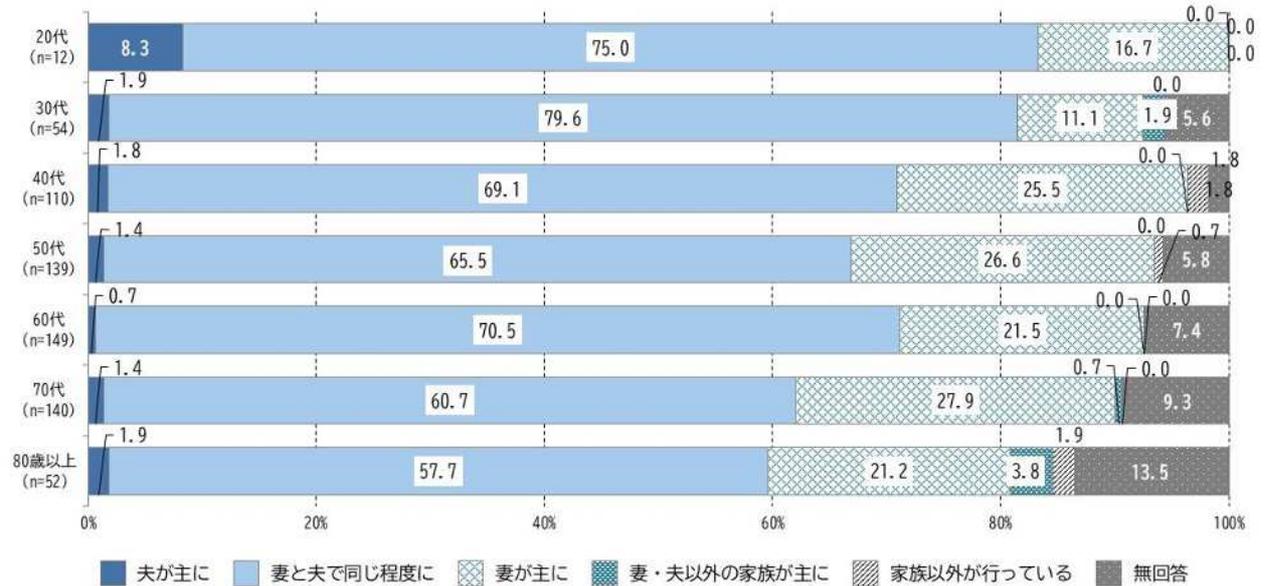
■⑤ゴミ出し[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

ゴミ出しの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代で8割台、30代~40代、60代で7割台となっている。

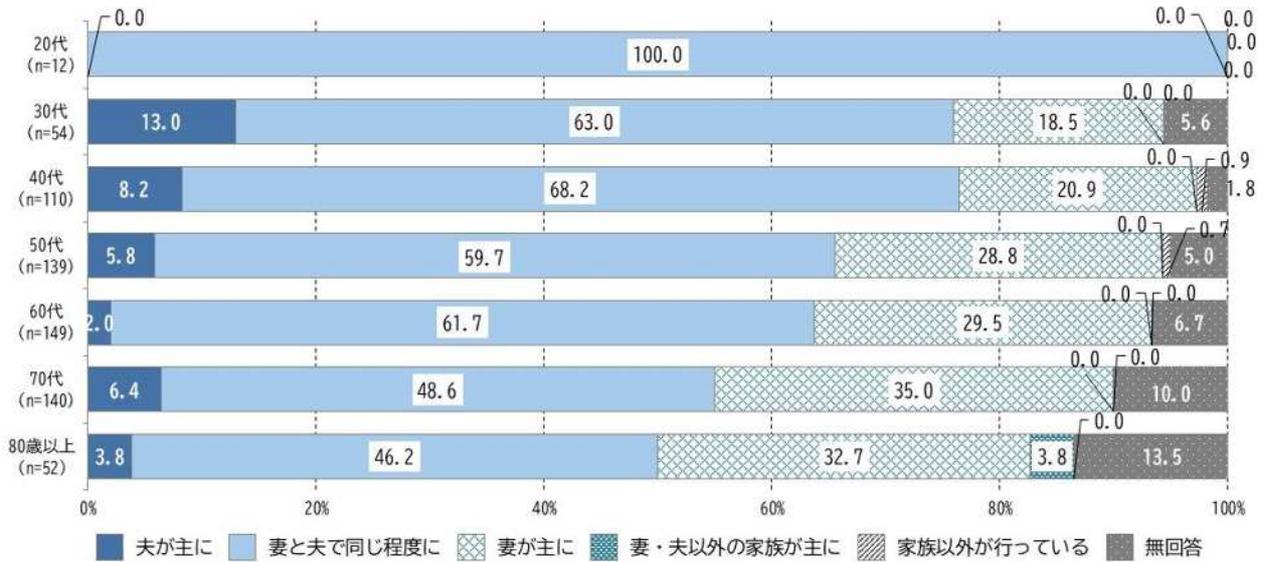
■⑥日常の買い物[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

日常の買い物の理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代~70代で7割前後となっている。

■ ⑦家計の管理[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

家計の管理の理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は20代で10割、30代(63.0%)・40代(68.2%)で6割台となっている。一方、「妻が主に担当する」との回答は年代が上がるにつれて高くなっており、70歳以降で3割台となっている。

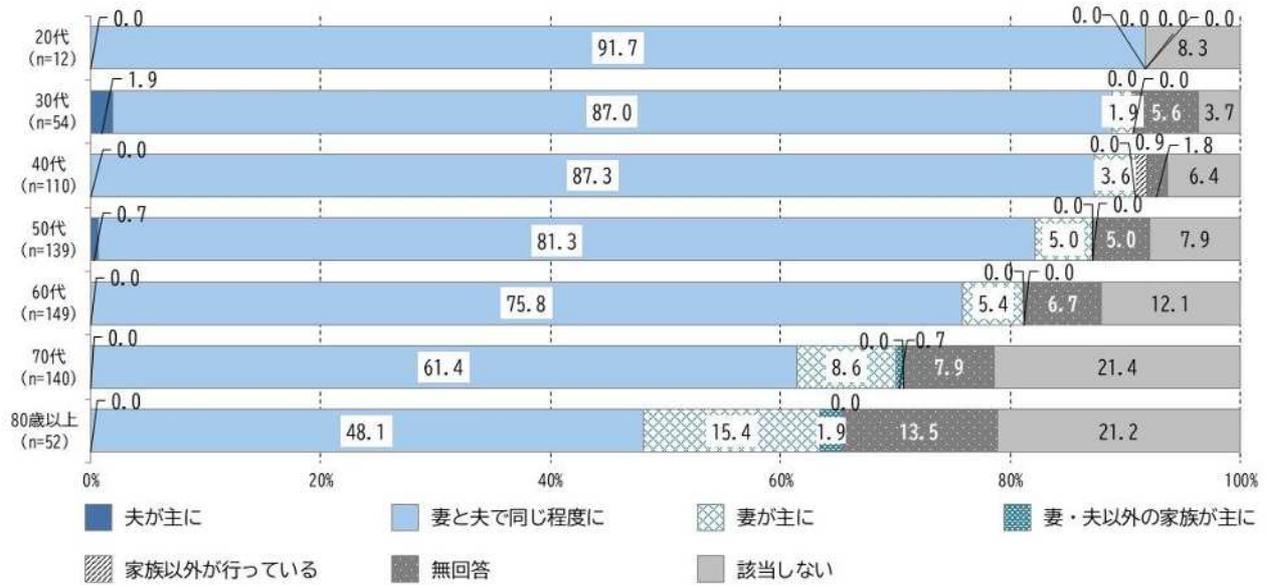
■ ⑧町内会・自治会・PTA等地域活動[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

町内会・自治会・PTA等地域活動の理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は年代が下がるにつれて高くなっており、20代(91.7%)で9割となっている。一方、「夫が主に担当する」との回答は年代が上がるにつれておおむね高くなっており、80歳以上(21.2%)が最も高くなっている。

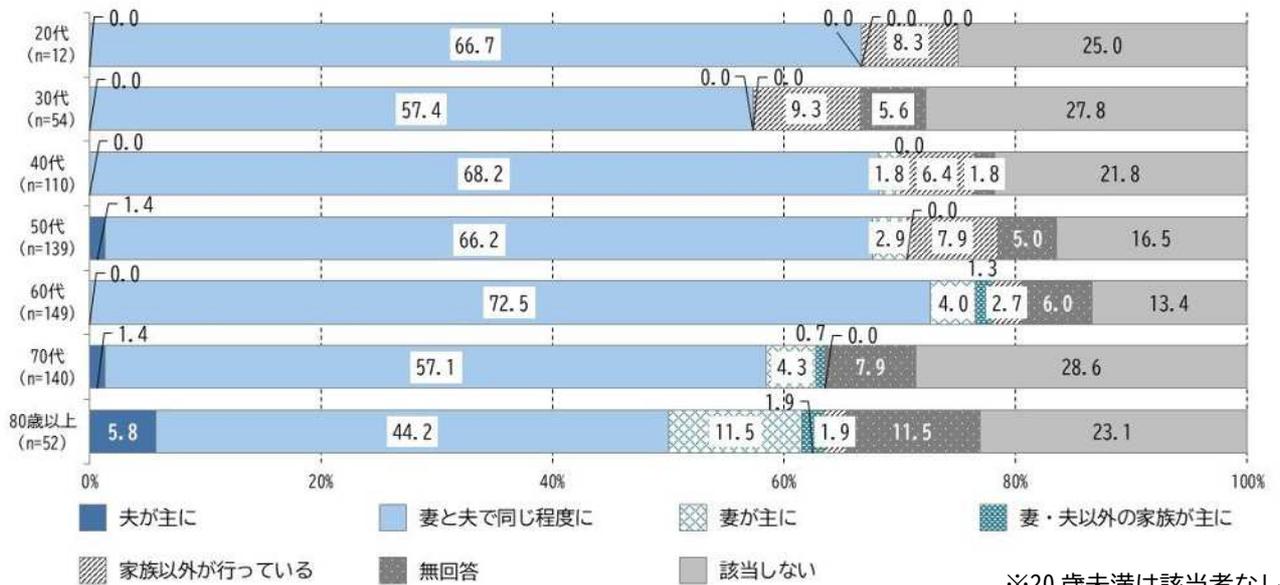
■◎子どもの世話・教育・しつけ[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

子どもの世話・教育・しつけの理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は年代が下がるにつれておおむね高くなっており、20代（91.7%）で9割台となっている。

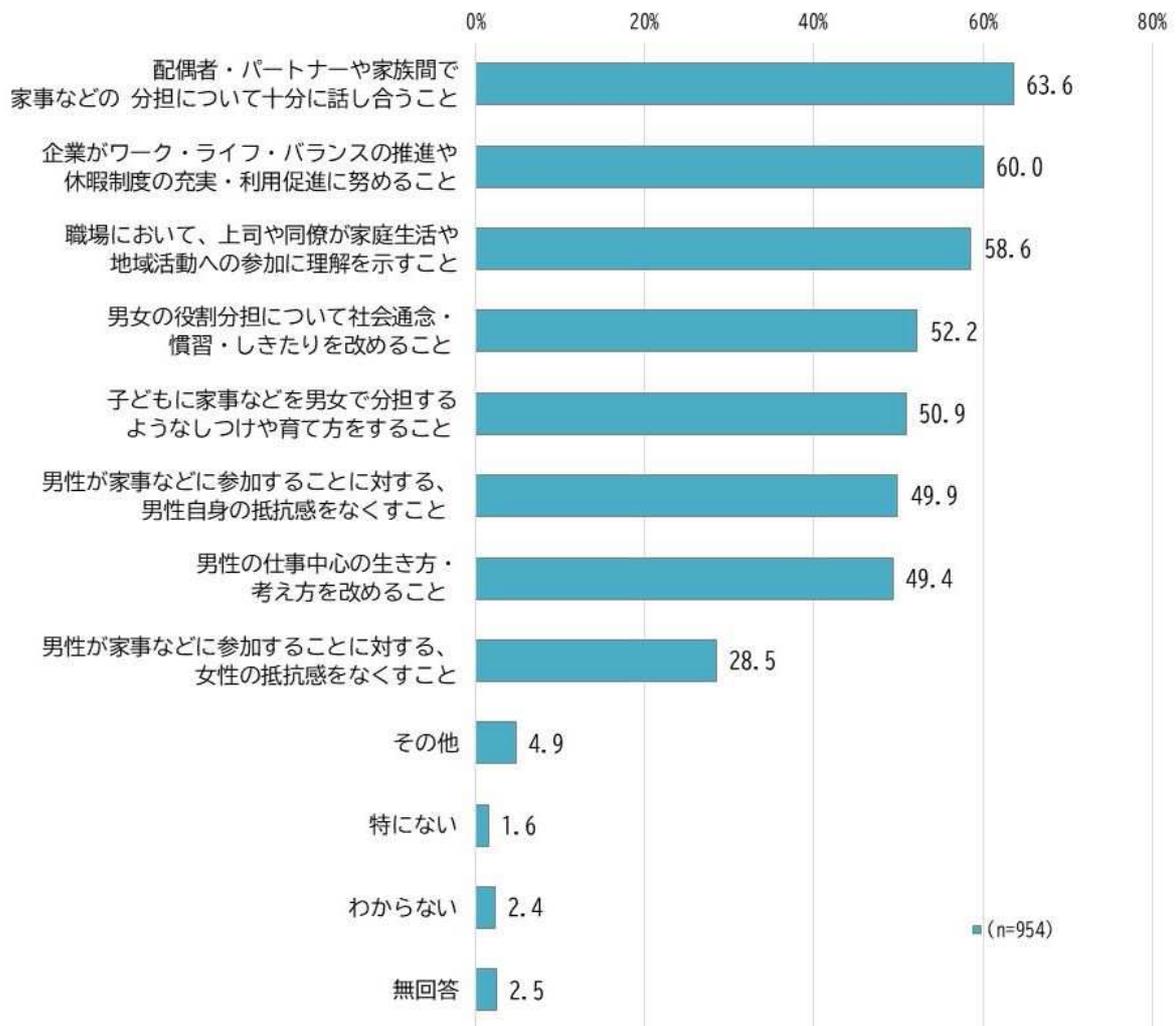
■◎家族の介護[希望(理想)] (年代別)



※20歳未満は該当者なし

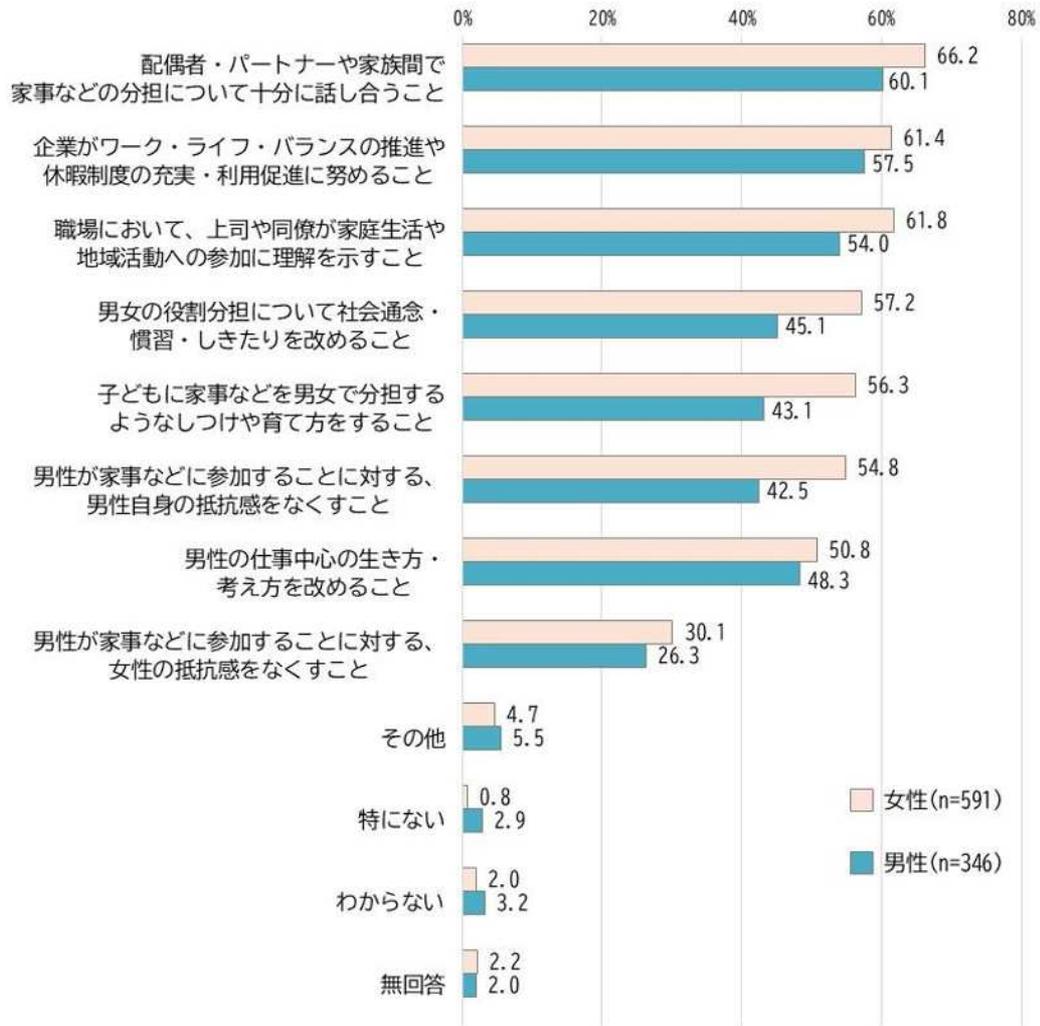
家族の介護の理想の分担について、年代別にみると、「妻と夫で同じ程度に分担する」との回答は80歳以上を除くどの年代もおおむね6割台となっている。一方、「妻が主に担当する」との回答は80歳以上で1割台（11.5%）となっている。

問12 男性と女性がともに家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



男性と女性がともに家事等に参加していくために必要なことについて、「配偶者・パートナーや家族間で家事などの負担について十分に話し合うこと」との回答は63.6%で最も多く、次に「企業がワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実・利用促進に努めること」(60.0%)、「職場において、上司や同僚が家庭生活や地域活動への参加に理解を示すこと」(58.6%)などの順となっている。

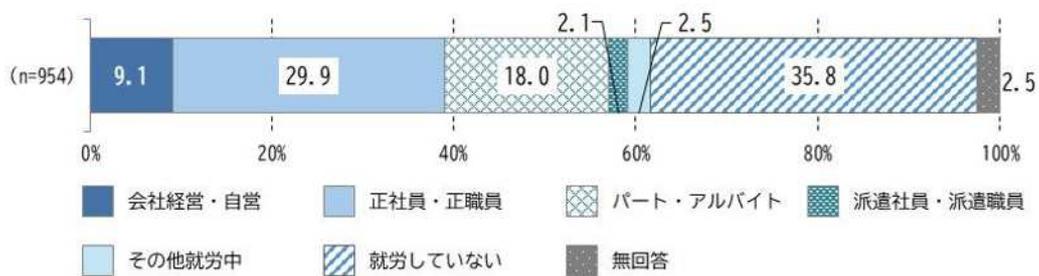
■男性と女性がともに家事等に参加していくために必要なこと（性別）



男性と女性がともに家事等に参加していくために必要なことについて、性別にみると、「子どもに家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」との回答は女性（56.3%）が男性（43.1%）を13.2ポイント、「男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」との回答は女性（54.8%）が男性（42.5%）を12.3ポイント上回っている。

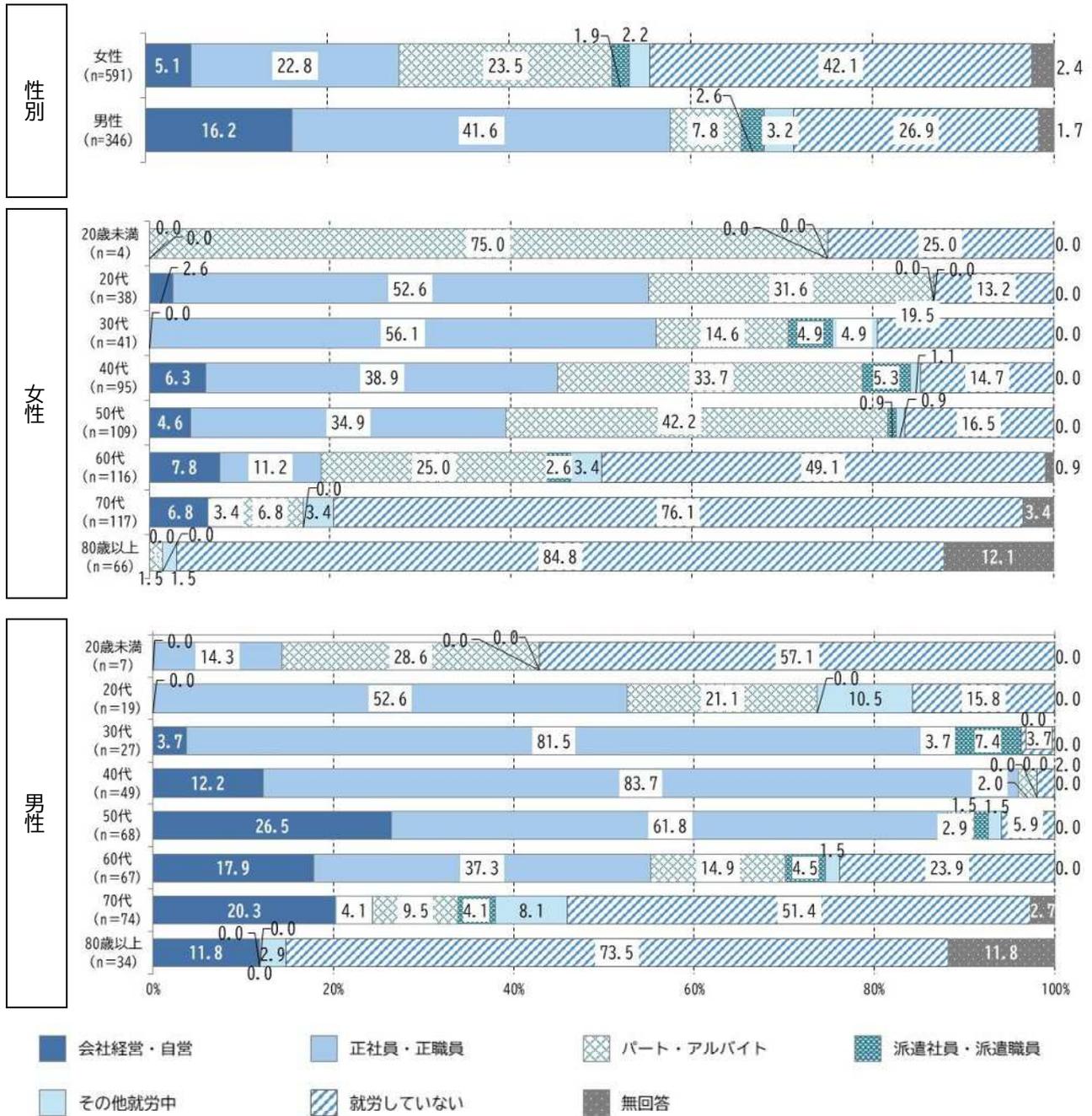
IV 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問13 現在の就労状況についてあてはまるものを1つだけお選びください。



現在の就労状況について「就労していない」との回答が35.8%で最も多く、次に「正社員・正職員」との回答が29.9%、「パート・アルバイト」との回答が18.0%となっている。

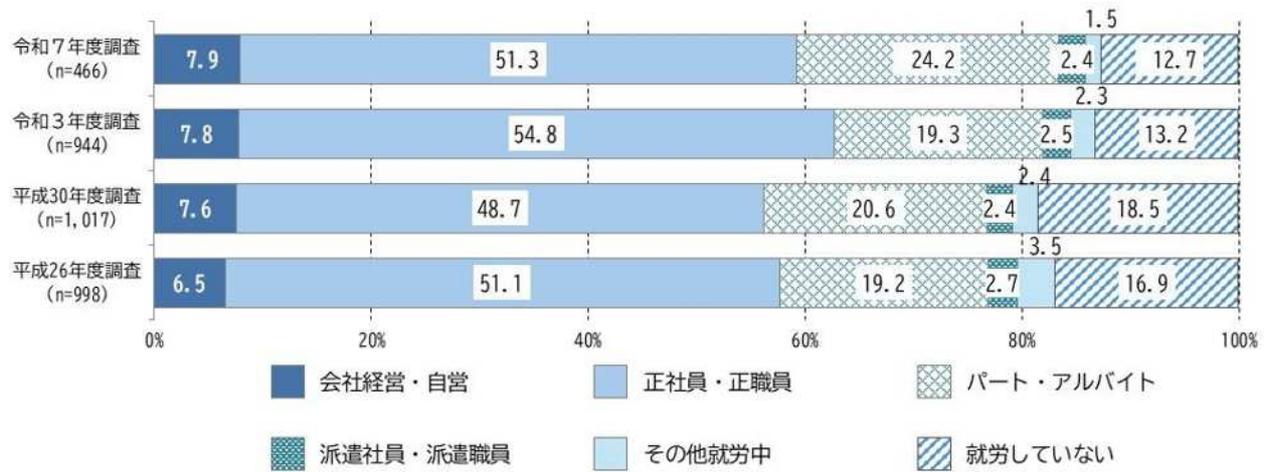
■現在の就労状況について（性別、性・年代別）



現在の就労状況について、性別にみると、『パート・アルバイト』との回答は女性（23.5%）が男性（7.8%）を15.7ポイント上回っている。また、「正社員・正職員」との回答は男性（41.6%）が女性（22.8%）を18.8ポイント上回っている。

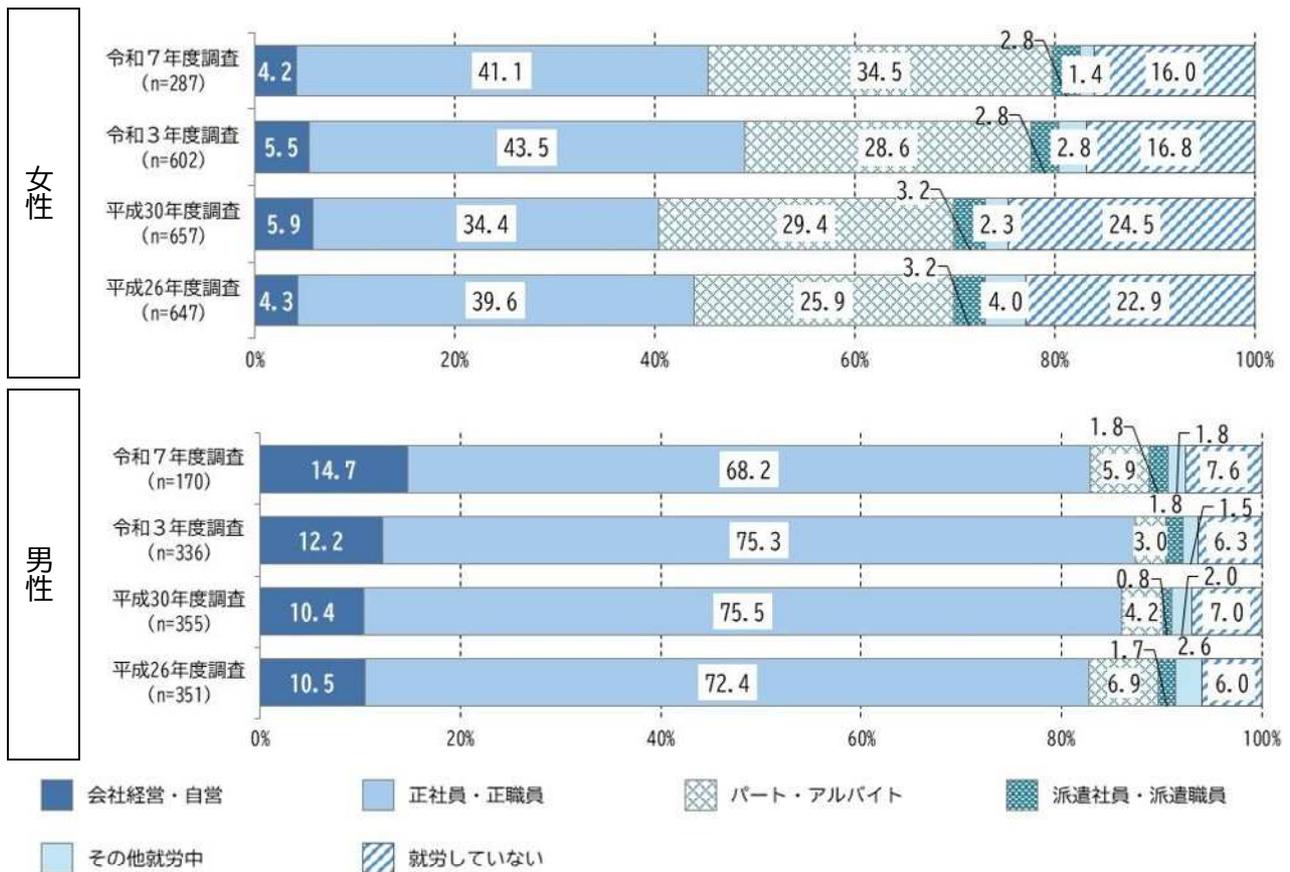
性・年代別で、20代から60代の働き盛りの世代でも、20代以外の年代で「正社員・正職員」の割合は、男性の方が高くなっている。

■現在の就労状況について（経年比較：18～59歳対象）



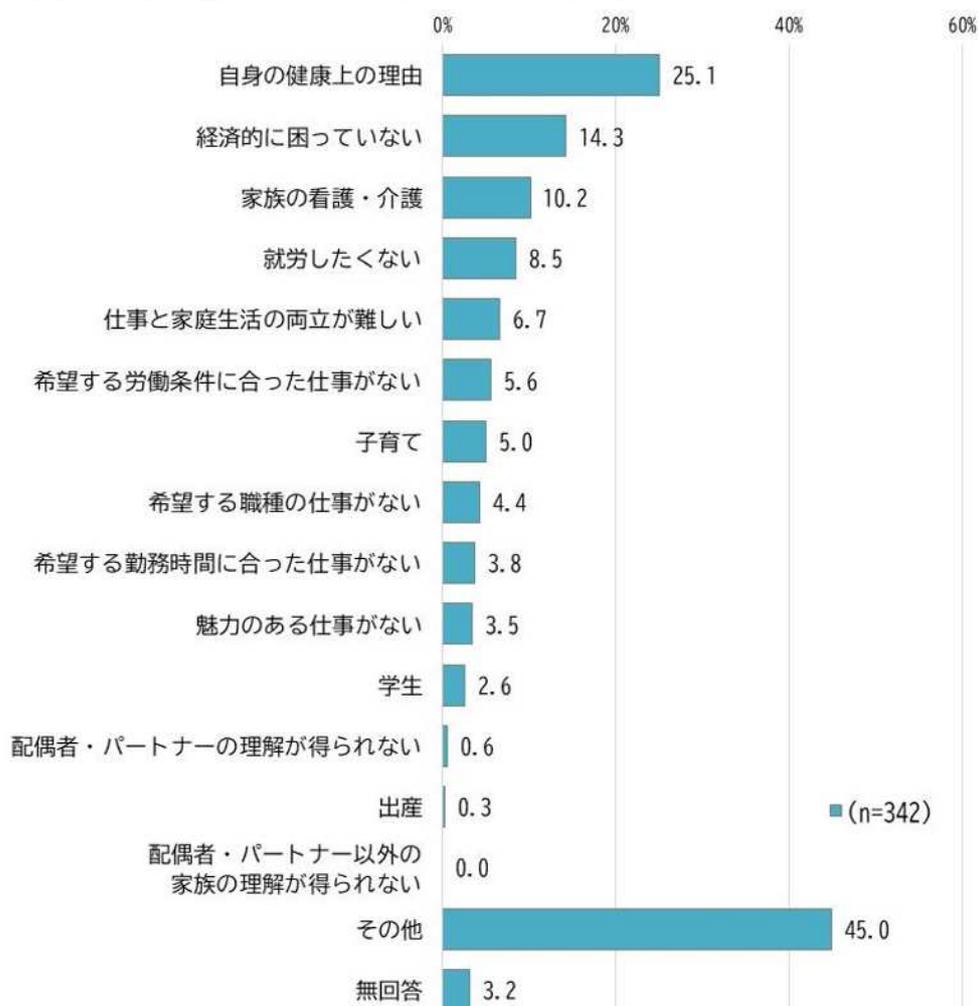
就労状況について経年比較すると、「正社員・正職員」との回答は令和7年度調査（51.3%）が令和3年度調査（54.8%）を3.5ポイント下回っている。一方、「パート・アルバイト」との回答は令和7年度調査（24.2%）が令和3年度調査（19.3%）を4.9ポイント上回っている。

■現在の就労状況について（性別・経年比較：18～59歳対象）



就労状況について性別で経年比較すると、女性では、「パート・アルバイト」との回答は令和7年度調査（34.5%）が令和3年度調査（28.6%）を5.9ポイント上回っている。また、「正社員・正職員」との回答は令和7年度調査（41.1%）が令和3年度調査（43.5%）を2.4ポイント下回っている。一方、男性では、『パート・アルバイト』との回答は令和7年度調査（5.9%）が令和3年度調査（3.0%）を2.9ポイント上回っており、「正社員・正職員」との回答は令和7年度調査（68.2%）が令和3年度調査（75.3%）を7.1ポイント下回っている。

問13-1 現在就労していない理由はどのようなことですか。(〇は3つまで)

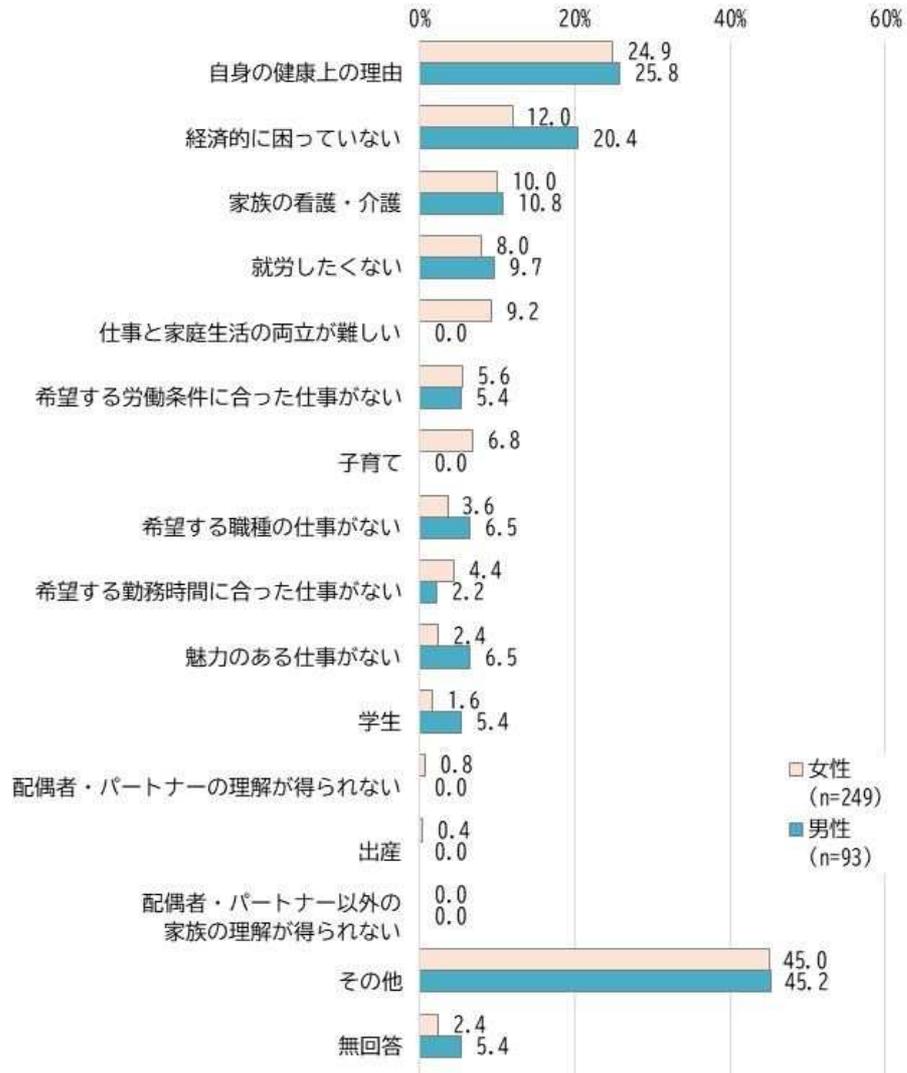


【その他の主な理由】

- ・「年金生活・年金受給」
- ・「高齢・年齢的に働けない」
- ・「定年退職・退職・リタイア」
- ・「体力低下・健康上の理由（病気・入院・透析等含む）」
- ・「家事・主婦・家庭の用事に専念」
- ・「孫の世話・家族の世話（介護含む）」
- ・「趣味・家庭菜園・余生を楽しみたい」
- ・「就職・求職上の事情（仕事探し中、就職環境、転入、介護期に機会逸失等）」

現在就労していない理由について、「自身の健康上の理由」との回答は 25.1%で最も多く、次に「経済的に困っていない」との回答は 14.3%、「家族の看護・介護」との回答は 10.2%となっている。

■現在就労していない理由（性別）



現在就労していない理由について、性別にみると、「仕事と家庭生活の両立が難しい」との回答は女性（9.2%）が男性（0.0%）を9.2ポイント上回っている。また、「経済的に困っていない」との回答は男性（20.4%）が女性（12.0%）を8.4ポイント上回っている。

■現在就労していない理由（年代別）

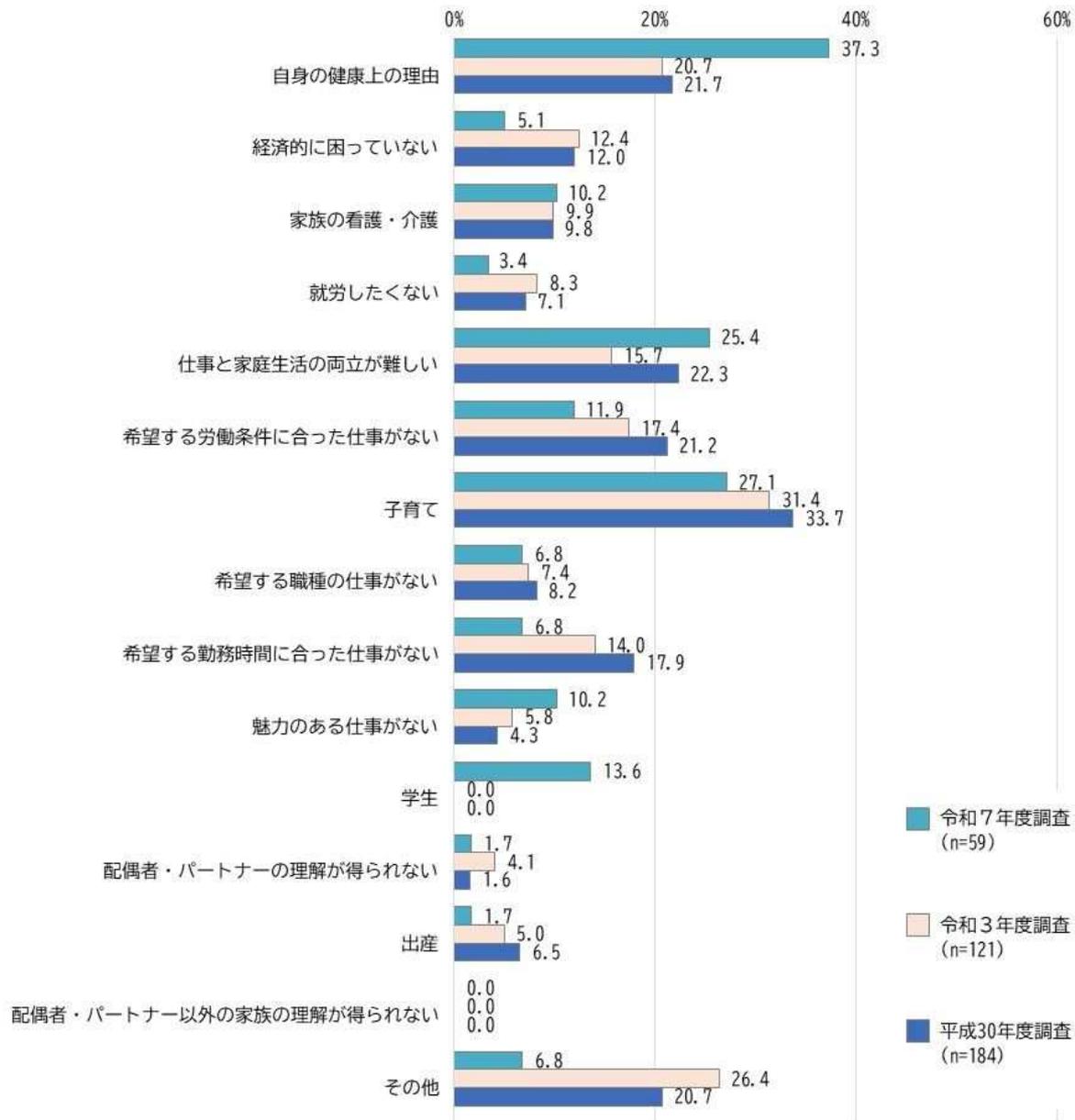
(%)

	自身の健康上の理由	経済的に困っていない	家族の看護・介護	就労したくない	仕事と家庭生活の両立が難しい	希望する労働条件に合った仕事がない	子育て	希望する職種の仕事がない	希望する勤務時間に合った仕事がない	魅力のある仕事がない	学生	配偶者・パートナーの理解が得られない	出産	配偶者・パートナー以外の家族の理解が得られない	その他	無回答	
全体(n=342)	25.1	14.3	10.2	8.5	6.7	5.6	5.0	4.4	3.8	3.5	2.6	0.6	0.3	0.0	45.0	3.2	
年代別	20歳未満(n=5)	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	80.0	-	-	-	-	-	
	20代(n=8)	37.5	-	-	-	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	50.0	-	-	-	-	-	
	30代(n=9)	22.2	-	-	-	33.3	11.1	66.7	-	22.2	11.1	-	-	11.1	-	-	
	40代(n=15)	40.0	-	6.7	-	33.3	13.3	40.0	6.7	-	6.7	-	-	-	6.7	-	
	50代(n=22)	50.0	13.6	22.7	9.1	31.8	13.6	13.6	9.1	4.5	9.1	-	4.5	-	-	13.6	-
	60代(n=73)	23.3	19.2	24.7	8.2	9.6	11.0	1.4	9.6	8.2	4.1	-	-	-	-	34.2	-
	70代(n=127)	23.6	22.0	4.7	11.8	0.8	2.4	-	3.1	1.6	2.4	-	0.8	-	-	52.0	3.1
	80歳以上(n=81)	19.8	4.9	6.2	7.4	-	1.2	-	-	1.2	-	1.2	-	-	-	71.6	8.6

■ 上位1位 ■ 上位2～3位 ※順位はその他、無回答を除く

現在就労していない理由について、年代別にみると、「子育て」との回答は30代で66.7%と高く、「自身の健康上の理由」との回答は50代で50.0%と高くなっている。

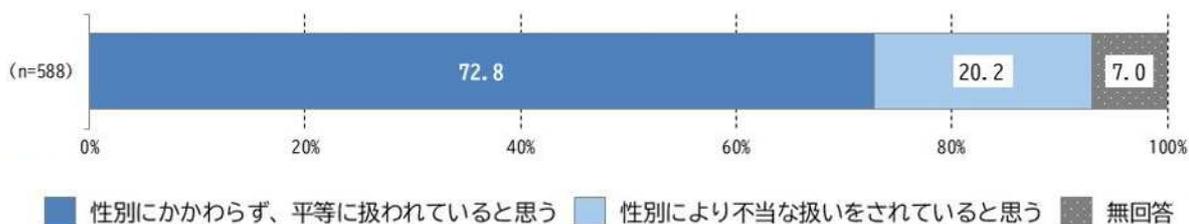
■ 現在就労していない理由（経年比較：18～59 歳対象）



現在就労していない理由について、経年比較すると、「自身の健康上の理由」との回答は令和7年度調査（37.3%）が令和3年度調査（20.7%）を16.6ポイント上回っている。

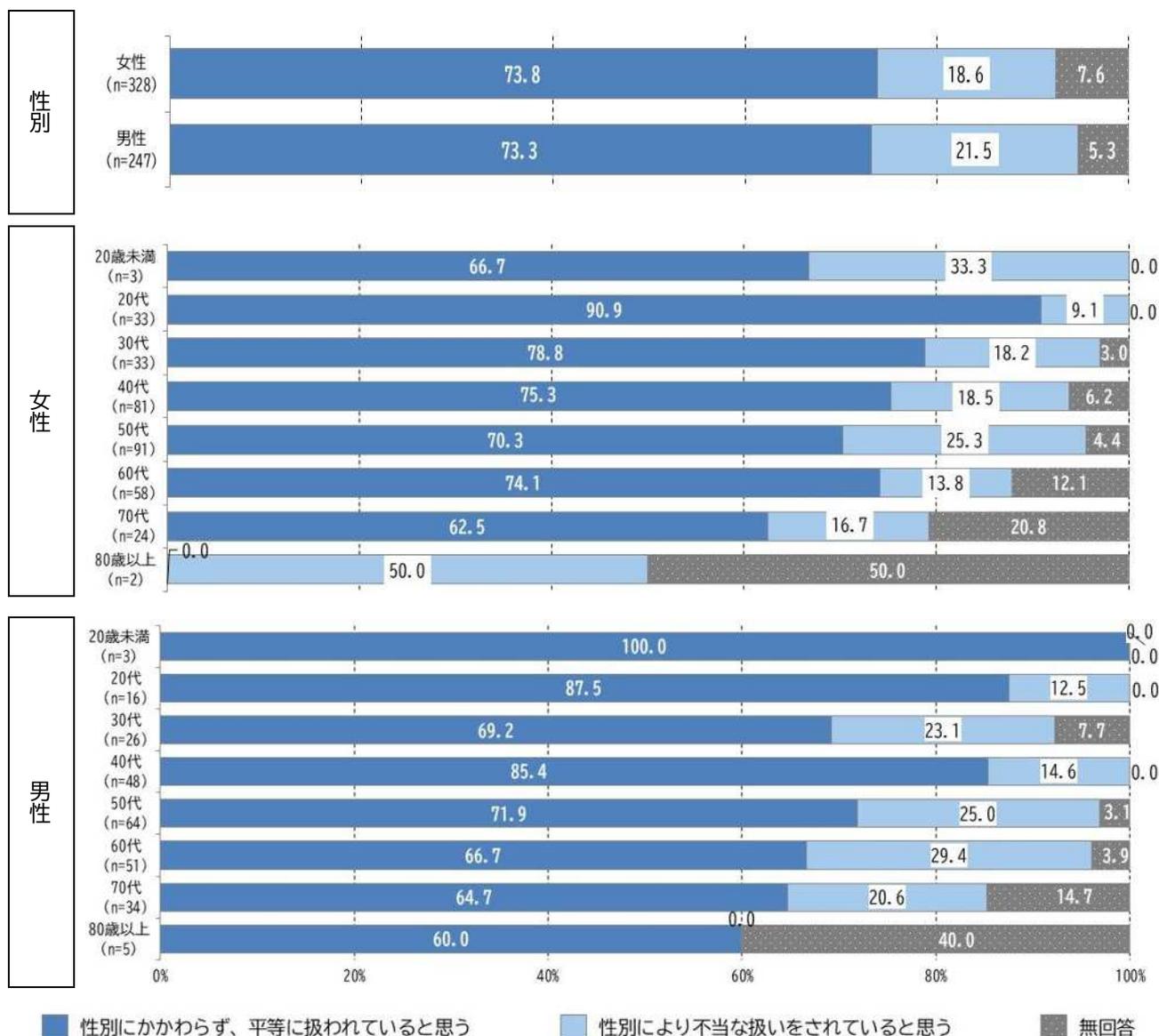
また、「仕事と家庭生活の両立が難しい」との回答は令和7年度調査（25.4%）が令和3年度調査（15.7%）を9.7ポイント上回っている。

問14 あなたの今の職場では、性別により、どのような扱いをされていると思いますか。



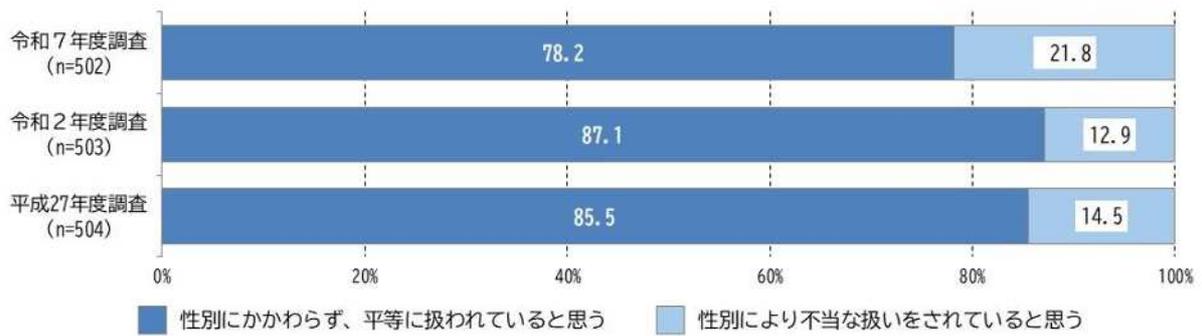
性別による職場での扱いについて、「性別にかかわらず、平等に扱われていると思う」との回答は72.8%で最も多く、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は20.2%となっている。

■性別による職場での扱い（性別、性・年代別）



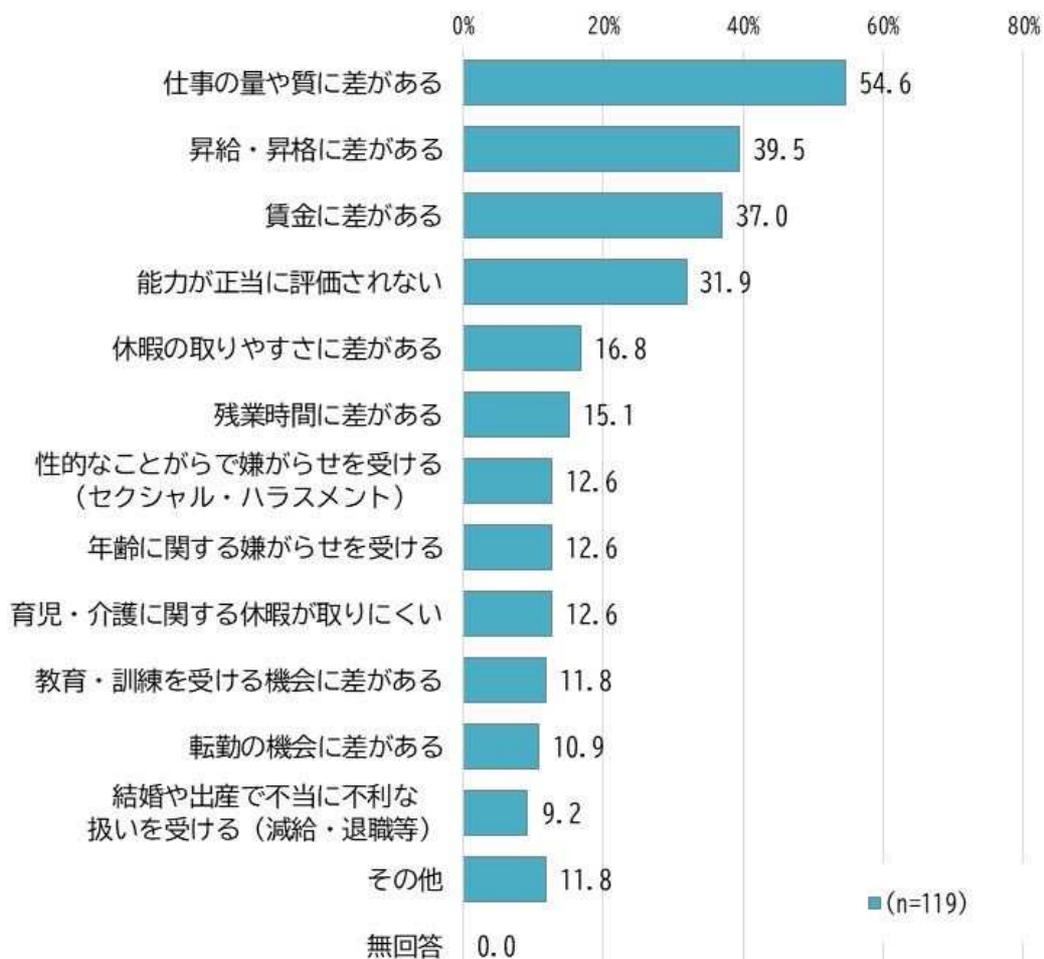
性別による職場での扱いについて、性別にみると、「性別により不当な扱いをされていると思う」との回答は男性（21.5%）と女性（18.6%）でいずれも2割前後であり、男性が女性を2.9ポイント上回っている。

■性別による職場での扱い（経年比較）



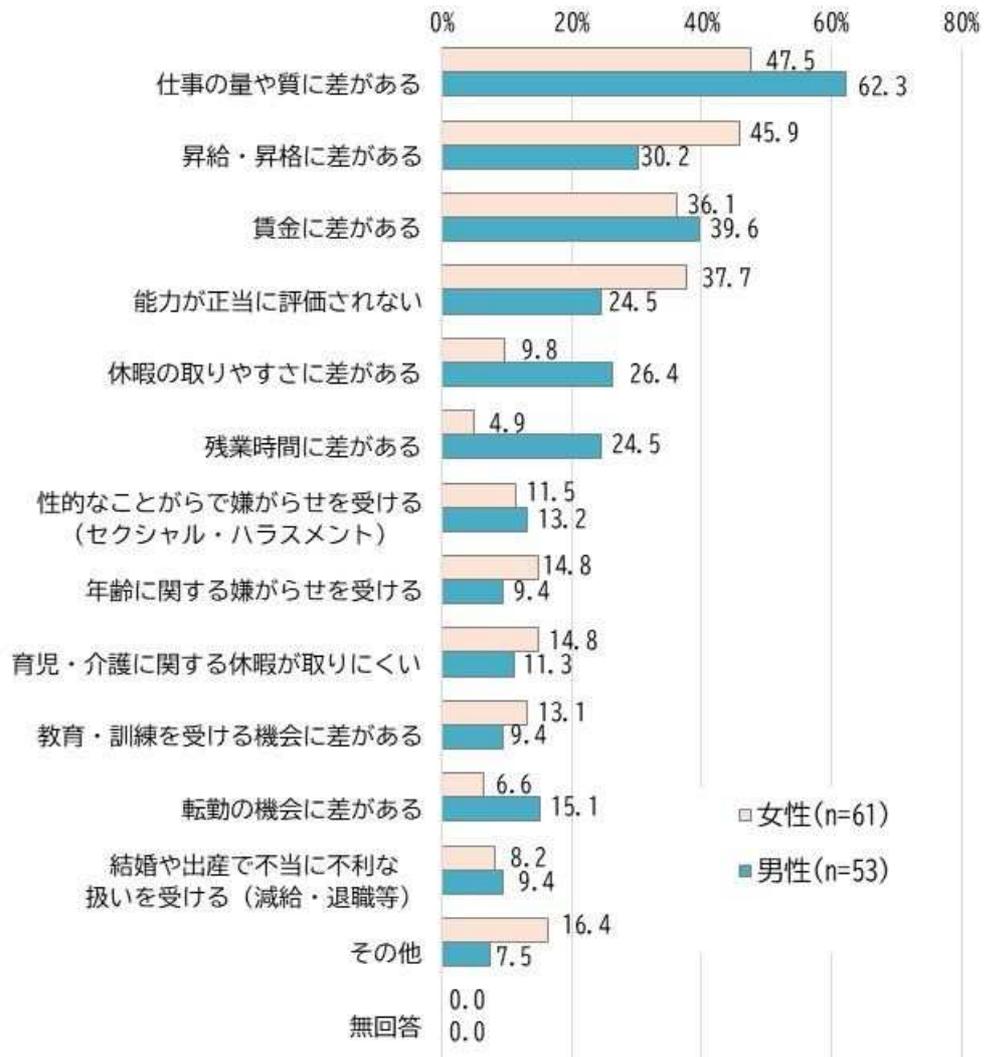
性別による職場での扱いについて、経年比較すると、「性別にかかわらず平等に扱われていると思う」との回答は、令和7年度調査（78.2%）が令和2年度調査（87.1%）を8.9ポイント下回っている。

問14-1 性別による不平等な扱いの具体的な内容はどのようなことですか。(〇はいくつでも)



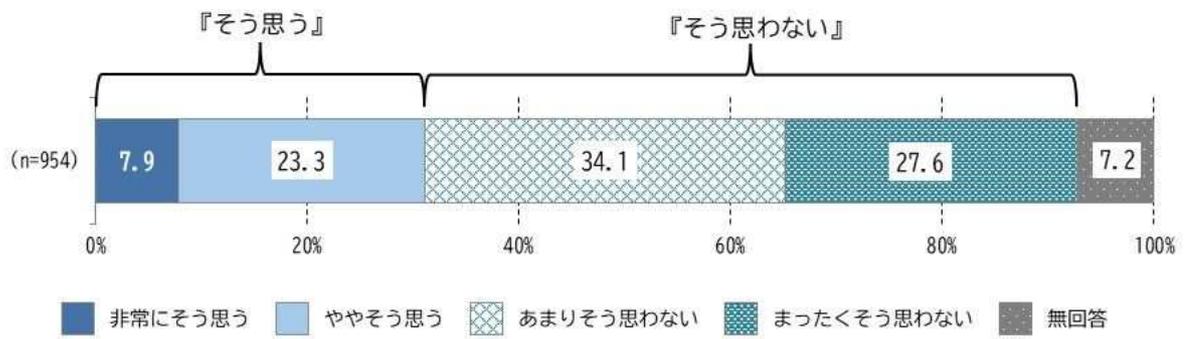
性別による不平等な扱いの具体的な内容について、「仕事の量や質に差がある」との回答は54.6%で最も多く、次に「昇給・昇格に差がある」との回答は39.5%、「賃金に差がある」との回答は37.0%、「能力が正当に評価されない」との回答は31.9%となっている。

■性別による不平等な扱いの具体的な内容（性別）



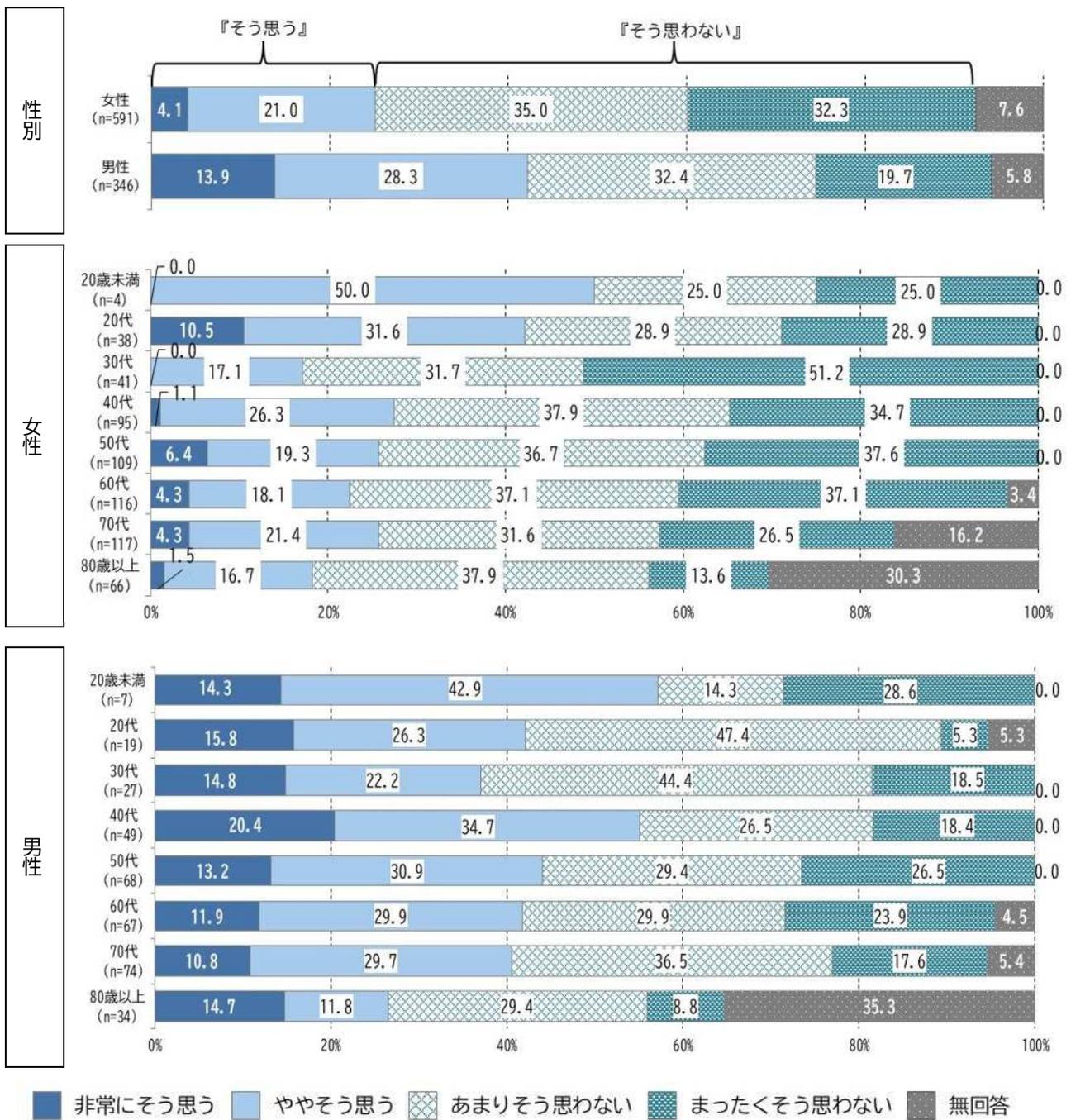
性別による不平等な扱いの具体的な内容について、性別にみると、「昇給・昇格に差がある」との回答は女性（45.9%）が男性（30.2%）を 15.7 ポイント、「能力が正当に評価されない」との回答は女性（37.7%）が男性（24.5%）を 13.2 ポイント上回っている。一方、「仕事の量や質に差がある」との回答は男性（62.3%）が女性（47.5%）を 14.8 ポイント、「休暇の取りやすさに差がある」との回答は、男性（26.4%）が女性（9.8%）を 16.6 ポイント、「残業時間に差がある」との回答は、男性（24.5%）が女性（4.9%）を 19.6 ポイント上回っている。

問15 あなた自身が企業や組織の中で管理職を目指して働きたいかどうか、あなたの考えに近いものをお選びください。



管理職を目指して働きたいかについて『そう思う』（「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合）との回答は 31.2%、『そう思わない』（「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた割合）との回答は 61.7%となっている。

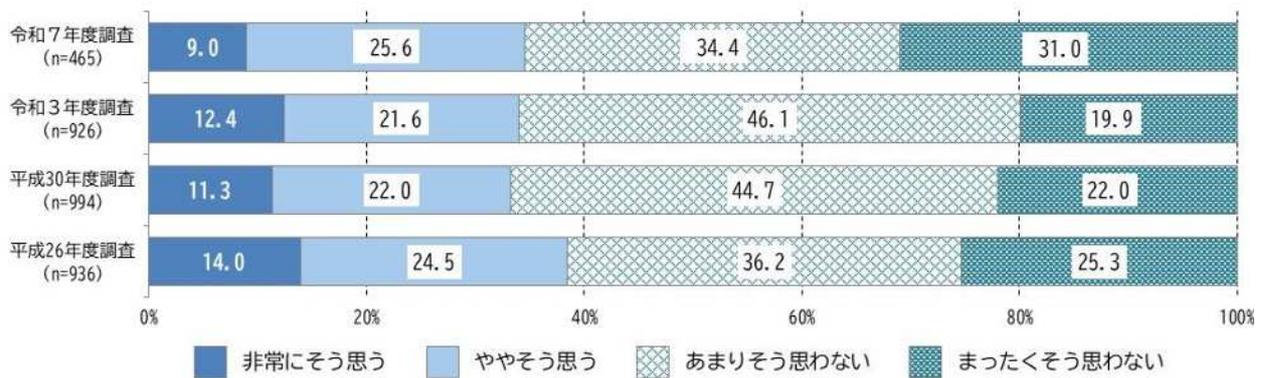
■管理職を目指して働きたいか（性別、性・年代別）



管理職を目指して働きたいかについて、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（42.2%）が女性（25.1%）を17.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思う』との回答が女性の30代以降で低くなっている。

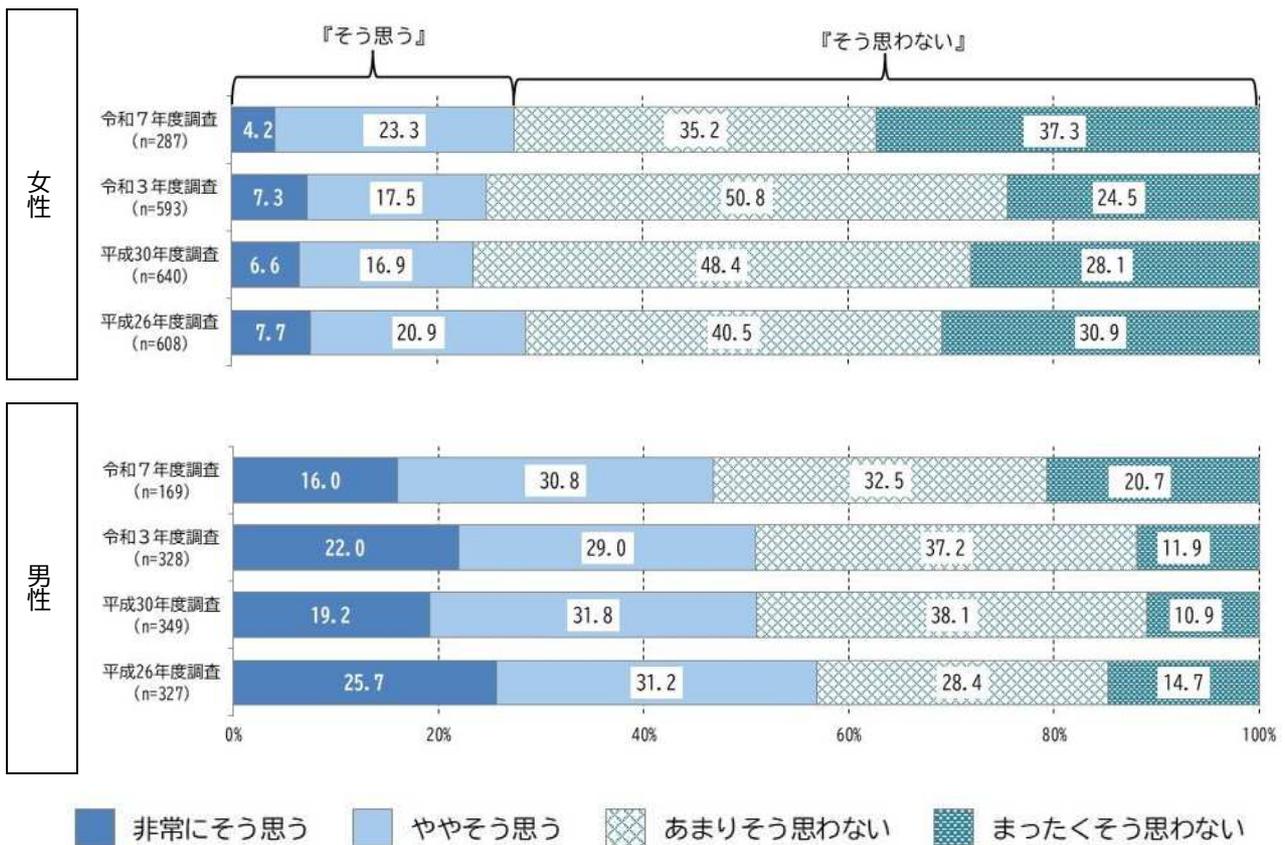
■管理職を目指して働きたいか（経年比較：18～59歳対象）



管理職を目指して働きたいかについて、経年比較すると、「まったくそう思わない」との回答は令和7年度調査（31.0%）が令和3年度調査（19.9%）を11.1ポイント上回っている。

また、「あまりそう思わない」との回答は令和7年度調査（34.4%）が令和3年度調査（46.1%）を11.7ポイント下回っている。

■管理職を目指して働きたいか（経年比較：18～59歳対象）



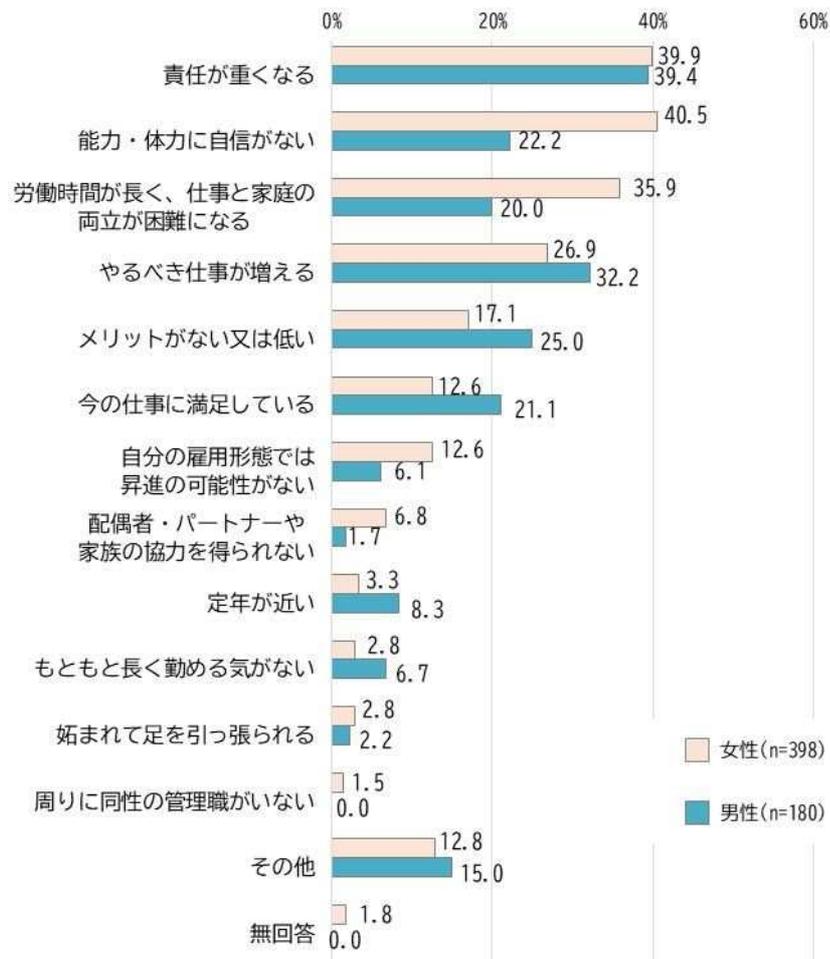
管理職を目指して働きたいかについて、経年比較すると、女性では『そう思う』との回答は令和7年度調査（27.5%）が令和3年度調査（24.8%）を2.7ポイント、平成30年度調査（23.5%）を4.0ポイント上回っている。また、男性では『そう思う』との回答は令和7年度調査（46.8%）が令和3年度調査（51.0%）を4.2ポイント、平成30年度調査（51.0%）を4.2ポイント下回っている。

問15-1 問15で「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と選択した理由は何ですか。(〇は3つまで)



管理職を目指して働きたくない理由について、「責任が重くなる」との回答は40.0%で最も多く、次に「能力・体力に自信がない」との回答は35.0%、「労働時間が長く、仕事と家庭の両立が困難になる」との回答は31.3%となっている。

■管理職を目指して働きたくない理由（性別）



管理職を目指して働きたくない理由について、性別にみると、「能力・体力に自信がない」との回答は女性（40.5%）が男性（22.2%）を 18.3 ポイント、「労働時間が長く、仕事と家庭の両立が困難になる」との回答は女性（35.9%）が男性（20.0%）を 15.9 ポイント上回っている。一方、「メリットがない又は低い」との回答は男性（25.0%）が女性（17.1%）を 7.9 ポイント上回っている。

■管理職を目指して働きたくない理由（年代別）

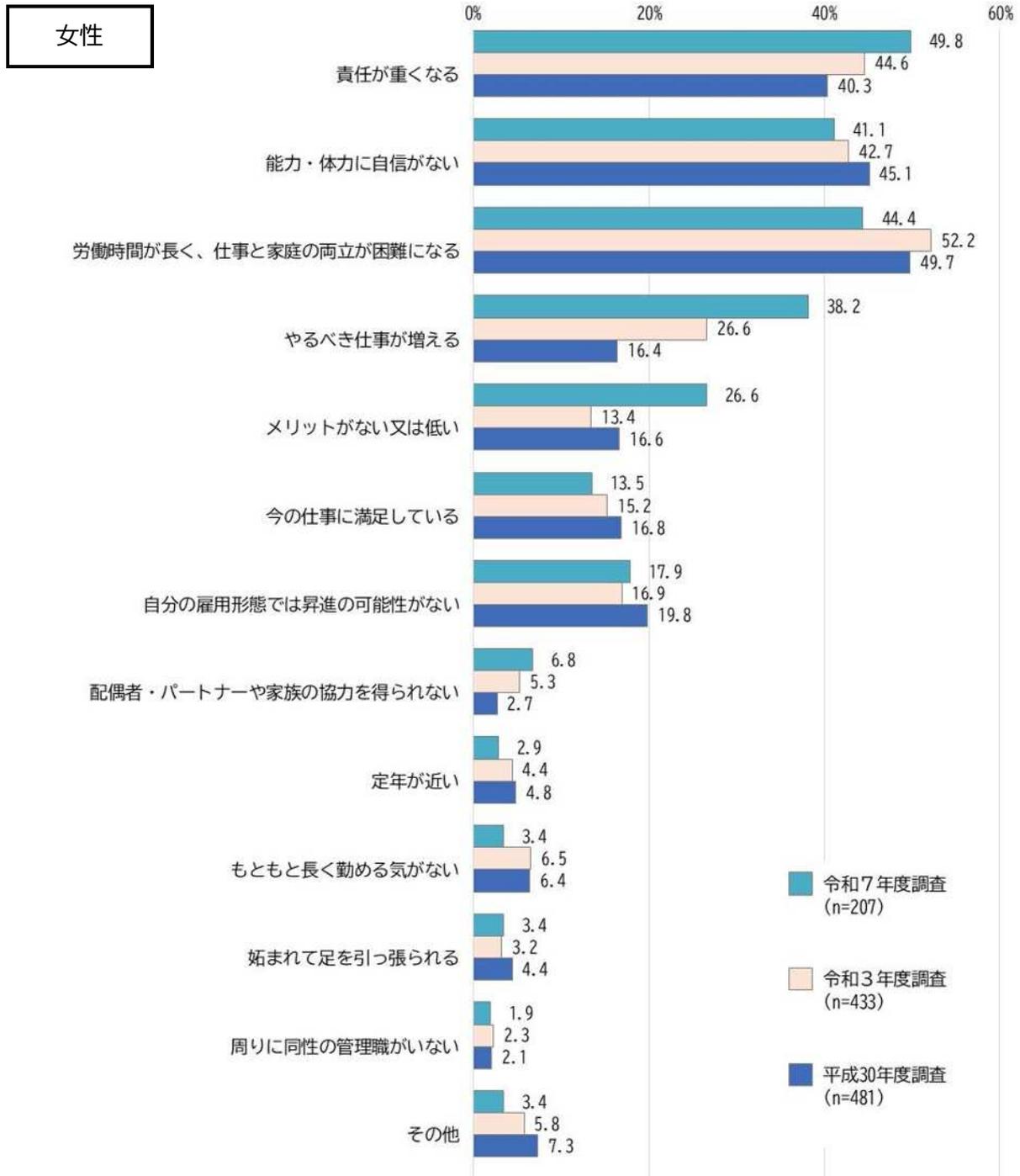
(%)

	責任が重くなる	能力・体力に自信がない	労働時間が長く、仕事と家庭の両立が困難になる	やるべき仕事が増える	メリットがない又は低い	今の仕事に満足している	自分の雇用形態では昇進の可能性がない	配偶者・パートナーや家族の協力を得られない	定年が近い	もともと長く勤める気がない	妬まれて足を引っ張られる	周りに同性の管理職がない	その他	無回答
全体(n=588)	40.0	35.0	31.3	28.7	19.7	15.0	11.1	5.1	4.9	4.1	2.6	1.0	13.3	1.2
年代別	20歳未満(n=5)	60.0	20.0	20.0	100.0	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代(n=32)	62.5	31.3	34.4	62.5	37.5	12.5	-	-	3.1	-	3.1	-	-
	30代(n=52)	57.7	40.4	53.8	42.3	26.9	21.2	11.5	5.8	-	3.8	1.9	-	5.8
	40代(n=92)	53.3	44.6	44.6	41.3	23.9	12.0	14.1	9.8	-	3.3	1.1	3.3	5.4
	50代(n=123)	42.3	30.9	30.9	35.8	27.6	17.9	18.7	4.1	8.9	4.9	5.7	-	4.1
	60代(n=123)	35.8	31.7	30.1	22.8	17.9	12.2	13.0	5.7	11.4	1.6	2.4	0.8	15.4
	70代(n=109)	24.8	33.9	19.3	8.3	5.5	18.3	3.7	3.7	1.8	7.3	0.9	-	26.6
	80歳以上(n=47)	17.0	34.0	12.8	2.1	2.1	10.6	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	2.1	36.2

■ 上位1位 ■ 上位2～3位 ※順位はその他、無回答を除く

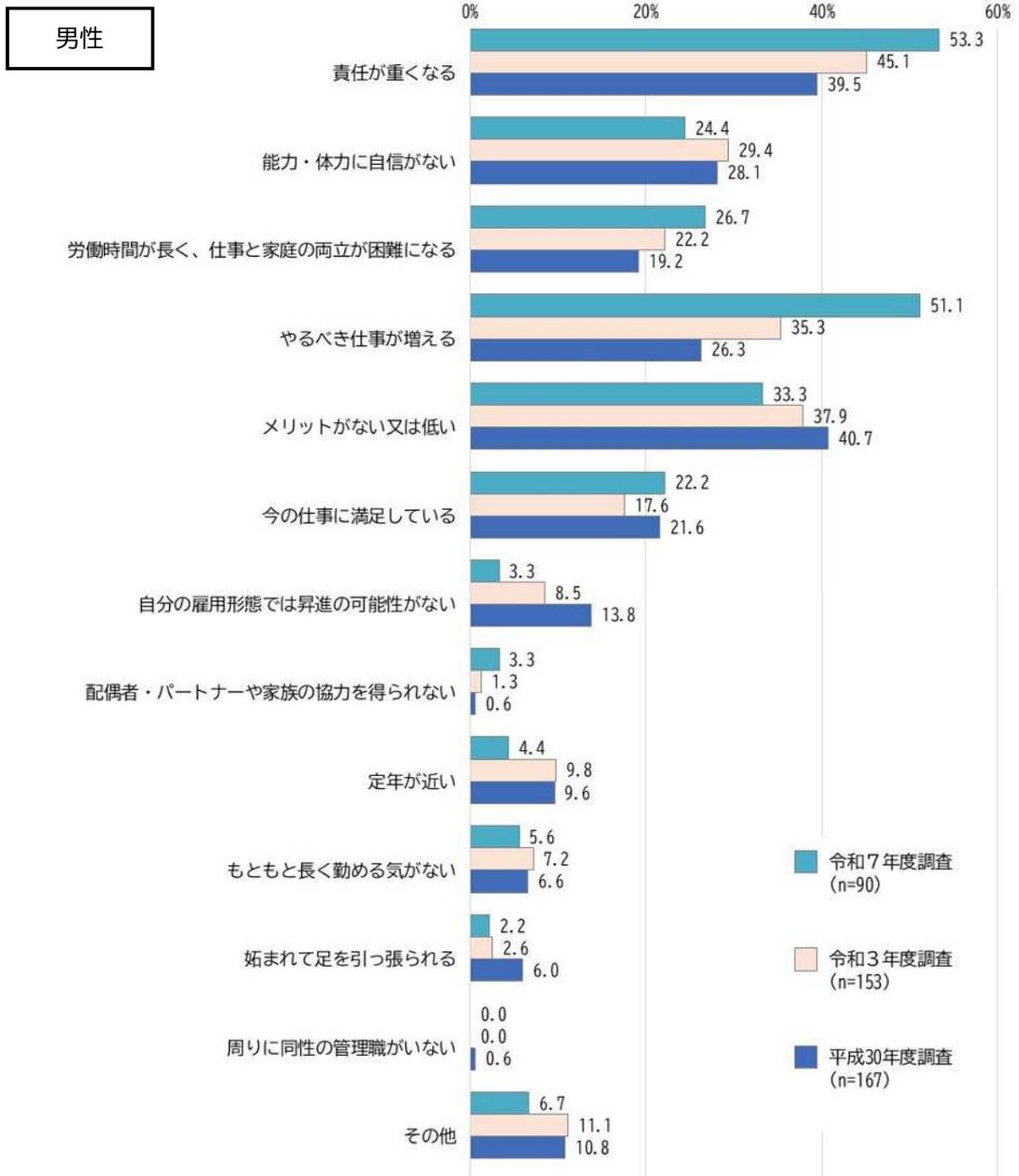
管理職を目指して働きたくない理由について、年代別にみると、「責任が重くなる」が20代～60代で最も高い。

■管理職を目指して働きたくない理由（性別・経年比較：18～59歳対象）



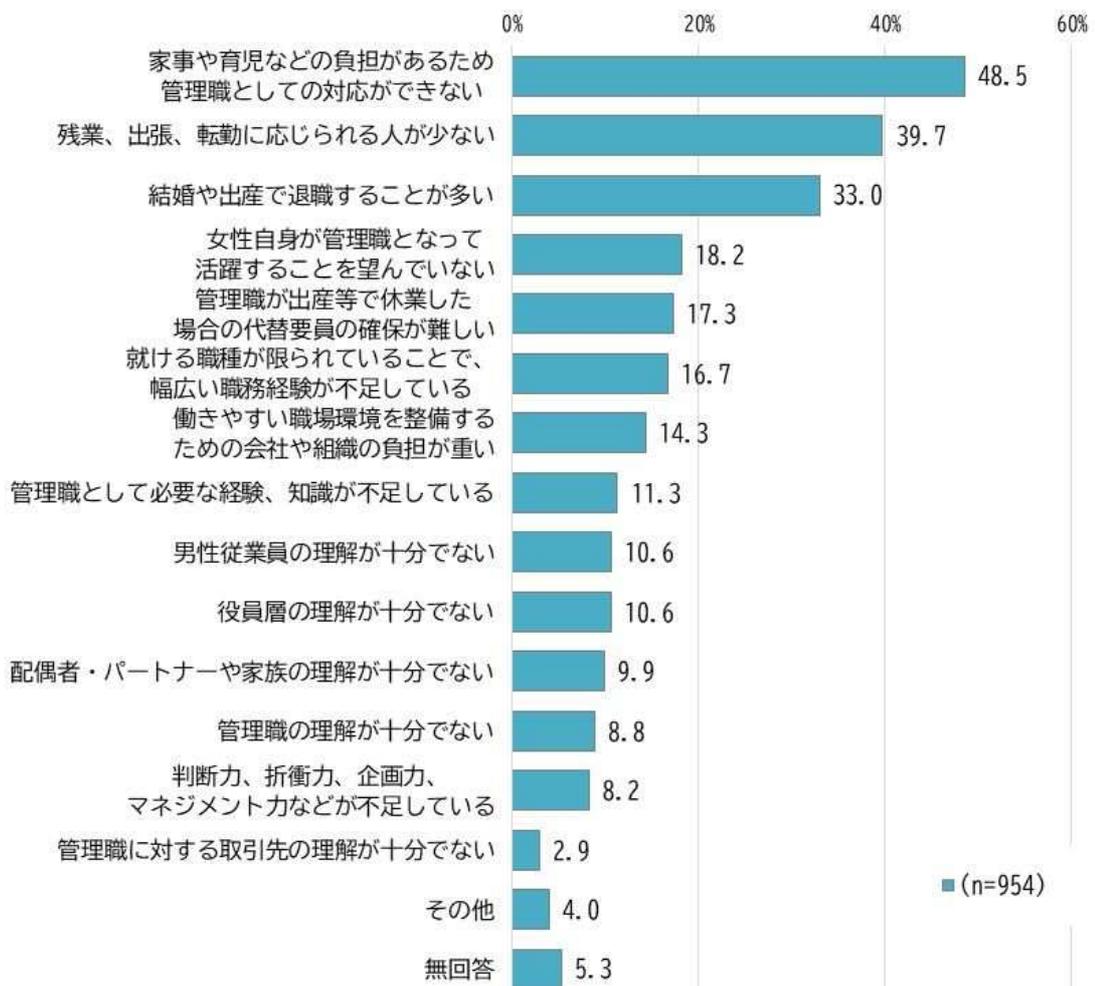
女性の管理職を目指して働きたくない理由について、経年比較すると、「やるべき仕事が増える」との回答は令和7年度調査（38.2%）が、令和3年度調査（26.6%）を11.6ポイント、平成30年度調査（16.4%）を21.8ポイント上回っている。一方、「労働時間が長く、仕事と家庭の両立が困難になる」との回答は、令和7年度調査（44.4%）が令和3年度調査（52.2%）を7.8ポイント下回っている。

■管理職を目指して働きたくない理由（性別・経年比較：18～59歳対象）



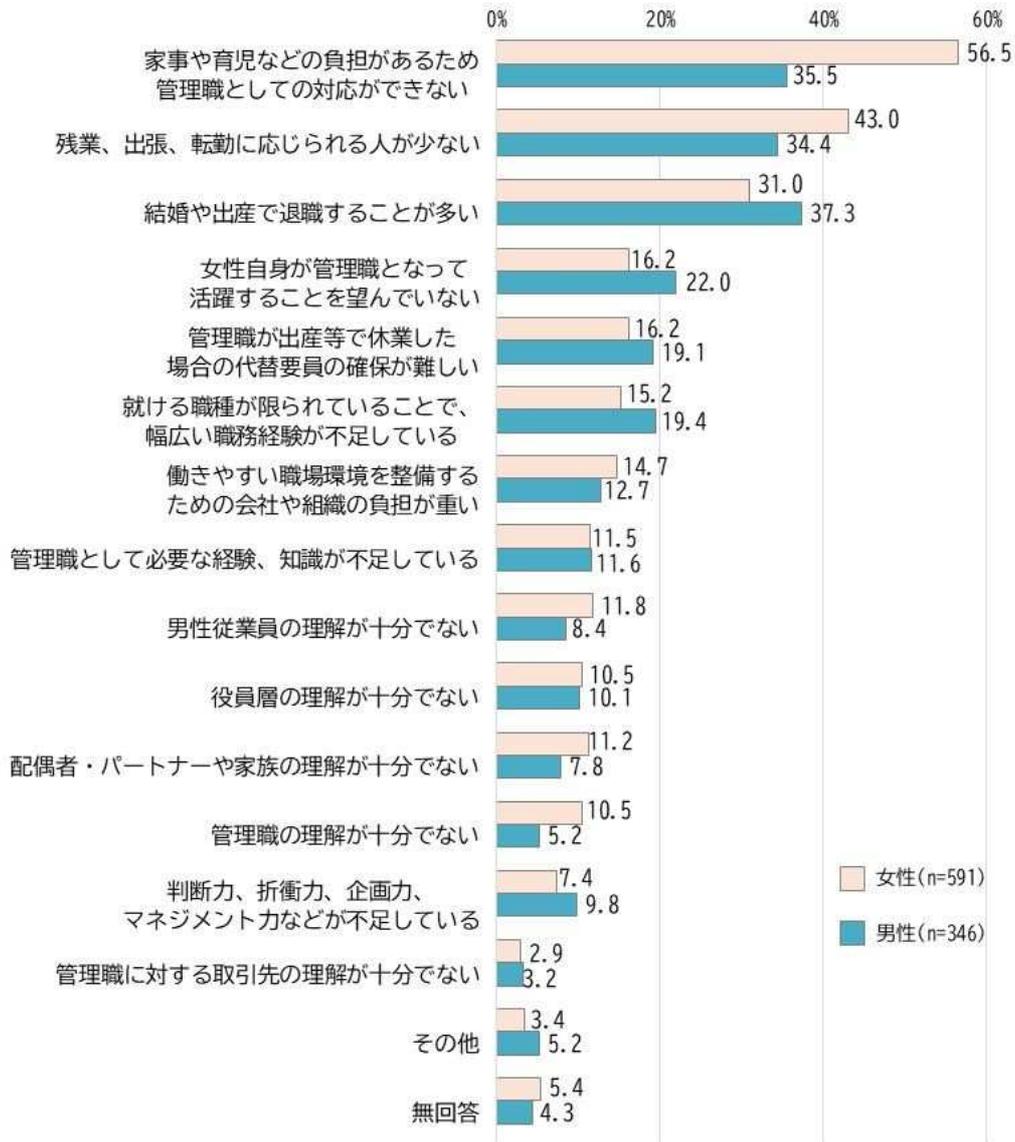
男性の管理職を目指して働きたくない理由について、経年比較すると、「やるべき仕事が増える」との回答は令和7年度調査（51.1%）が令和3年度調査（35.3%）を15.8ポイント、平成30年度調査（26.3%）を24.8ポイント上回っている。

問16 企業や組織における女性の管理職は少ないのが現状ですが、その理由についてどのように
 思いますか。(〇は3つまで)



女性管理職が少ない理由について、「家事や育児などの負担があるため管理職としての対応ができない」との回答は48.5%で最も多く、次に「残業、出張、転勤に応じられる人が少ない」との回答は39.7%、「結婚や出産で退職することが多い」との回答は33.0%となっている。

■女性の管理職が少ない理由（性別）



女性管理職が少ない理由について、性別にみると、「家事や育児などの負担があるため管理職としての対応ができない」との回答は女性（56.5%）が男性（35.5%）を 21.0 ポイント、「残業、出張、転勤に応じられる人が少ない」との回答は女性（43.0%）が男性（34.4%）を 8.6 ポイント上回っている。一方、「結婚や出産で退職することが多い」との回答は男性（37.3%）が女性（31.0%）を 6.3 ポイント上回っている。

■女性の管理職が少ない理由（年代別）

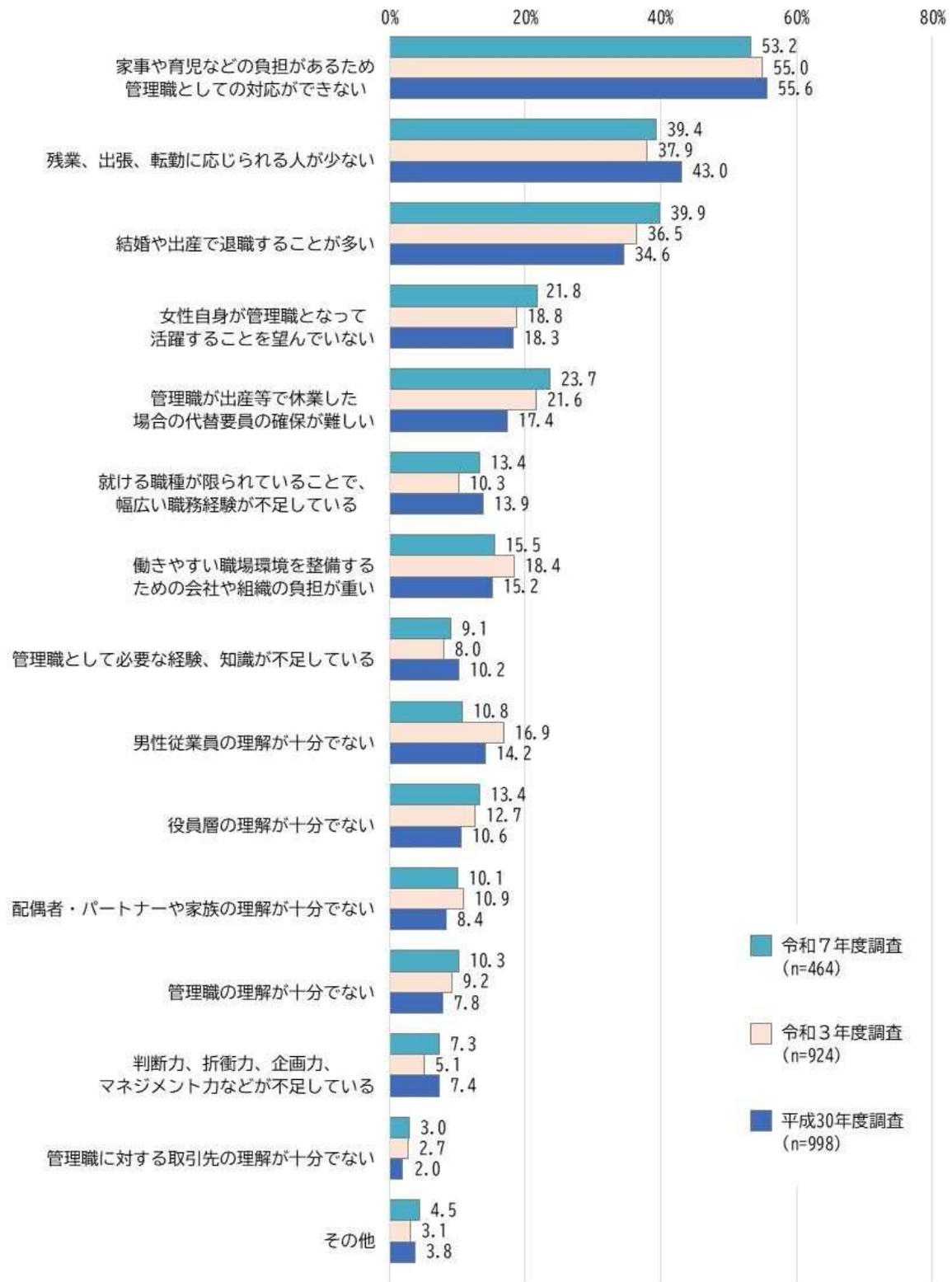
(%)

	家事や育児などの負担があるため 管理職としての対応ができない	残業、出張、転勤に応じられる人が少ない	結婚や出産で退職することが多い	女性自身が管理職となっていない 活躍することを望んでいない	管理職が出産等で休業した場合の 代替要員の確保が難しい	就ける職種が限られていることで、 幅広い職務経験が不足している	働きやすい職場環境を整備する ための会社や組織の負担が重い	管理職として必要な経験、知識が 不足している	男性従業員の理解が十分でない	役員層の理解が十分でない	配偶者・パートナーや家族の理解が 十分でない	管理職の理解が十分でない	判断力、折衝力、企画力、 マネジメント力などが不足している	管理職に対する取引先の理解が十分 でない	その他	無回答
全体(n=954)	48.5	39.7	33.0	18.2	17.3	16.7	14.3	11.3	10.6	10.6	9.9	8.8	8.2	2.9	4.0	5.3
20歳未満(n=11)	36.4	36.4	36.4	27.3	18.2	18.2	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0
20代(n=57)	45.6	33.3	57.9	21.1	24.6	14.0	21.1	5.3	7.0	10.5	3.5	7.0	5.3	1.8	1.8	3.5
30代(n=71)	66.2	38.0	29.6	23.9	26.8	7.0	12.7	14.1	18.3	12.7	4.2	9.9	5.6	1.4	7.0	0.0
40代(n=145)	53.1	44.1	44.1	22.1	24.8	11.0	16.6	6.9	12.4	13.8	15.2	10.3	6.9	3.4	4.1	0.0
50代(n=182)	51.1	37.9	34.6	20.3	21.4	17.0	13.2	10.4	7.7	14.3	11.0	11.5	8.2	3.3	4.9	0.0
60代(n=184)	49.5	47.3	26.6	19.0	15.2	16.8	16.3	12.0	12.5	9.2	9.8	9.2	8.7	2.2	1.6	1.6
70代(n=192)	42.2	42.2	27.6	12.5	10.4	24.5	13.0	15.6	10.9	7.8	10.4	4.2	8.3	3.6	4.7	7.8
80歳以上(n=100)	41.0	25.0	25.0	12.0	6.0	18.0	7.0	13.0	7.0	7.0	8.0	11.0	12.0	3.0	5.0	25.0

■ 上位1位 ■ 上位2～3位 ※順位はその他、無回答を除く

女性管理職が少ない理由について、年代別にみると、上位3位は同じであった。4番目は20歳未満及び60代で「女性自身が管理職となって活躍することを望んでいない」、20代～50代では「管理職が出産等で休業した場合の代替要員の確保が難しい」であった。

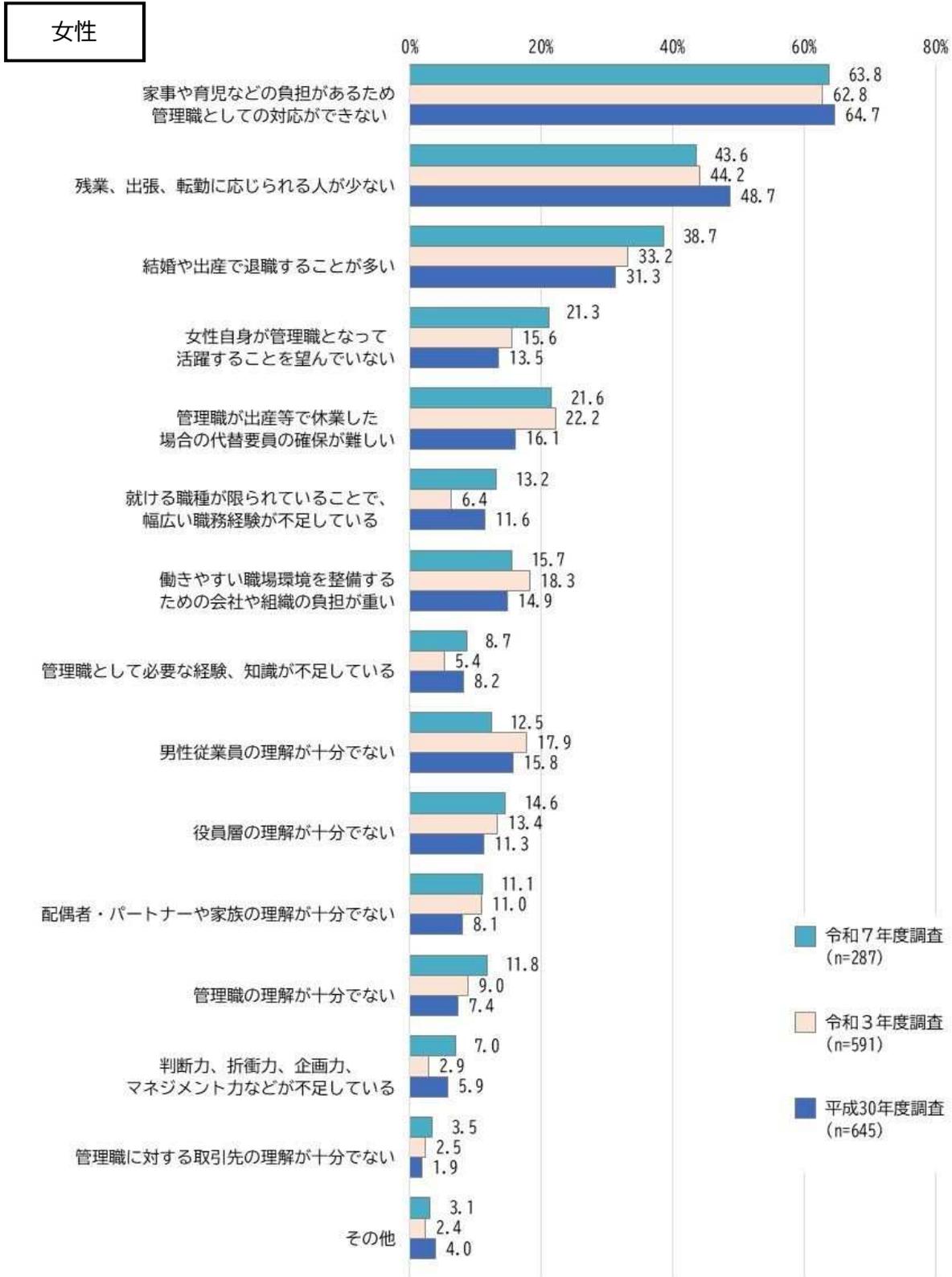
■管理職が少ない理由（経年比較：18～59歳対象）



女性の管理職が少ない理由について、経年比較すると、「家事や育児などの負担があるため管理職としての対応ができない」との回答は令和7年度調査（53.2%）が令和3年度調査（55.0%）を1.8ポイント、平成30年度調査（55.6%）を2.4ポイント下回っている。

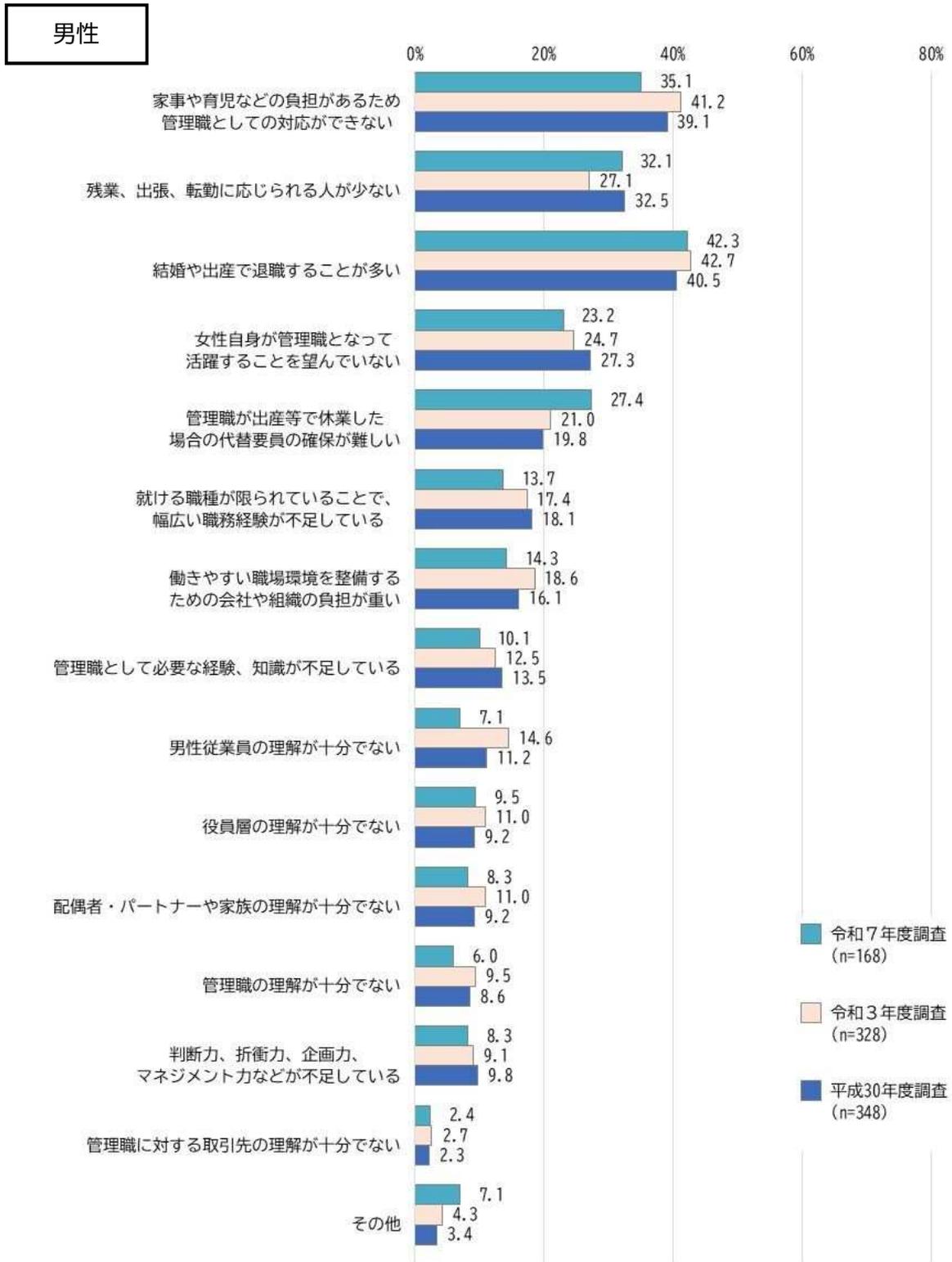
一方、「就ける職種が限られていることで、幅広い職務経験が不足している」との回答は令和7年度調査（13.4%）が令和3年度調査（10.3%）を3.1ポイント上回っている。

■女性の管理職が少ない理由（性別・経年比較：18～59歳対象）



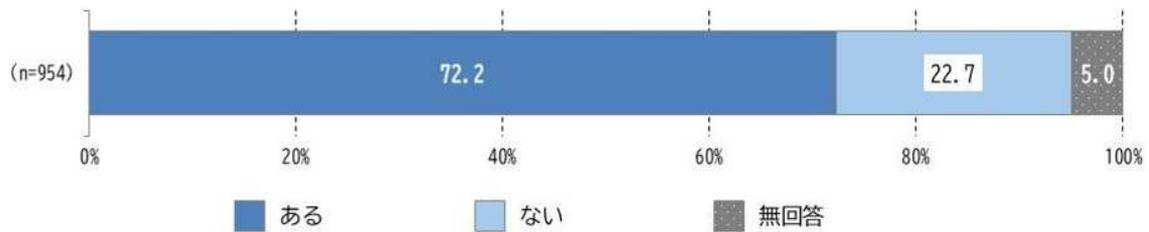
女性で、女性の管理職が少ない理由について経年比較すると、「就ける職種が限られていることで、幅広い職務経験が不足している」との回答は令和7年度調査(13.2%)が令和3年度調査(6.4%)を6.8ポイント上回っている一方、「男性従業員の理解が十分でない」との回答は令和7年度調査(12.5%)が令和3年度調査(17.9%)を5.4ポイント下回っている。

■女性の管理職が少ない理由（性別・経年比較：18～59歳対象）



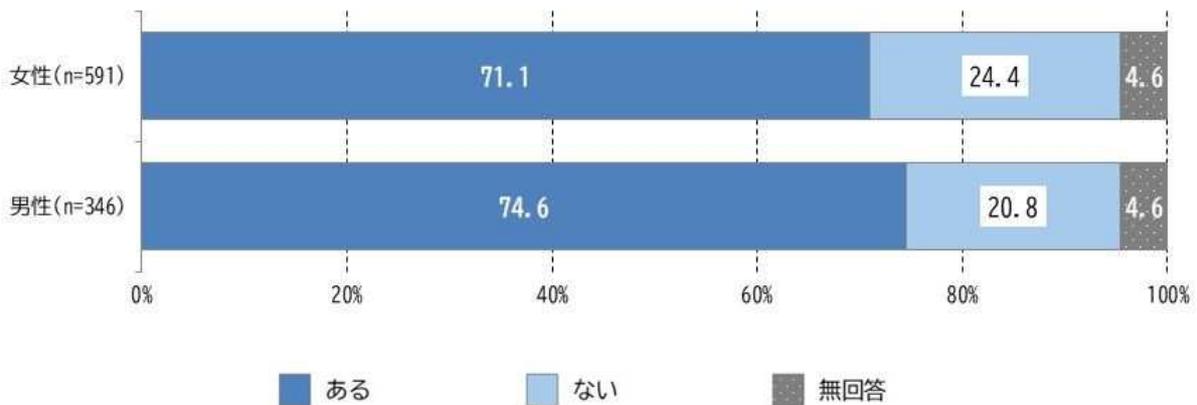
男性で、女性の管理職が少ない理由について経年比較すると、「管理職が出産等で休業した場合の代替要員の確保が難しい」との回答は令和7年度調査（27.4%）が令和3年度調査（21.0%）を6.4ポイント上回っている。また、「男性従業員の理解が十分でない」との回答は令和7年度調査（7.1%）が令和3年度調査（14.6%）を7.5ポイント下回っている。

問17 就労している時に結婚のご経験がありますか。



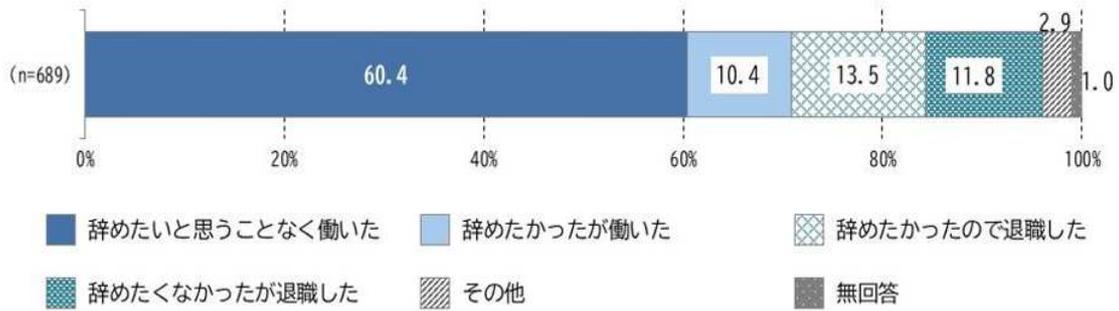
就労している時の結婚の経験の有無について、「ある」との回答は72.2%で最も多く、「ない」との回答は22.7%となっている。

■就労している時の結婚の経験（性別）



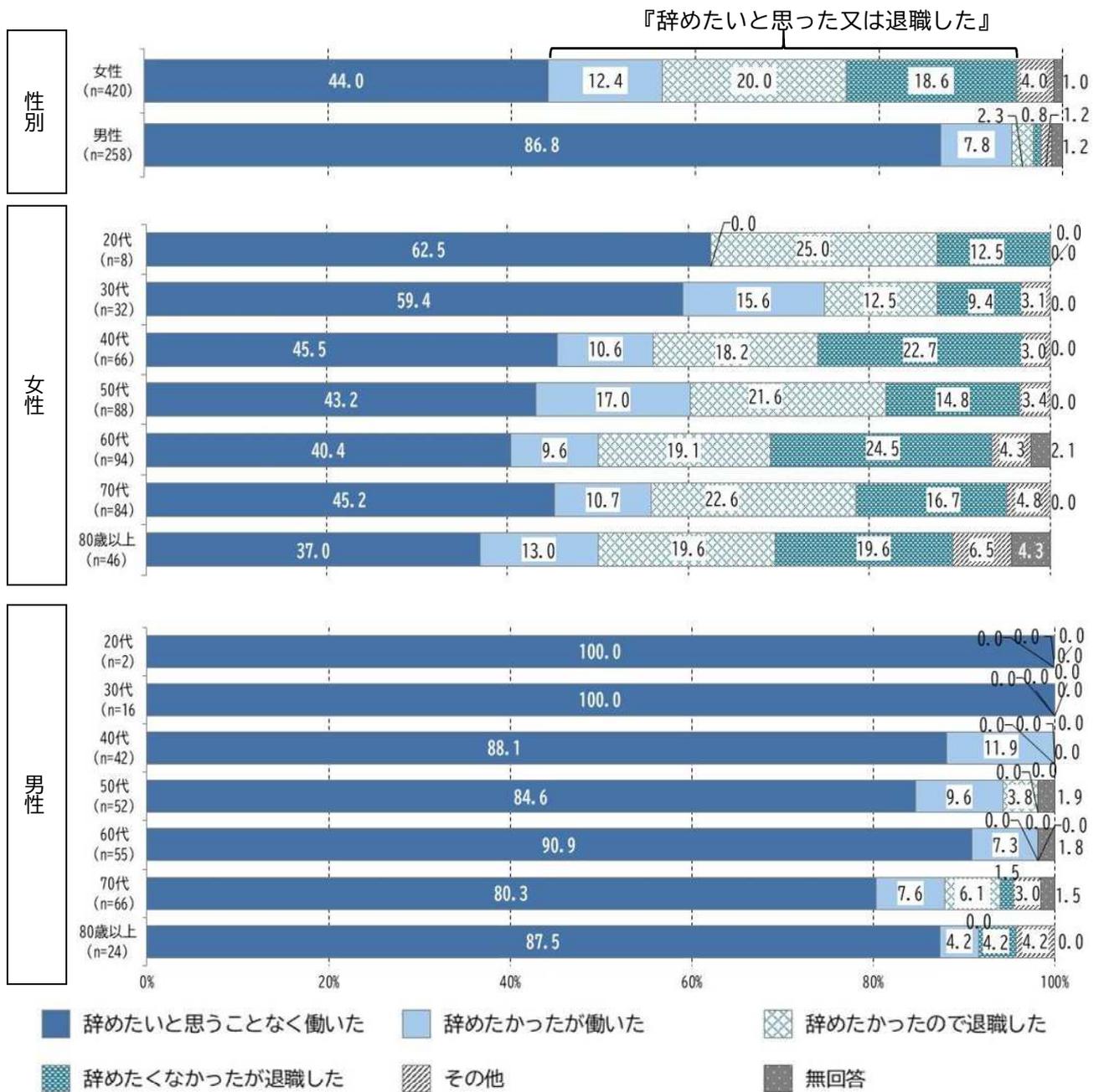
就労している時に結婚の経験があるかについて、性別にみると、「ある」との回答は男性（74.6%）が女性（71.1%）を3.5ポイント上回っている。

問17-1(1) 結婚した時の仕事に対する思いと仕事の継続に関する決定として、あてはまるものをお選びください。



結婚した際の仕事に対する考えと継続状況について、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は60.4%で最も多く、次に「辞めたかったのに退職した」との回答は13.5%、「辞めたくなかったが退職した」との回答は11.8%となっている。

■結婚の際の仕事に対する考えと継続状況（性別、性・年代別）

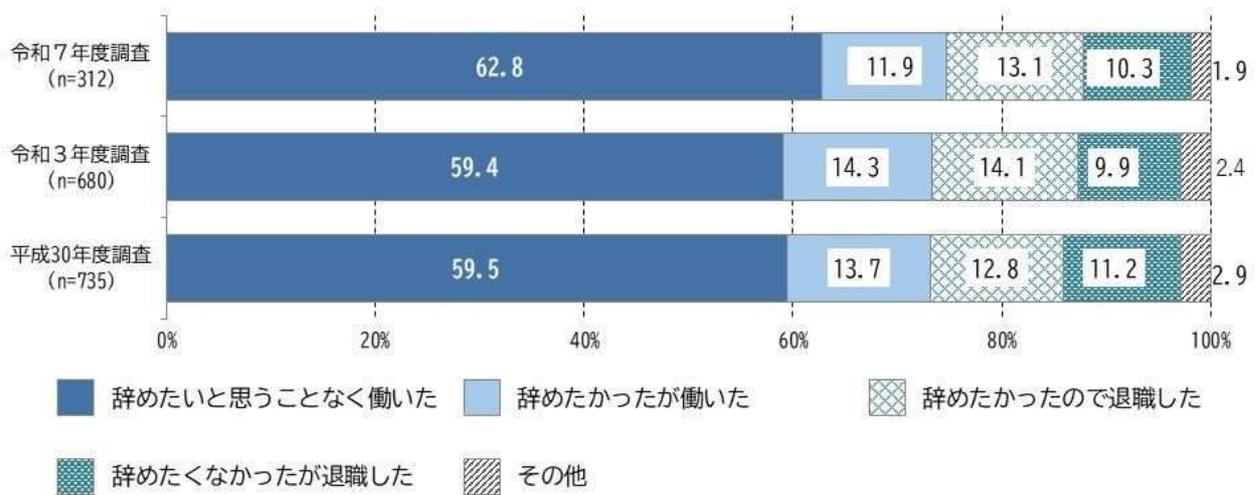


※20歳未満は該当者なし

結婚の際の仕事に対する考えと継続状況について、性別にみると、女性の約半数（51.0%）は『辞めたいと思った又は退職した』（『辞めたかったが働いた』、『辞めたかったのに退職した』及び『辞めたくなかったが退職した』を合わせた割合）と回答しており、男性（10.9%）を40.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『辞めたいと思った又は退職した』との回答は男性のすべての年代で2割以下に対し、女性の20代、30代で3割超、40代以上では5割超となっている。

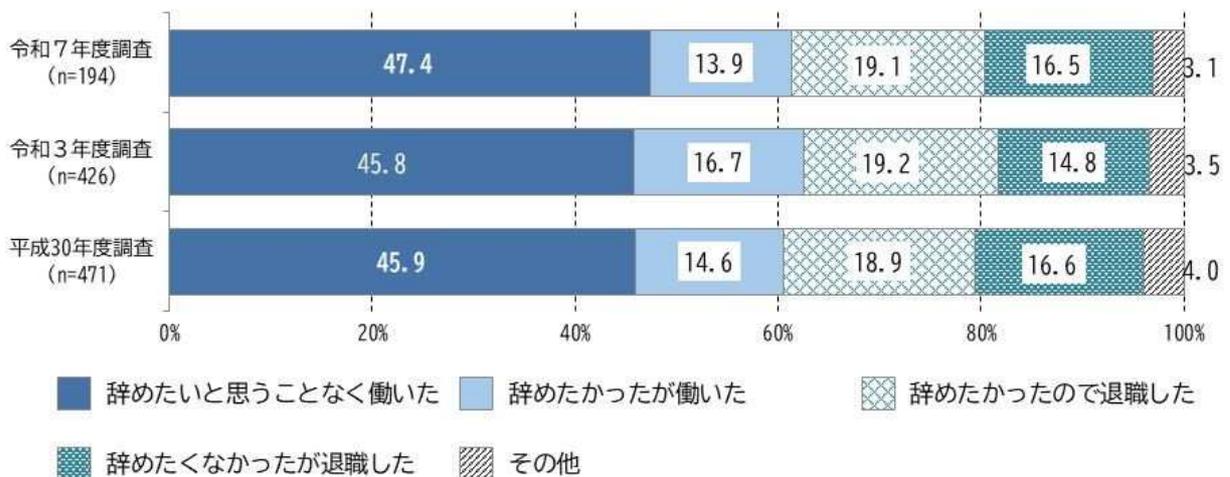
■結婚した際の仕事に対する考えと継続状況について（経年比較：18～59 歳対象）



結婚した際の仕事に対する考えと継続状況について、経年比較すると、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は令和7年度調査（62.8%）が令和3年度調査（59.4%）を3.4ポイント、平成30年度調査（59.5%）を3.3ポイント上回っている。一方、「辞めたかったが働いた」との回答は令和7年度調査（11.9%）が令和3年度調査（14.3%）を2.4ポイント下回っている。また、「辞めたくなかったが退職した」との回答は令和7年度調査（10.3%）で、令和3年度調査（9.9%）、平成30年度調査（11.2%）と比べ大きな差はみられない。

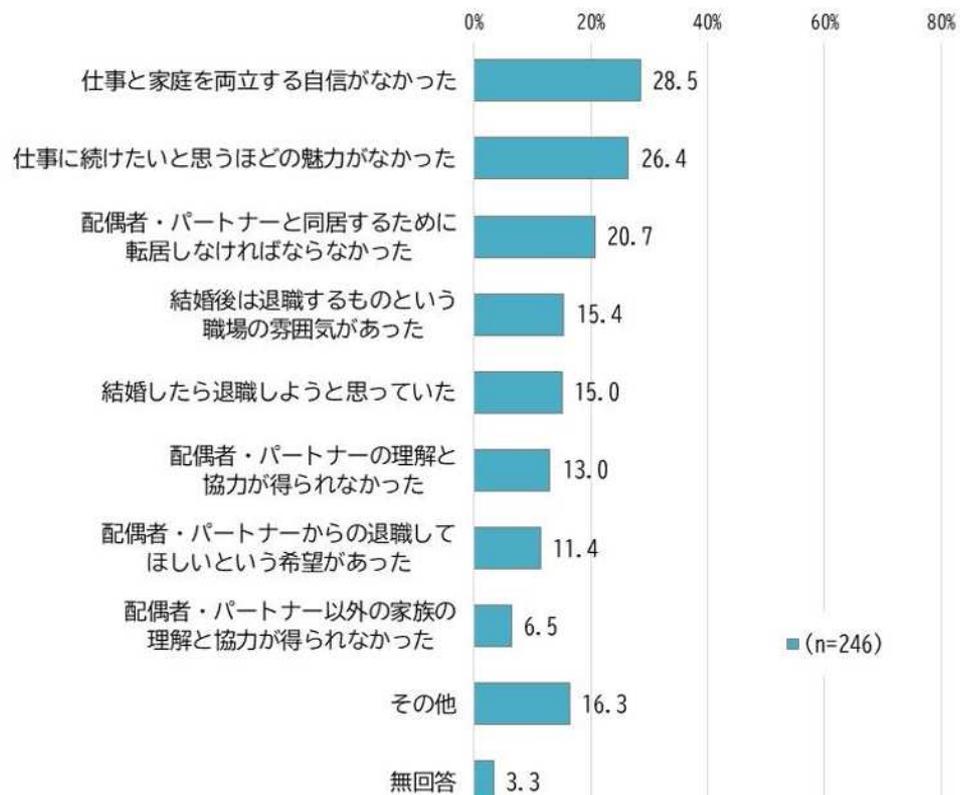
■結婚した際の仕事に対する考えと継続状況について（性別・経年比較：18～59 歳対象）

女性



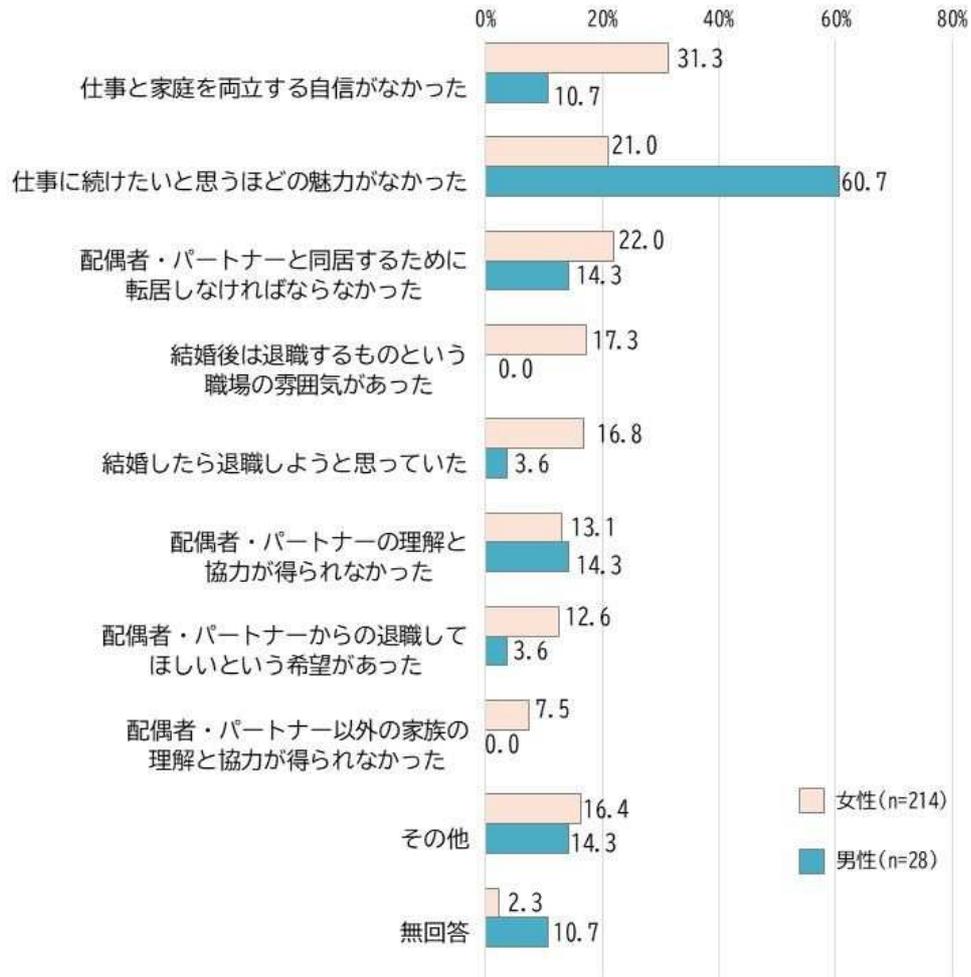
女性で、結婚した際の仕事に対する考えと継続状況について経年比較すると、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は令和7年度調査（47.4%）が平成26年度調査（41.3%）を6.1ポイント上回っている。また、「辞めたくなかったが退職した」との回答は令和7年度調査（16.5%）が平成26年度調査（22.2%）を5.7ポイント下回っている。

問17-1(2) 結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由 (〇は3つまで)



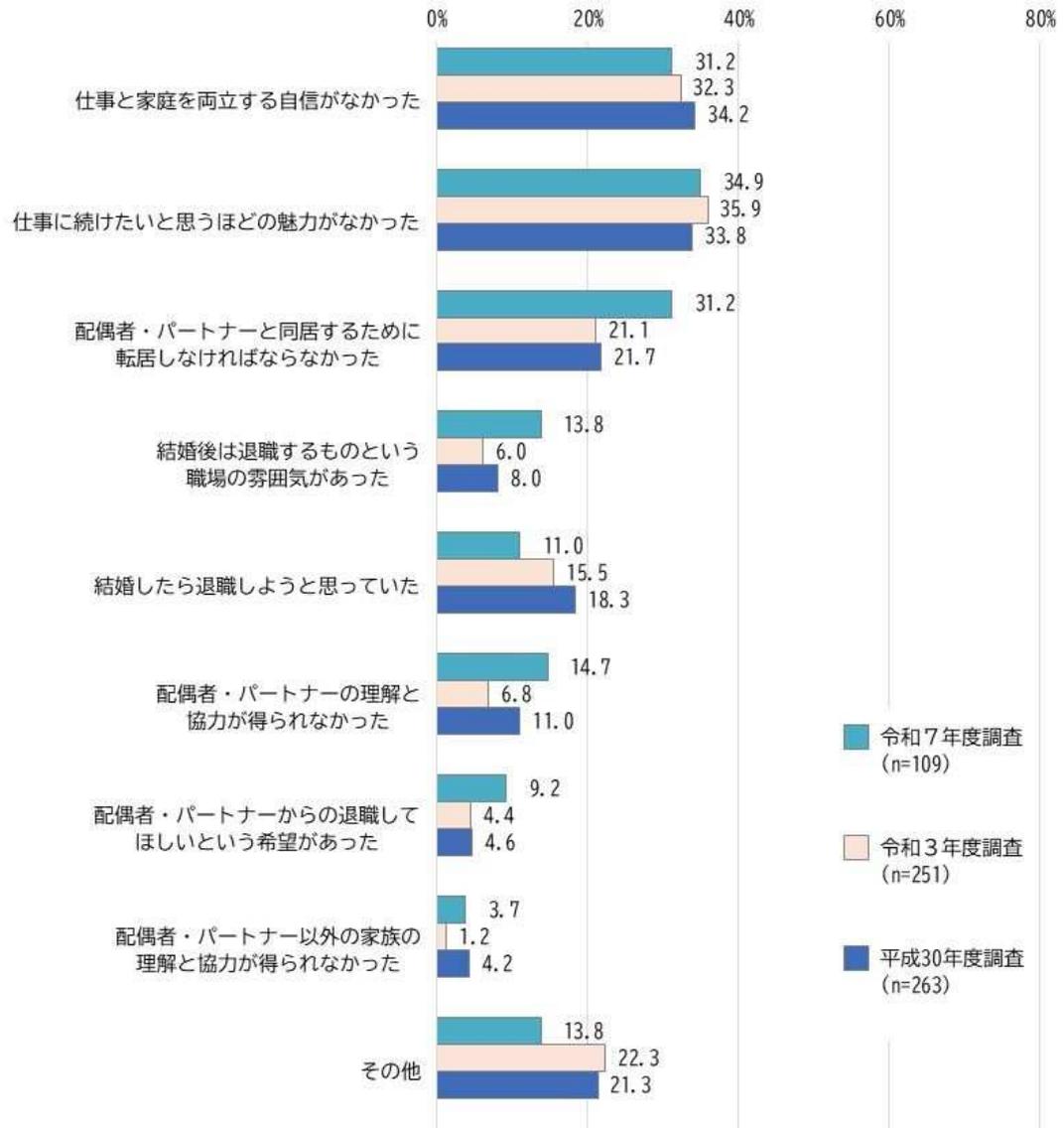
結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、「仕事と家庭を両立する自信がなかった」との回答は28.5%で最も多く、次に「仕事に続けたいと思うほどの魅力がなかった」との回答は26.4%、「配偶者・パートナーと同居するために転居しなければならなかった」との回答は20.7%となっている。

■結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由（性別）



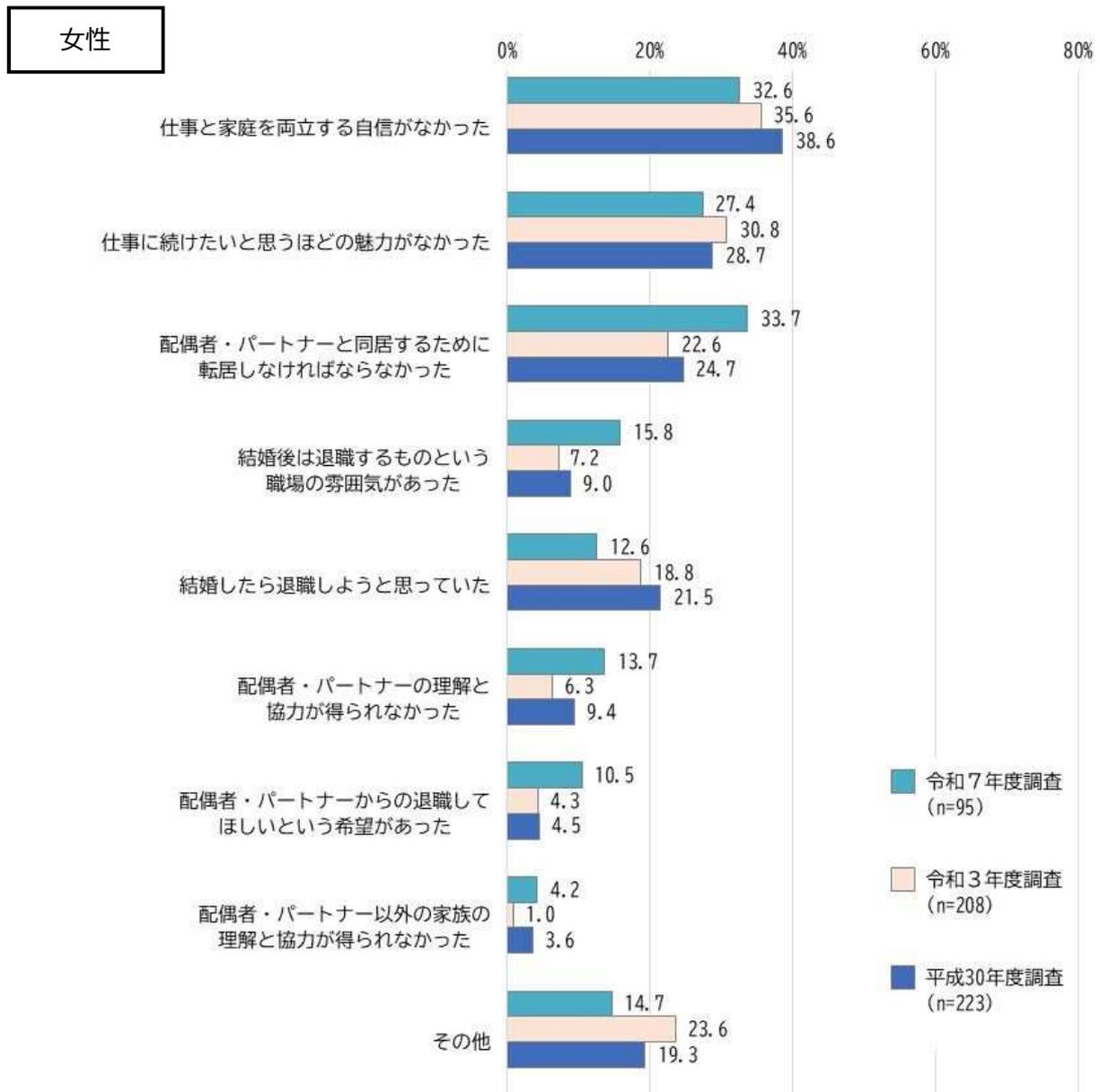
結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、性別にみると、「仕事と家庭を両立する自信がなかった」との回答は女性（31.3%）が男性（10.7%）を20.6ポイント上回っている。

■結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由（経年比較：18～59歳対象）



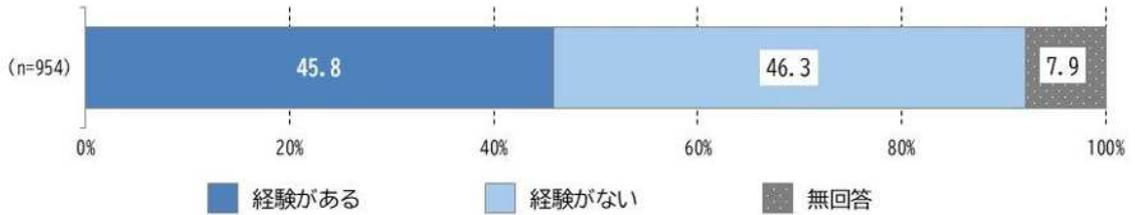
結婚した際に仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、経年比較すると、「配偶者・パートナーと同居するために転居しなければならなかった」との回答は、令和7年度調査（31.2%）が令和3年度調査（21.1%）を10.1ポイント上回っている。一方、「結婚したら退職しようと思っていた」との回答は令和7年度調査（11.0%）が令和3年度調査（15.5%）を4.5ポイント、平成30年度調査（18.3%）を7.3ポイント下回っている。

■結婚した際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由（性別・経年比較：18～59歳対象）



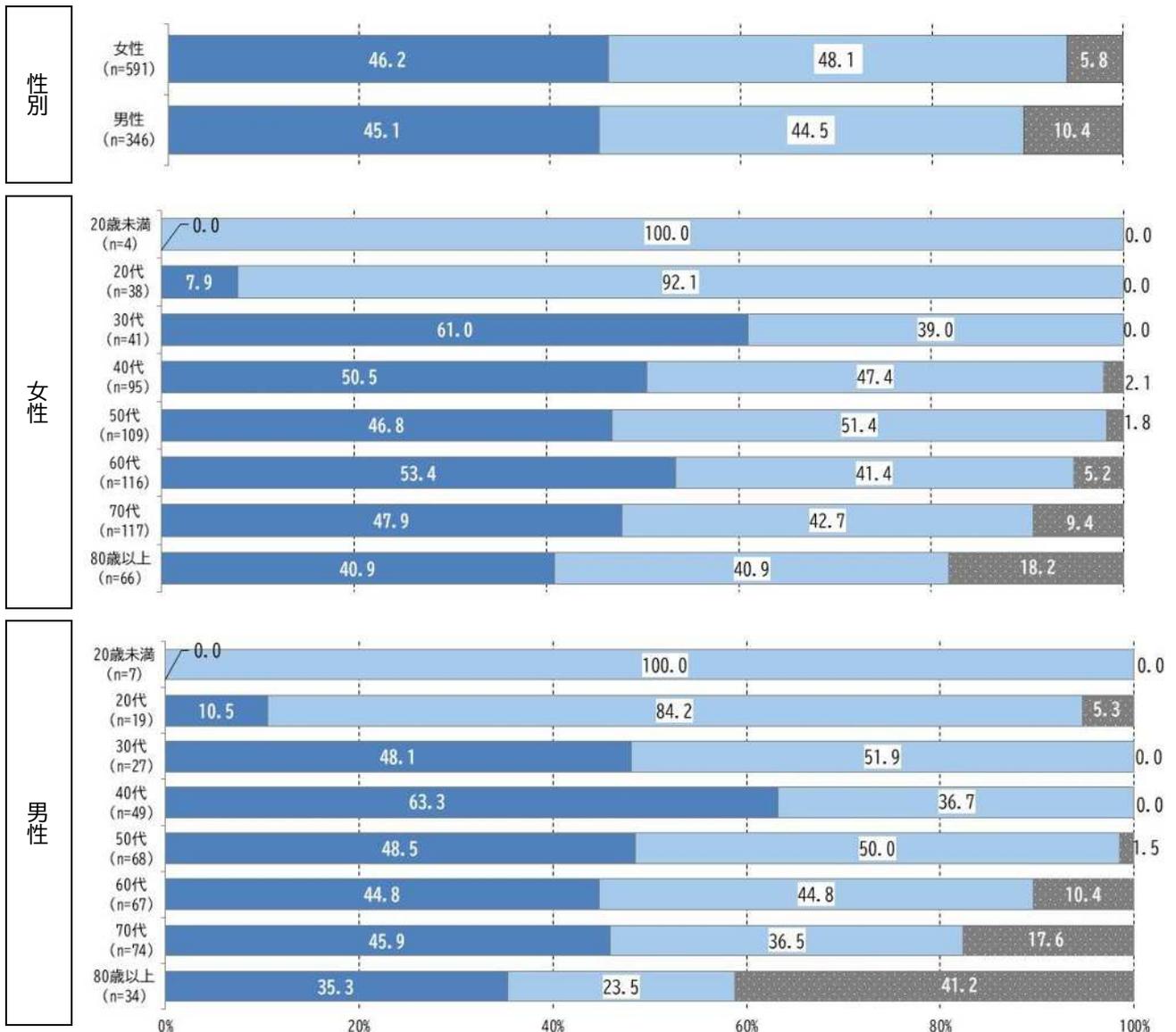
女性で、結婚した際に仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、経年比較すると、「配偶者・パートナーと同居するために転居しなければならなかった」との回答は令和7年度調査（33.7%）が令和3年度調査（22.6%）を11.1ポイント上回っている。また、「結婚したら退職しようと思っていた」との回答は令和7年度調査（12.6%）が令和3年度調査（18.8%）を6.2ポイント下回っている。

問18 就労している時に出産又は育児のご経験がありますか。



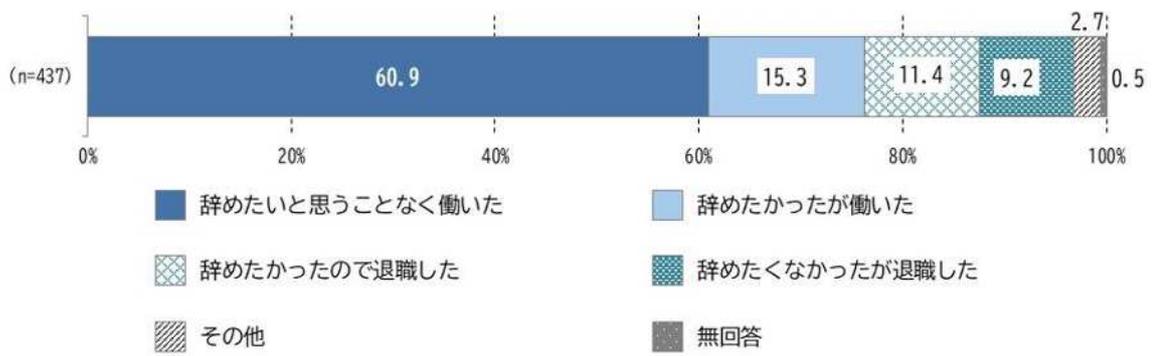
就労している時に出産又は育児の経験の有無について「経験がない」との回答は46.3%で最も多く、「経験がある」との回答は45.8%となっている。

■就労している時に出産又は育児の経験（性別、性・年代別）



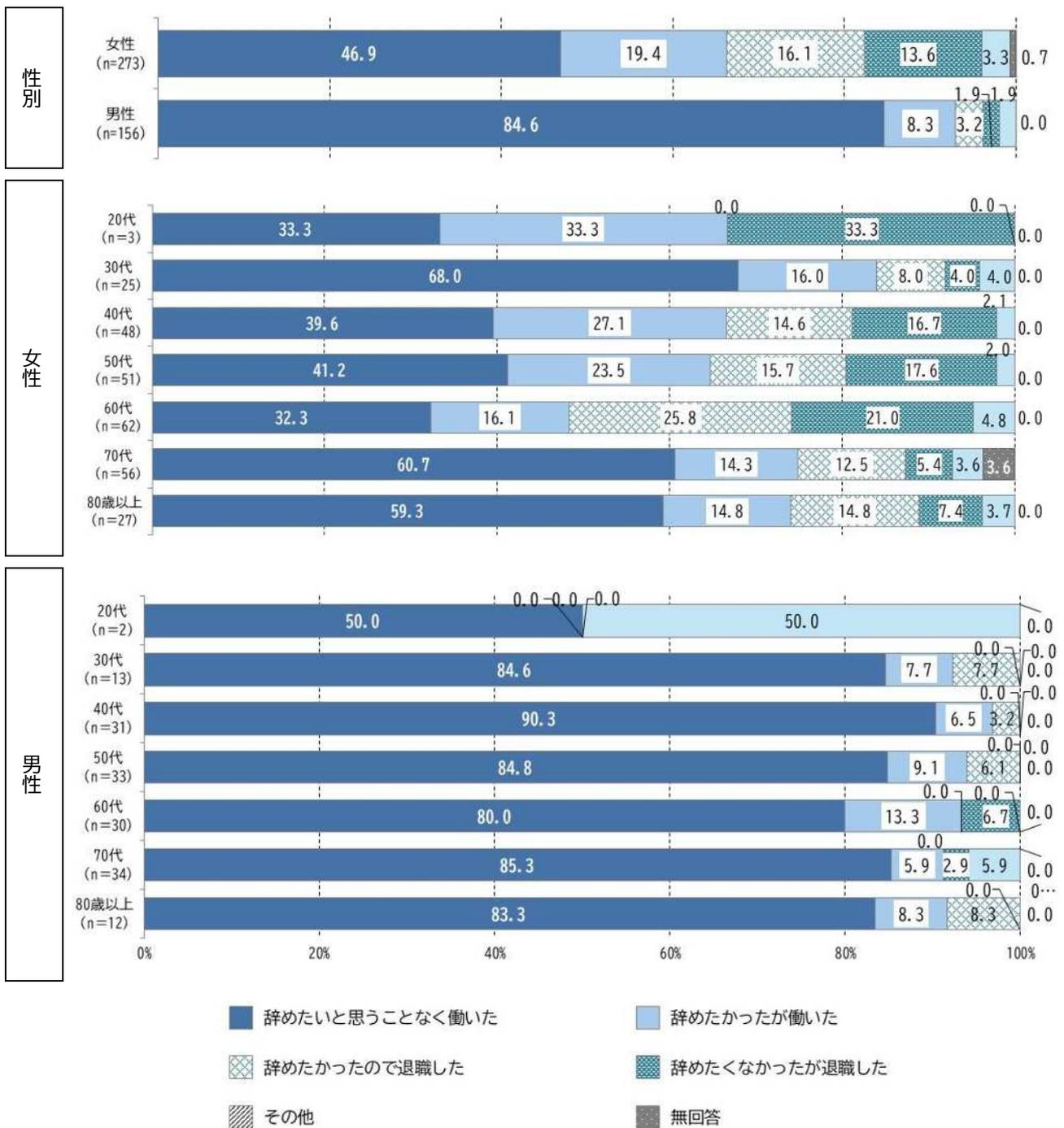
就労している時に出産又は育児の経験について、性別にみると、「経験がある」との回答は女性(46.2%)、男性(45.1%)で変わらない。性・年代別にみると、「経験がある」との回答は30代では女性(61.0%)が男性(48.1%)を12.9ポイント上回っている。

問18-1(1) 出産又は育児に際しての仕事に対する思いと仕事の継続に関する決定として、あてはまるものをお選びください。



出産又は育児に際しての仕事に対する考えと継続状況について、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は60.9%で最も多く、次に「辞めたかったが働いた」との回答は15.3%、「辞めたかったので退職した」との回答は11.4%となっている。

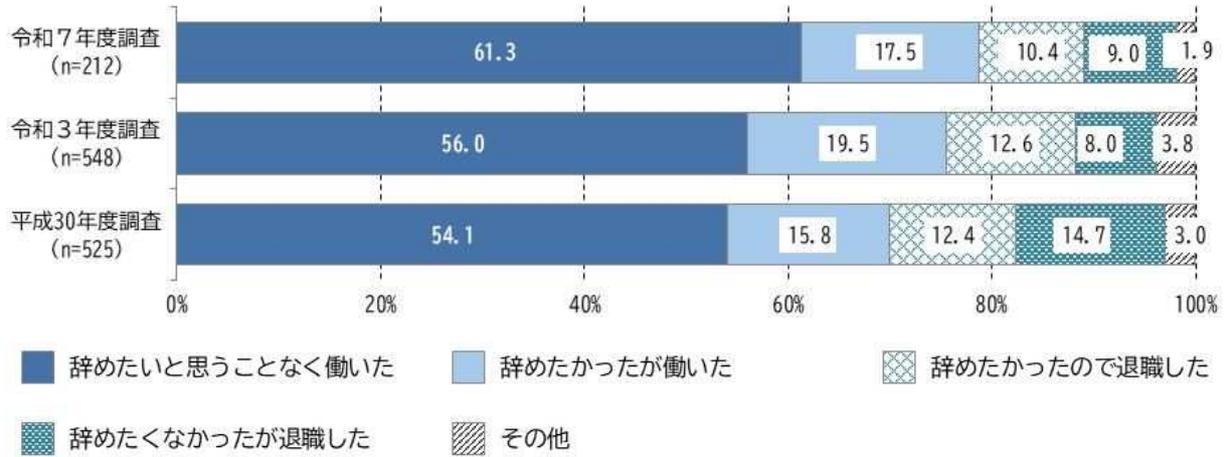
■ 出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況（性別、性・年代別）



※20歳未満は該当者なし

出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況について、「辞めたくなかったが退職した」との回答は、女性の20代(33.3%)、40代(16.7%)、50代(17.6%)、60代(21.0%)となっているが、同じ年代の男性をみると、60代(6.7%)を除いては0.0%となっている。

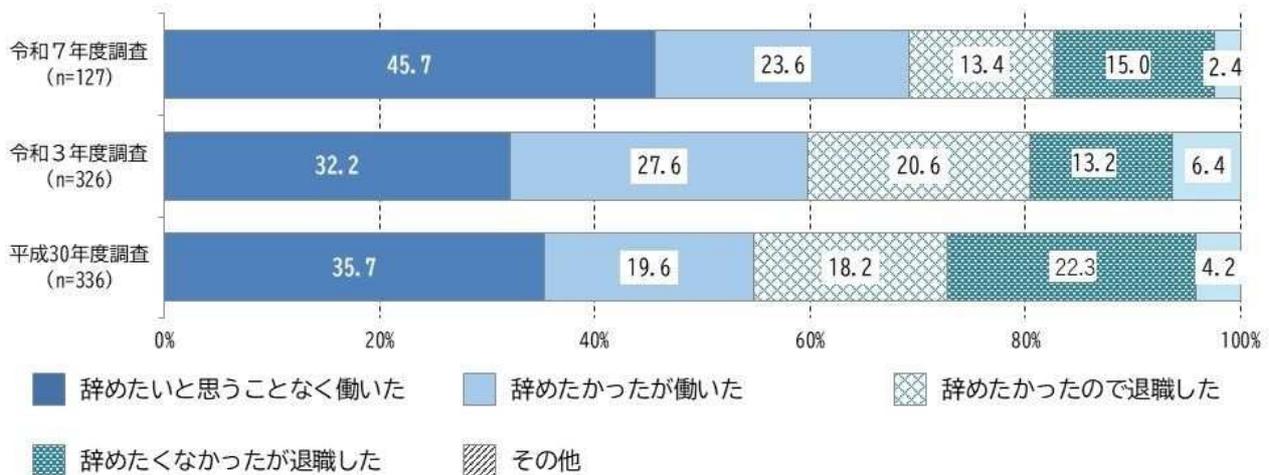
■ 出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況（経年比較：18～59 歳対象）



出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況について、経年比較すると、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は令和7年度調査（61.3%）が令和3年度調査（56.0%）を5.3ポイント、平成30年度調査（54.1%）を7.2ポイント上回っている。一方、「辞めなかったのに退職した」との回答は令和7年度調査（10.4%）が令和3年度調査（12.6%）を2.2ポイント、平成30年度調査（12.4%）を2.0ポイント下回っている。また、「辞めたくなかったが退職した」との回答は令和7年度調査（9.0%）で、令和3年度調査（8.0%）よりやや高いものの、平成30年度調査（14.7%）を5.7ポイント下回っている。

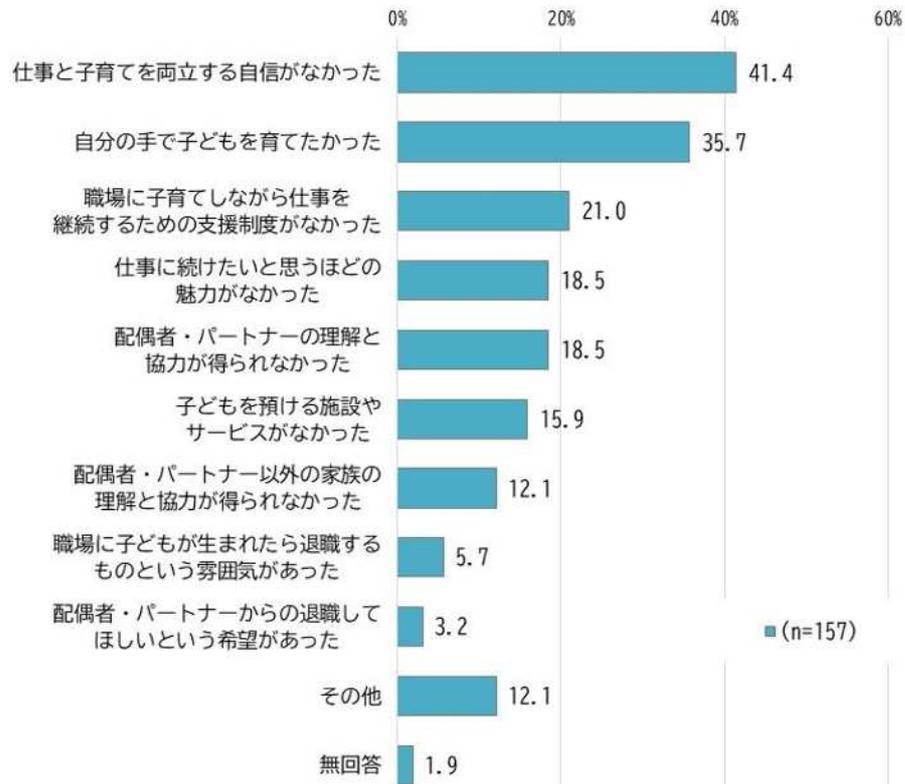
■ 出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況（性別・経年比較：18～59 歳対象）

女性



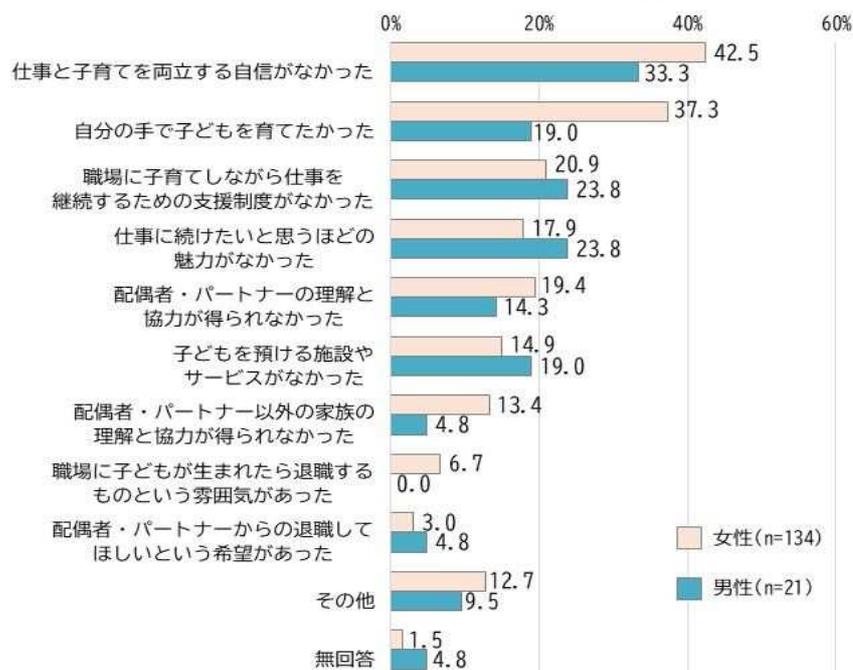
女性で、出産又は育児の際の仕事に対する考えと継続状況について経年比較すると、「辞めたいと思うことなく働いた」との回答は令和7年度調査（45.7%）が令和3年度調査（32.2%）を13.5ポイント上回っている。また、「辞めなかったのに退職した」との回答は令和7年度調査（13.4%）が令和3年度調査（20.6%）を7.2ポイント下回っている。

問18-1(2) 出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由 (〇は3つまで)



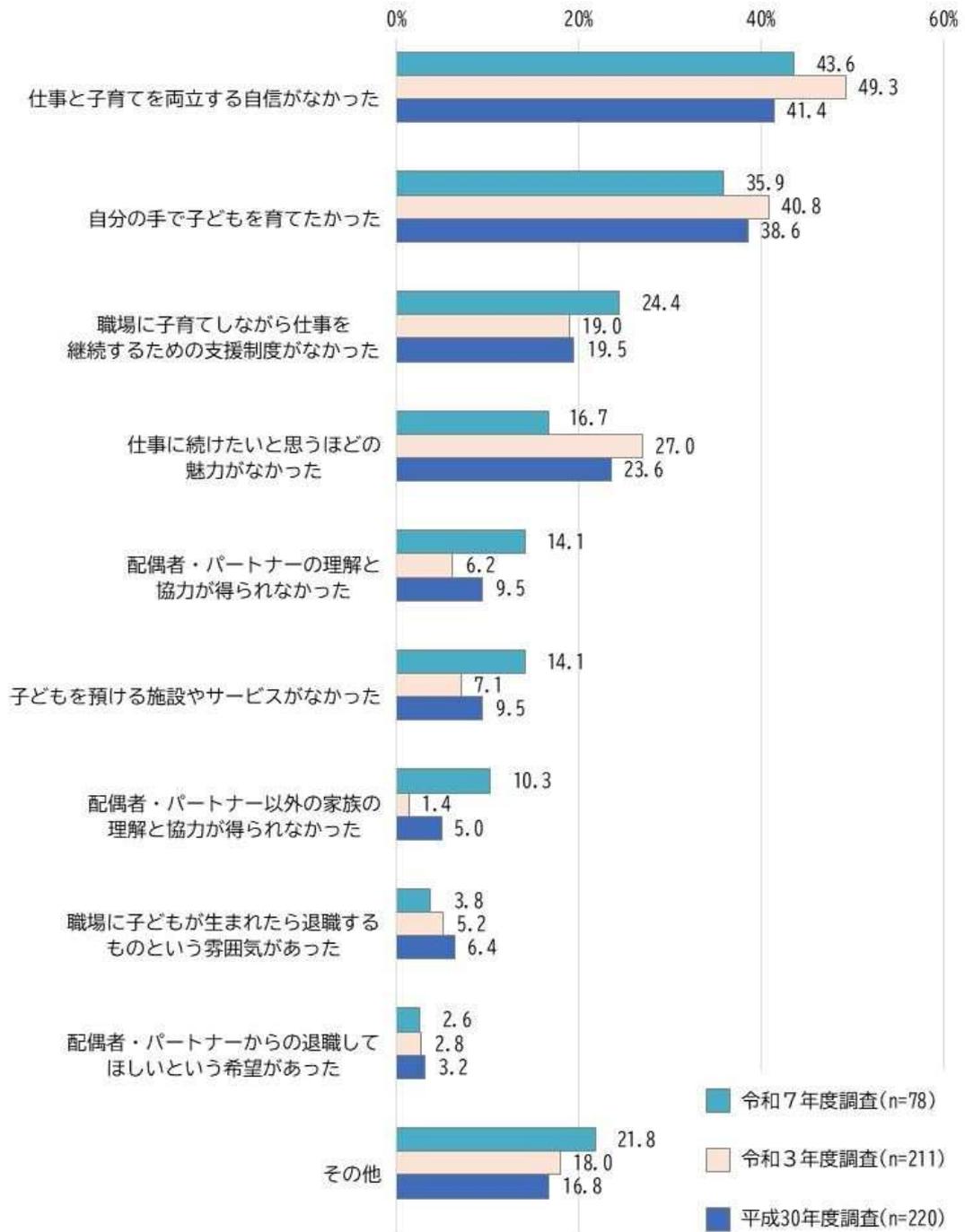
出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、「仕事と子育てを両立する自信がなかった」との回答は41.4%で最も多く、次に「自分の手で子どもを育てたかった」との回答は35.7%、「職場に子育てしながら仕事を継続するための支援制度がなかった」との回答は21.0%となっている。

■ 出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由 (性別)



出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、性別にみると、「自分の手で子どもを育てたかった」との回答は女性(37.3%)が男性(19.0%)を18.3ポイント上回っている。

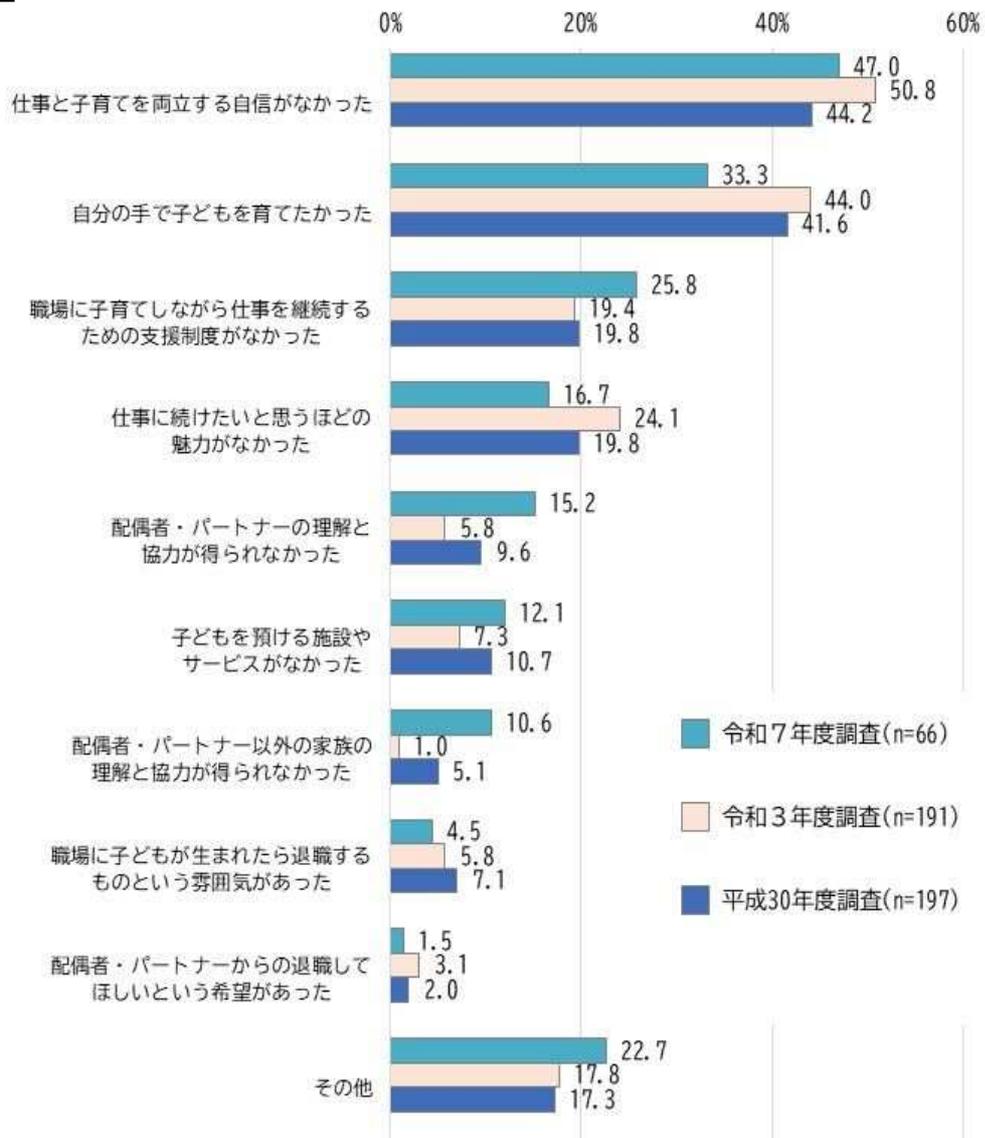
■ 出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由（経年比較：18～59歳対象）



出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について、経年比較すると、「職場に子育てしながら仕事を継続するための支援制度がなかった」との回答は令和7年度調査（24.4%）が令和3年度調査（19.0%）を5.4ポイント、平成30年度調査（19.5%）を4.9ポイント上回っている。また、「仕事に続けたいと思うほどの魅力がなかった」との回答は令和7年度調査（16.7%）が令和3年度調査（27.0%）を10.3ポイント、平成30年度調査（23.6%）を6.9ポイント下回っている。

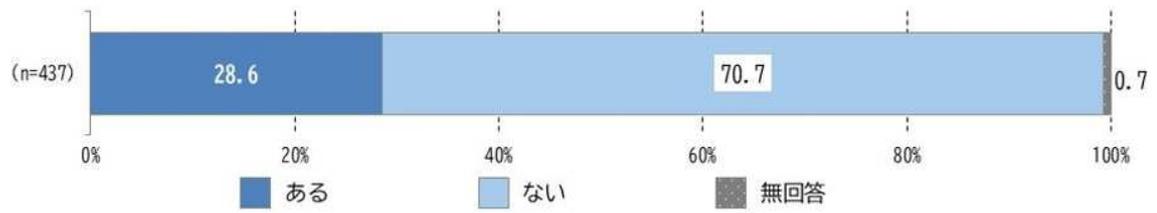
■ 出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由（性別・経年比較：18～59 歳対象）

女性



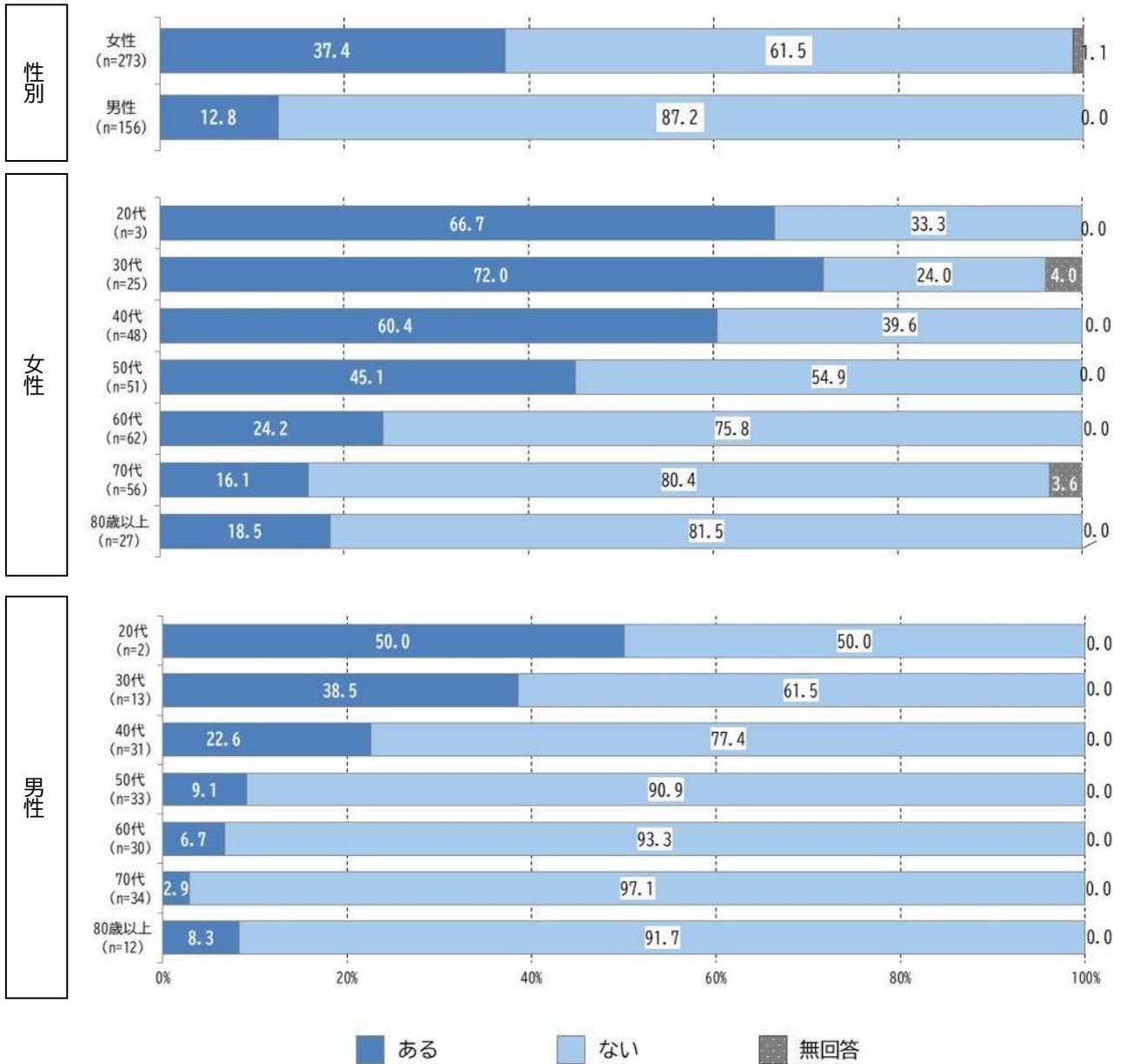
女性で出産又は育児の際、仕事を辞めたいと思った又は退職した理由について経年比較すると、「職場に子育てしながら仕事を継続するための支援制度がなかった」との回答は令和7年度調査（25.8%）が令和3年度調査（19.4%）を6.4ポイント、平成30年度調査（19.8%）を6.0ポイント上回っている。

問19 現在働いている又は過去に働いていた会社や組織において、育児休業を取得した経験はありますか。



育児休業を取得した経験について、「ない」との回答は 70.7%で最も多く、「ある」との回答は 28.6%となっている。

■育児休業の取得経験（性別、性・年代別）

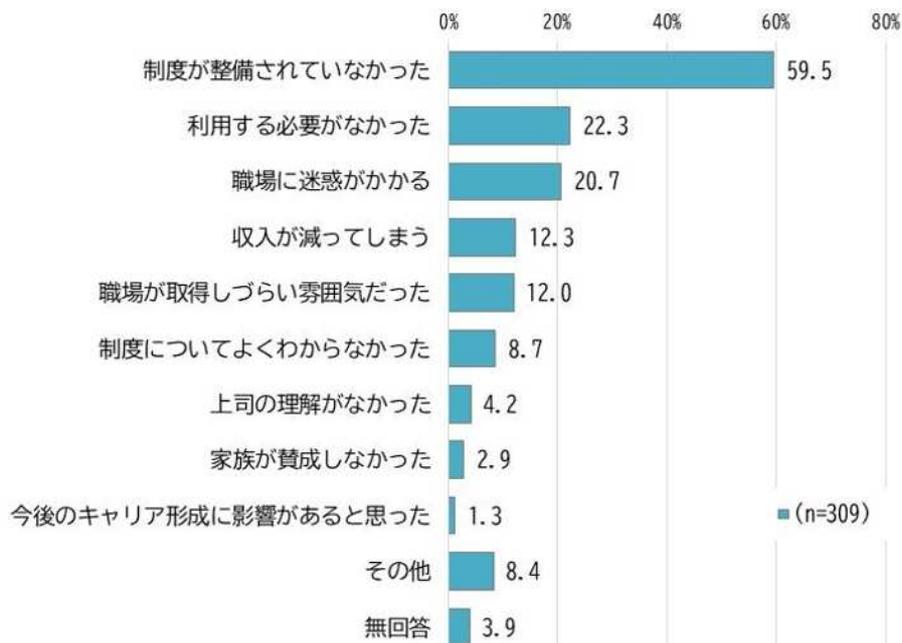


※20歳未満は該当者なし

育児休業取得経験について、性別にみると、「ある」との回答は女性（37.4%）が男性（12.8%）を24.6ポイント上回っている。

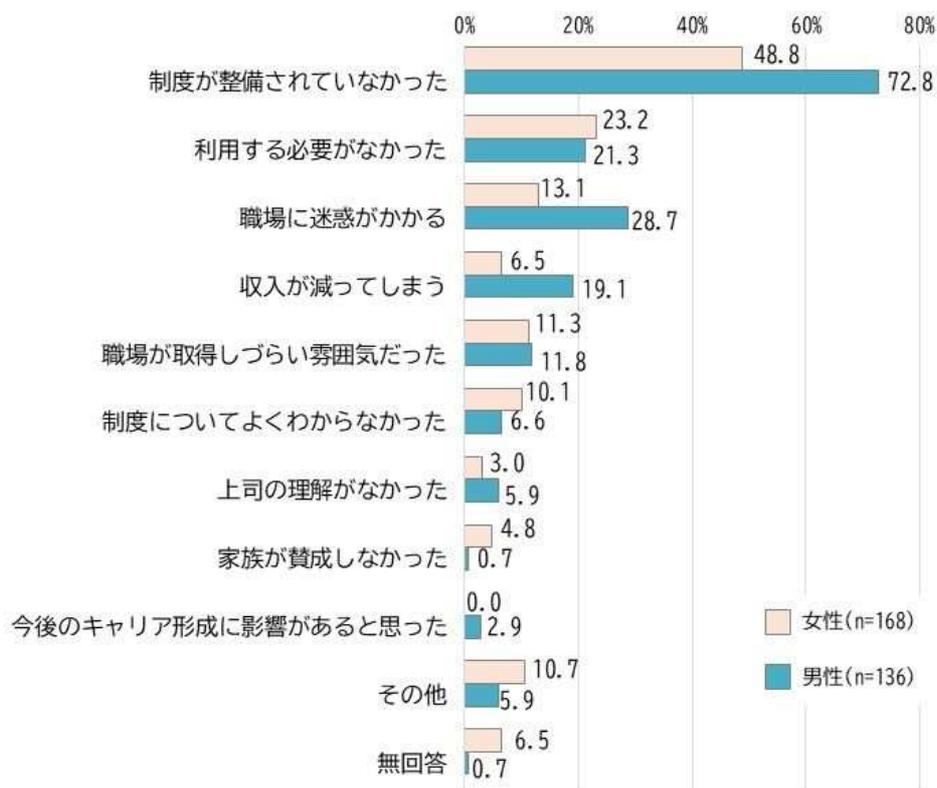
性・年代別にみると、「ある」との回答は女性では30代（72.0%）が最も高く、男性では20代（50.0%）が最も高く、各年代で女性が男性を上回っている。

問19-1 育児休業を利用しなかった理由はどのようなことですか。(〇は3つまで)



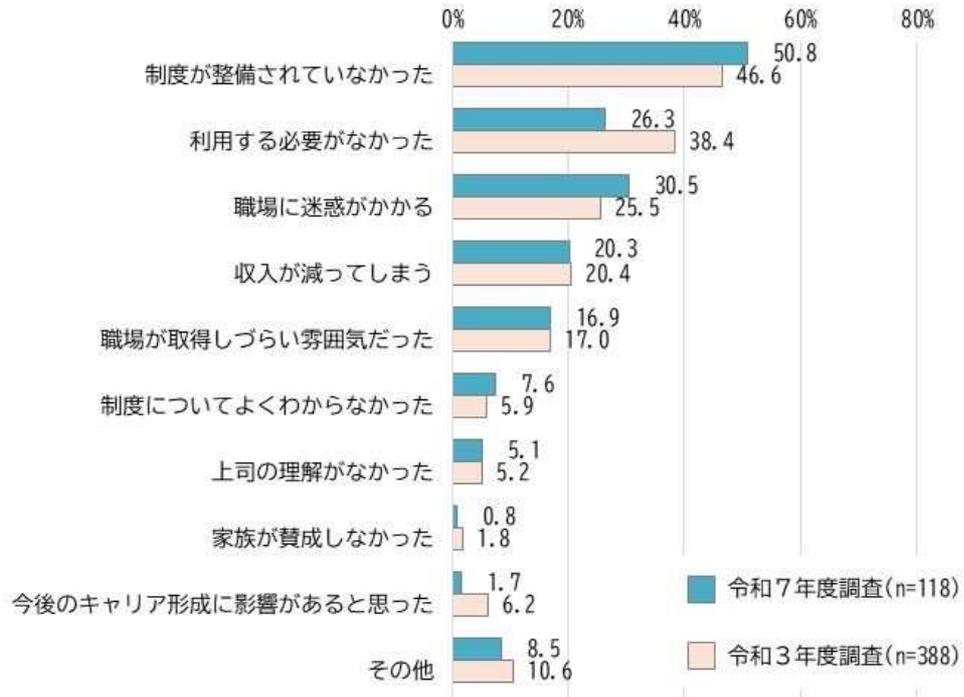
育児休業を利用しなかった理由について、「制度が整備されていなかった」との回答は 59.5%で最も多く、次に「利用する必要がなかった」との回答は 22.3%、「職場に迷惑がかかる」との回答は 20.7%となっている。

■育児休業を利用しなかった理由（性別）



育児休業を利用しなかった理由について、性別にみると、「制度が整備されていなかった」との回答は男性（72.8%）が女性（48.8%）を 24.0 ポイント上回っている。

■育児休業を利用しなかった理由（経年比較：18～59歳対象）



育児休業を利用しなかった理由について経年比較すると、「職場に迷惑がかかる」との回答は令和7年度調査（30.5%）が令和3年度調査（25.5%）を5.0ポイント上回っている。

一方、「利用する必要がなかった」との回答は令和7年度調査（26.3%）が令和3年度調査（38.4%）を12.1ポイント下回っている。